

令和 6 事業年度業務実績報告書

令和 7 年 6 月

独立行政法人大学入試センター

【目 次】

○ 法人の概要.....	1	4 計画的な収支計画の作成.....	61
Ⅰ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する 目標を達成するためとるべき措置.....	6	5 施設・設備に関する計画.....	61
1 大学入学志願者に対し大学が共同して実施することとする試験	6	Ⅳ 短期借入金の限度額.....	63
(1) 共通テストの問題作成.....	7	Ⅴ 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分に 関する計画.....	64
(2) 共通テストの円滑な実施.....	11	Ⅵ 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産以外の 重要な財産の譲渡又は担保に関する計画.....	64
(3) 共通テストの採点・成績提供.....	22	Ⅶ 剰余金の使途.....	64
(4) 高等学校学習指導要領等への対応.....	24	Ⅷ その他主務省令で定める業務運営に関する事項等.....	65
2 大学の入学者選抜方法の改善に関する調査研究.....	28	1 積立金の使途.....	66
(1) 調査研究の在り方及び評価・公表.....	28	2 内部統制.....	66
(2) プロジェクト型研究の推進.....	31	3 トップマネジメントの促進.....	70
(3) 共通テストに関する調査研究.....	32	4 情報システムの整備・管理及び情報セキュリティ.....	70
(4) 大学入学者選抜の基盤的・実践的な調査研究.....	33	5 人材の確保・育成.....	72
(5) 試験情報の活用の促進.....	35	6 関係機関・団体への支援や協働体制の構築・強化.....	76
3 大学情報の提供等.....	37	7 情報の公開.....	78
Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置...	38	(その他).....	80
1 組織体制.....	38		
2 業務運営.....	40		
(1) 効率化の状況、適正な契約等.....	40		
(2) 効率的な試験場の活用、印刷経費等の見直し、デジタル化の 対応、各種会議への参加.....	44		
(3) 予算と実績の管理.....	45		
3 給与水準の適正化.....	46		
Ⅲ 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画.....	49		
1 当該年度に係る予算（人件費見積りを含む。）.....	50		
2 当該年度に係る収支計画.....	54		
3 当該年度に係る資金計画.....	58		

（注）「項目別の状況」の「進捗状況」欄は、次の基準で記載。

S：中期目標管理法人の業績向上努力により、中期計画における所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られていると認められる（定量的指標の対中期計画値（又は対年度計画値）が120%以上で、かつ質的に顕著な成果が得られていると認められる場合、又は定量的指標の対中期計画値（又は対年度計画値）が100%以上で、かつ中期目標において困難度が「高」とされており、かつ質的に顕著な成果が得られていると認められる場合）。

A：中期目標管理法人の業績向上努力により、中期計画における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる（定量的指標の対中期計画値（又は対年度計画値）が120%以上、又は定量的指標の対中期計画値（又は対年度計画値）が100%以上で、かつ中期目標において困難度が「高」とされている場合）。

B：中期計画における所期の目標を達成していると認められる（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の100%以上）。

C：中期計画における所期の目標を下回っており、改善を要する（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の80%以上100%未満）。

D：中期計画における所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の80%未満、又は主務大臣が業務運営の改善その他の必要な措置を講ずることを命ずる必要があると認めた場合）。

なお、「財務内容の改善に関する事項」及び「その他業務運営に関する重要事項」のうち、内部統制に関する評価等、定性的な指標に基づき評価をせざるを得ない場合や、一定の条件を満たすことを目標としている場合など、業務実績を定量的に測定し難い場合には、以下の要領で上記の評定に当てはめることも可能とする。

S：－

A：困難度を高く設定した目標について、目標の水準を満たしている。

B：目標の水準を満たしている（「A」に該当する事項を除く。）。

C：目標の水準を満たしていない（「D」に該当する事項を除く。）。

D：目標の水準を満たしておらず、主務大臣が業務運営の改善その他の必要な措置を講ずることを命ずる必要があると認めた場合を含む、抜本的な業務の見直しが必要

○ 法人の概要

1. 法人名

独立行政法人大学入試センター

2. 所在地

東京都目黒区駒場二丁目 19 番 23 号

3. 役員（令和 6 年 4 月 1 日現在）

理事長 山口 宏樹

理 事 西井 知紀

監 事 東 信彦

監 事（非常勤）大隈 暁子

4. 常勤職員（令和 6 年 4 月 1 日現在）

事務職員 102 人、教員 13 人

5. 資本金 11,592 百万円（令和 6 年 4 月 1 日現在）

6. 法人の目的（独立行政法人大学入試センター法 第 3 条）

独立行政法人大学入試センターは、大学に入学を志願する者に対し大学が共同して実施することとする試験に関する業務等を行うことにより、大学の入学者の選抜の改善を図り、もって大学及び高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。以下同じ。）における教育の振興に資することを目的とする。

7. 業務内容（独立行政法人大学入試センター法 第 13 条）

- ① 大学に入学を志願する者の高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的として大学が共同して実施することとする試験に関し、問題の作成及び採点その他一括して処理することが適当な業務を行うこと。
- ② 大学の入学者の選抜方法の改善に関する調査及び研究を行うこと。
- ③ 大学に入学を志望する者の進路選択に資するための大学に関する情報の提供を行うこと。

8. 沿革

昭和 52 年 5 月 大学入試センター設置

昭和 54 年 1 月 第 1 回共通第 1 次学力試験実施

昭和 63 年 10 月 ハートシステム運用開始

平成 2 年 1 月 第 1 回大学入試センター試験実施

第 1 期 中期目標期間（平成 13 年度～平成 17 年度）

平成 13 年 4 月 独立行政法人大学入試センター設置

平成 15 年 8 月 第 1 回法科大学院適性試験実施

平成 18 年 1 月 英語リスニングテスト導入

第 2 期 中期目標期間（平成 18 年度～平成 22 年度）

平成 22 年 4 月 入学者選抜研究機構発足

平成 22 年 7 月 法科大学院適性試験終了

平成 23 年 3 月 ハートシステム廃止

第 3 期 中期目標期間（平成 23 年度～平成 27 年度）

平成 25 年 3 月 入学者選抜研究機構廃止

第 4 期 中期目標期間（平成 28 年度～令和 2 年度）

平成 28 年 6 月 新テスト実施企画本部を設置

平成 29 年 4 月 新テスト実施企画本部を廃止し新テスト実施企画部を設置

平成 30 年 4 月 新テスト実施企画部に情報システムグループを設置

平成 31 年 4 月 新テスト実施企画部に CBT グループを設置

令和 2 年 4 月 新テスト実施企画部及び入試研究推進課を廃止し試験企画部及び試験企画課を設置

令和 3 年 1 月 第 1 回大学入学共通テスト実施

第 5 期 中期目標期間（令和 3 年度～令和 7 年度）

9. 設立根拠法

独立行政法人通則法（平成 11 年 7 月 16 日法律第 103 号）

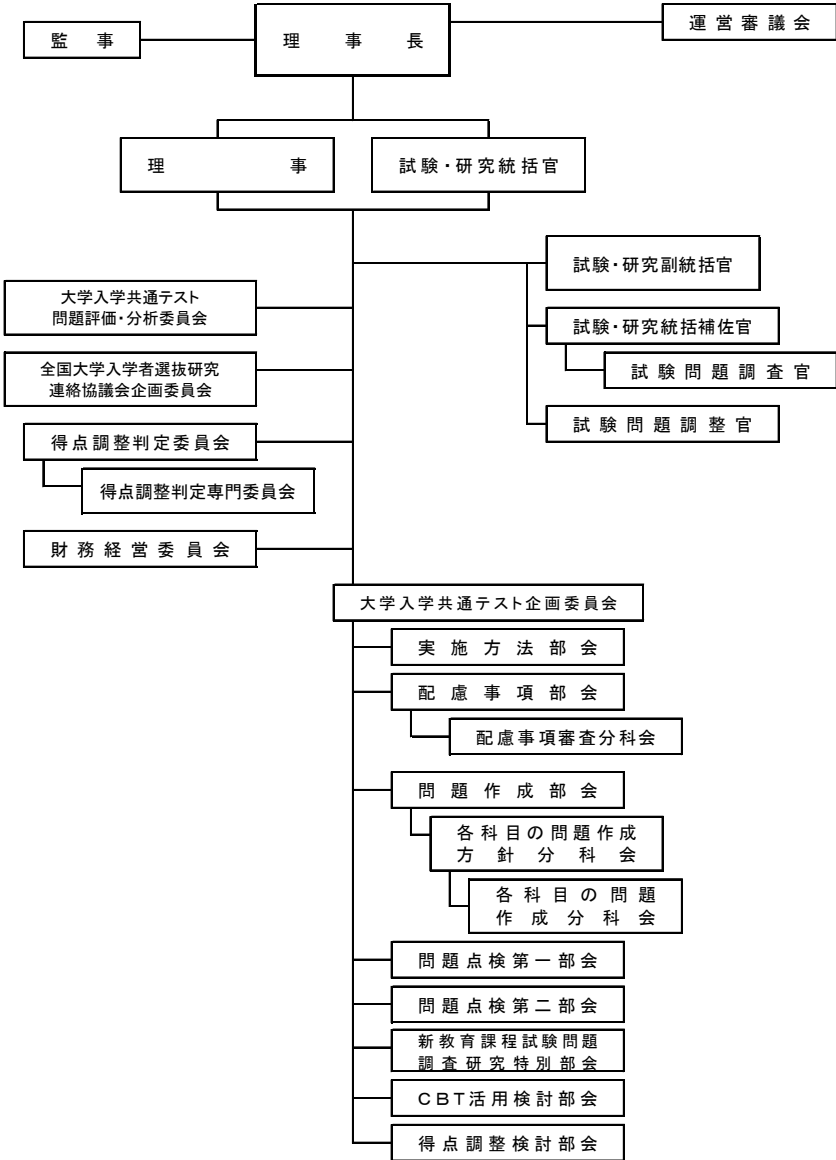
独立行政法人大学入試センター法（平成 11 年 12 月 22 日法律第 166 号）

10. 主務大臣

文部科学大臣

12. 委員会等組織図（令和6年4月1日現在）

(各種委員会の目的、構成は、資料編 p.1～2 【資料1】参照)



中期目標	Ⅲ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 大学入学志願者に対し大学が共同して実施することとする試験 共通テストは、センター法第13条第1項第1号の規定に基づき、多くの大学が入学選抜の一環として共同して実施するものであるが、これが全参加大学において円滑に実施されるために、センターでは一括して処理することが適当な業務を滞りなく確実に実施することが必要である。 また、共通テストは、大学が共同して実施するものであることを踏まえ、試験の実施に参加大学の意思がより適切に反映されるよう、試験に係る各種委員会等の運営方法等の見直しを行う。 (1) 共通テストの問題作成 共通テストは、各大学に対し、大学入学志願者の大学で学ぶために必要な能力・適性等に関する信頼性の高い情報を提供することを目的とするものであることから、良質な問題を作成することが重要な使命であり、各教科・科目の特質に応じ、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する必要がある。 このため、試験問題の作成にあたる委員の業務量の適正化を図るとともに、秘密保持を徹底し、毎年の問題作成及び点検を厳格に行うとともに、試験問題に関する自己点検・評価、第三者評価を行い、適切な問題を作成する。 また、評価結果を公表するとともに、必要に応じて改善を図る。 (2) 共通テストの円滑な実施 共通テストは全国の大学において同一の期日（2日間）に同一の試験問題により行われるものであり、受験者にとって公平かつ公正に実施されることが必要である。このため、秘密保持に十分留意の上、大学の試験実施や試験問題の管理、輸送に関する方針を定め、参加大学に対する説明や各種マニュアルの配布を行うとともに、高等学校や受験者に対して受験案内等を配布するなど、試験の円滑な実施に必要な取組を行う。また、試験場や試験室の割り当て方法等について、受験者の利便性等を考慮しつつ効率的な活用を検討し、着実に実施する。さらに、共通テストの実施結果を踏まえ改善を図る。加えて、新型コロナウイルス感染症等のリスクを踏まえ、受験者が安心し、かつ安定的に共通テストを継続していくための対策を講じるとともに、デジタル化への対応については、電子出願等システムの導入に向けた準備を着実に進める。 なお、障害のある者等に対して、障害者基本法（昭和45年法律第84号）及び障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成25年法律第65号）を踏まえ、能力・適性等に応じた進学の手続きを円滑にする観点から公平に受験することができるよう、試験場となる大学の施設・設備等の状況を勘案しつつ、適切な措置を講じる。 (3) 共通テストの採点・成績提供 共通テストの採点及び成績提供を着実に行うことにより、参加大学の多様なニーズに対応するとともに、受験者が自己の学習の成果を把握し、その後の学習上の参考とすることが可能となるよう、入学選抜の全体日程終了後に、希望する受験者本人に対し共通テストの成績を開示する。 (4) 高等学校学習指導要領等への対応 新学習指導要領に対応した共通テストの実施方法等について検討を行い、令和6年度より実施する。 なお、あり方検討会議など関連する会議における検討結果等を踏まえ必要な対応を行う。
------	--

【指標】

- ・試験問題に関する高等学校関係者による外部評価において 95%以上が良問であるとの評価を得る。（評定値による評価を導入した平成 15 年度試験から令和 2 年度試験まで 18 年間の実績の平均値：95%）
- ・共通テストを円滑に実施するため、オンライン等により、共通テスト実施上の注意点等の大学への説明を実施し、説明資料に対する参加大学の視聴（閲覧）率を 100%とする。

【重要度：高】共通テストについては、約 55 万人の大学入学志願者を対象に公平性・厳正性・信頼性を旨として実施する大規模な共通の試験であり、社会的な説明責任を果たしながら、高等学校段階の基礎的な学習の達成度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握するための問題を作成しつつ円滑かつ着実に試験を実施する必要があることに加え、新学習指導要領や、あり方検討会議など関連する会議における検討結果等を踏まえる必要があるため。

【困難度：高】感染症等のリスクを踏まえ、実施準備に大きな影響を及ぼす事態が生じた場合にも適時適切に対応することができるよう、十分な対策を講じた上で共通テストを実施する必要があるため。

中期計画	令和 6 年度計画	進捗状況	実績（進捗状況の判断理由）
I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	—	—
1 大学入学志願者に対し大学が共同して実施することとする試験 大学に入学を志願する者の高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを主たる目的として大学が共同して実施する大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）に関し、問題作成、試験の実施、答案の採点・成績提供及びその他一括して処理することが適当な業務を滞りなく確実に実施するため、以下のことを円滑かつ適切に行う。 共通テストは、大学が共同して実施するものであることを踏まえ、実施主体である参加大学の役割を明確にするとともに、参加大学の意思がより適切に反映されるよう、必要に応じて共通テストに係る各種委員会等の運営方法等の見直しを行う。	1 大学入学志願者に対し大学が共同して実施することとする試験 大学に入学を志願する者の高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的として大学が共同して実施する大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）に関し、問題作成、試験の実施、答案の採点・成績提供及びその他一括して処理することが適当な業務を滞りなく確実に実施する。 令和 7 年度共通テスト（令和 7 年 1 月実施）については、平成 30 年告示の高等学校学習指導要領（以下「新学習指導要領」という。）に対応した出題教科・科目及び出題方法の変更や平成 21 年告示の高等学校学習指導要領に基づく教育課程を履修した者（以下「旧教育課程履修者」という。）に対する経過措置	A	1 大学入学共通テスト 大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）について、以下の(1)～(4)を計画的かつ着実に実施した。 共通テストが参加大学との共同実施であることを踏まえ、以下の取組を行った。 ○実施主体である参加大学の役割について説明するための取組 ・大学入試センター（以下「センター」という。）主催の協議会での説明入試担当者連絡協議会 ※ 入試担当者連絡協議会については、令和 3 年度から令和 5 年度までの間、新型コロナウイルス感染症の拡大防止等の観点から開催を見送り、解説付きのスライド資料の提供のみとしていたところである。 - 令和 6 年度については、令和 7 年度共通テストから、令和 4 年度から年次進行で実施されている高等学校学習指導要領（平成 30 年告示。以下「新学習指導要領」という。）に対応した試験となること、経過措置としての旧教育課程に基づく科目を設定することから、実施方法にも変更点が多いことも踏まえ、説明事項を確実に伝達するため、オンラインにより開催した。 - また、参加大学専用の特設サイトを用いて、解説付きのスライド資料等を随時提供することなどにより、参加大学の入試担当者等に周知を行った。 ・国や依頼があった大学関係団体等の会議での説明・資料提供

	を行うとともに、これらを踏まえた実施方法の必要な改定を行い、問題作成及び試験実施等の業務を確実に実施する。 なお、共通テストは、大学が共同して実施しているものであることを踏まえ、独立行政法人大学入試センター（以下「センター」という。）や関係団体の会議等において実施主体である参加大学の役割について説明するとともに、参加大学の意思がより適切に反映されるよう、共通テストに係る各種委員会等の一部委員について関係団体に推薦を依頼する。		大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会、国立大学協会総会、国立大学入試担当課長連絡会議（ウェブ会議）、1都3県世話大学入試担当課長連絡会、北海道地区実務担当者会議（ウェブ会議）、福島県連絡会議（ウェブ会議） ○参加大学の意思を反映するための取組 大学側の意思がより適切に反映されるよう、共通テストの実施方法等を審議する大学入学共通テスト企画委員会の一部委員を、国公私立大学の各団体からの推薦により委嘱しており、共通テストの実施要項、受験案内、実施要領等のマニュアルについて審議を行った。 また、令和6年度共通テスト実施後の取組状況調査において参加大学の意見を求め、令和7年度共通テストの各種マニュアルに反映させた。
(1) 共通テストの問題作成 高等学校学習指導要領に準拠した良質な共通テストの問題を作成するため、以下のことを行う。さらに、各教科・科目の特質に応じ、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する。	(1) 共通テストの問題作成 高等学校学習指導要領に準拠した良質な共通テストの問題を作成するため、以下のことを行う。	A	(1) 共通テストの問題作成 令和7年度共通テストの問題作成に当たっては、試験問題作成要領に基づき、以下の①・②のとおり計画的かつ着実に良質な試験問題の作成を行った。 令和7年度共通テストは、新学習指導要領に対応した試験問題及び経過措置としての旧教育課程による試験問題を作成する必要があるため（令和6年度共通テスト：30科目、令和7年度共通テスト：38科目）、令和6年度は、例年よりも多くの委員を委嘱し、対応した（令和4年度：462人、令和5年度：598人、令和6年度：707人）。 その結果、試験問題の評価では高等学校関係者等を含む大学入学共通テスト問題評価・分析委員会から、対象37科目・7出題範囲※の全てについて良問であるとの評価が得られ、目標を超えた（p.10(1)②－1参照）。 ※出題科目としては38科目（旧教育課程科目を含む。）であるが、『英語（リスニング）』を1科目として数え、『地理総合／歴史総合／公共』及び『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』については出題範囲ごとに評価しているため、評価対象は37科目・7出題範囲としている。
① 試験問題の作成に当たっては、試験問題作成の基準等を定める試験問題作成要領を整備し、試験問題の作成に当たる委員に対して周知徹底する。 その上で、試験問題の作成に当たる委員の業務量の適正化を図りつつ、秘密保持を徹底する。また、これまでの試験実施結果を踏まえ、毎年問題を作成し、試験問題の出題範囲、出題内容、記述、難易度、科目間の重複等の点検を厳格に行う。	① 試験問題の作成に当たっては、試験問題作成の基準等を定める試験問題作成要領について、必要に応じ見直しを行い、試験問題の作成に当たる委員に対して周知徹底する。 その上で、試験問題や教科書のデータベース等の充実を図ることにより、試験問題作成委員の業務量を削減しつつ、秘密保持を徹底する。 また、令和7年度共通テストについては、新学習指導要領を踏まえた「令和7年度大学入学者選抜に係る	B	①－1 試験問題作成要領等の整備 共通テストの目的・趣旨に沿った良質な試験問題を作成するため、令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針（以下「問題作成方針」という。）とともに共通の試験問題作成の基準、作成上の留意事項等をまとめた「試験問題作成要領」（以下「作成要領」という。）を整備している。問題作成方針と作成要領については、教科・科目等別問題作成分科会長会議（以下「問題作成分科会長会議」という。）及び教科・科目等別問題作成分科会（以下「問題作成分科会」という。）において全委員に配付して説明を行うことにより周知徹底したほか、問題点検第一部会委員、問題点検第二部会委員及び教科・科目等別問題作成方針分科会（以下「方針分科会」という。）の高等学校等関係者の委員に対しても問題作成方針と作成要領に基づき試験問題の点検・照合を行うよう周知した。 ①－2 各データベースの充実

	大学入学共通テスト問題作成方針」(令和5年6月9日公表)に基づき、これまでの試験実施結果も踏まえつつ、引き続き、問題作成を行うとともに、試験問題の出題範囲、出題内容、記述、難易度、科目間の重複等の点検を行う。 さらに、令和8年度共通テスト(令和8年1月実施)についても、新学習指導要領を踏まえ、問題作成方針を策定、公表し、問題作成及び点検を行う。		試験問題を作成するための基礎資料となる以下のデータベースの充実を図り、必要なデータを容易に得られる体制を整備することで、試験問題作成を効率的に行い、委員の業務負担を軽減した。 ア 試験問題データベース 平成15年度から共通第1次学力試験(以下「共通1次試験」という。)、大学入試センター試験(以下「センター試験」という。)及び共通テストの試験問題をデータベース化しており、令和6年度においては、令和7年度共通テストの試験問題を追加した。 イ 教科書データベース 平成9年度から高等学校及び中学校の教科書の掲載内容等をデータベース化しており、令和6年度においては令和6年度高等学校教科書データを追加し、引き続き維持・管理することにより、委員の業務負担を軽減した。 ウ 国語出典情報データベース 平成18年度から共通1次試験、センター試験、共通テスト及び各大学試験問題の素材文の出典情報をデータベース化しており、令和6年度においては、令和6年度大学入学選抜の各大学試験問題(近代以降の文章、古文、漢文)及び令和7年度共通テストのデータを追加することにより、データベースを充実させた。 ①ー3 秘密保持 試験問題に関する情報管理について、以下のことを実施し、情報が外部に流出しないよう秘密保持の徹底を図った。 ・試験問題作成委員の氏名は、問題作成に関与した試験が実施される日の属する年度の末日まで秘匿。 ・試験問題作成委員が問題作成の基礎となる資料を持ち込む場合は、「独立行政法人大学入試センターサイバーセキュリティ対策基準」に基づき、ISMAP等クラウドサービスリストのうちから、センターが選定したクラウドサービスの使用を義務付け。 ・試験問題作成委員等全員に対し、試験問題の秘密保持についての周知を徹底。 ・入退室管理システムを使用し、試験問題作成エリアへの関係者以外の立入り規制を徹底。 ・試験問題作成委員等全員に対し、個人所有パソコン等の試験問題作成エリア内への持込みを規制するための、私物保管用ロッカーを利用することの周知を徹底。 ・試験問題に係るデータ管理を強固なものとするため、専用サーバによる部会用電子計算機システムを使用するとともに、専用サーバ室の生体認証による入退室管理を行うなど、厳格な管理体制を徹底。 ①ー4 試験問題の作成 試験問題作成は、以下のとおり多くの委員によって十分な時間をかけて作成するとともに、問題作成分科会長会議で問題作成及び点検の際に特に留意する事項を説明し、様々な観点から点検、照合するなど厳格に行った。 なお、令和7年度共通テストでは、新学習指導要領に対応した試験問題及び経過措置としての旧教育課程による試験問題を作成するために、例年より多くの委員を委嘱した上で問題作成を行った。 問題作成分科会(資料編 p.3【資料2】参照)
--	---	--	---

			〔委員〕国公立大学等の教員 29 分科会 707 人（各分科会 6～52 人） 〔役割〕本試験・追試験用 7 教科 38 科目の試験問題を、問題作成方針に基づき、過去のセンター試験及び共通テストと試行調査（プレテスト）の実施結果を踏まえ出題範囲、出題内容、記述、難易度等について十分に討議し、約 2 年間で作成。 また、一部の教科・科目では、出題内容の重複や一方の試験問題に他の科目の解答が記述されることがないように各教科・科目間の調整会議を年 3 回開催した。 〔開催回数〕分科会ごとに年間 8～34 回（延べ 566 回、1,784 日） ①－5 試験問題の点検 以下の委員会等を設置し、問題作成分科会が作成した試験問題を様々な観点から点検した。問題点検第一部会では、過去のセンター試験及び共通テストの問題作成経験者等に委員を委嘱しており、問題作成経験者としての知見を活かし、問題の構成、内容等の点検を行った。問題点検第二部会では、問題の形式、表現、科目間の整合性等総合的な点検を行ったほか、さらに、複数の科目における記述の重複等から解答が相互に推測されないよう重複点検に特化した点検日を設けるとともに、電子ツールの検索機能を活用し効率的かつ確実な重複点検を行った。また、方針分科会の高等学校関係者の委員は、高等学校教育の立場から、問題の難易度、出題範囲等の点検を行った。 なお、点検に当たっては、これらの委員会等が効果的に点検を行えるよう、センターから問題作成における現状や点検の視点等について説明を行った。 ア 問題点検第一部会（資料編 p. 3【資料 3】参照） 〔委員〕問題作成部会及び教科科目第一委員会委員の経験者、学識経験者等 20 部会 164 人（各部会 3～13 人） 〔役割〕問題の構成、内容、解答及び用字用語等を点検 〔開催回数〕分科会ごとに年間 1～6 回（延べ 82 回、289 日） イ 問題点検第二部会 〔委員〕国公立大学等の教員及び学識経験者 27 人 〔役割〕問題の形式、表現及び各科目間の整合性、重複等について総合的に点検 〔開催回数〕年間 6 回（25 日） ウ 問題作成方針分科会の高等学校等関係者 〔委員〕高等学校等関係者 64 人 〔役割〕問題の難易度及び出題範囲について、高等学校教育の立場から点検 〔開催回数〕分科会ごと年間 2 回（延べ 129 日） ①－6 令和 7 年度共通テスト問題に関する実施結果 ア 各教科・科目別平均点等（本試験）の状況（資料編 p. 4～6【資料 4】参照） イ 得点調整対象科目間における平均点差等 得点調整は、令和 7 年度共通テストからこれまでの 20 点以上の平均点差が生じた場合に加え、15 点以上の平均点差かつ段階表示の区分点差が 20 点以上生じた場合にも実施することとし、調整の方法は平均点差を 15 点に縮小する方法から段階表示の区分点差を 15 点に縮小する方法に変更した。
--	--	--	---

			また、得点調整対象教科・科目は、高等学校学習指導要領の改訂に伴う経過措置による旧教育課程科目も対象とし、「地理歴史、公民」、「数学①」、「数学②」、「理科」、「情報」とした。ただし、情報を除き受験者数が1万人未満の科目は得点調整の対象としないこととした。 令和7年度共通テストでは、最大の平均点差は理科の物理と化学間の13.63点であり、15点以上の平均点差が生じなかったことから、得点調整を実施しなかった。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>教科</th><th>最高平均点</th><th>最低平均点</th><th>平均点差</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地理歴史</td><td>旧日本史B 68.40点</td><td>歴史総合、日本史探究 57.06点</td><td>11.34点</td></tr> <tr> <td>公民</td><td>公共、政治・経済 62.74点</td><td>公共、倫理 59.81点</td><td>2.93点</td></tr> <tr> <td>数学①</td><td>旧数学Ⅰ・旧数学A 59.96点</td><td>数学Ⅰ、数学A 53.72点</td><td>6.24点</td></tr> <tr> <td>数学②</td><td>旧数学Ⅱ・旧数学B 59.49点</td><td>数学Ⅱ、数学B、数学C 51.76点</td><td>7.73点</td></tr> <tr> <td>理科</td><td>物理 59.09点</td><td>化学 45.46点</td><td>13.63点</td></tr> <tr> <td>情報</td><td>旧情報 72.87点</td><td>情報Ⅰ 69.46点</td><td>3.41点</td></tr> </tbody> </table> ウ 段階表示 各大学において受験者の多様な評価に活用できるように、各科目の科目別得点に対し、「スタナイン」という方式を用いて、9段階に換算して段階表示を行った。なお、英語については、リーディング、リスニング別に、「地理歴史、公民」の『地理総合／歴史総合／公共』及び理科の『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』については、科目別得点の段階表示に加え、出題範囲別に段階表示を行った。 エ 問題訂正等（資料編 p. 7～8【資料5】参照） 令和7年度共通テストの問題訂正等は以下のとおりであった。問題作成分科会、問題点検第一部会、問題点検第二部会等において様々な観点から点検を行うとともに、令和5年度から新たに導入した校正支援ツールによるチェックを行っているが、経過措置に伴い出題科目数が増加したこともあり、問題訂正等の件数は前年度より増加した。 なお、問題訂正等は、全て試験実施前に判明している。 ・問題訂正 本試験 8件、追試験 6件（前年度 本試験2件、追試験4件） ・補足説明 本試験 1件、追試験 0件（前年度 本試験1件、追試験1件） ・正解訂正 本試験 0件、追試験 0件（前年度 本試験0件、追試験0件）	教科	最高平均点	最低平均点	平均点差	地理歴史	旧日本史B 68.40点	歴史総合、日本史探究 57.06点	11.34点	公民	公共、政治・経済 62.74点	公共、倫理 59.81点	2.93点	数学①	旧数学Ⅰ・旧数学A 59.96点	数学Ⅰ、数学A 53.72点	6.24点	数学②	旧数学Ⅱ・旧数学B 59.49点	数学Ⅱ、数学B、数学C 51.76点	7.73点	理科	物理 59.09点	化学 45.46点	13.63点	情報	旧情報 72.87点	情報Ⅰ 69.46点	3.41点
教科	最高平均点	最低平均点	平均点差																												
地理歴史	旧日本史B 68.40点	歴史総合、日本史探究 57.06点	11.34点																												
公民	公共、政治・経済 62.74点	公共、倫理 59.81点	2.93点																												
数学①	旧数学Ⅰ・旧数学A 59.96点	数学Ⅰ、数学A 53.72点	6.24点																												
数学②	旧数学Ⅱ・旧数学B 59.49点	数学Ⅱ、数学B、数学C 51.76点	7.73点																												
理科	物理 59.09点	化学 45.46点	13.63点																												
情報	旧情報 72.87点	情報Ⅰ 69.46点	3.41点																												
② 共通テスト実施後、試験問題に関して高等学校関係者による外部評価及び自己点検・評価を行い、それぞれ95%以上が良問であるとの評価を得られるようにする。また、評価	② 共通テスト実施後、試験問題に関して高等学校関係者による外部評価及び自己点検・評価を行い、それぞれ95%以上が良問であるとの評価を得られるようにする。	A	②ー1 令和7年度共通テスト問題の評価（資料編 p. 9～11【資料6】、【資料7】参照） 共通テスト問題評価・分析委員会の各分科会（「外部評価分科会」及び「自己点検・分析・評価分科会」）により、試験問題について、出題科目ごとに①出題のねらい、②出題範囲、③題材、④問題の場面設定、⑤問題構成、⑥表現・用語、⑦難易度、⑧得点のちらばりの8項目について項目別評価を行うとともに、総合評価を行っている。																												

結果については、ホームページで公開するとともに、その評価結果を次年度以降の問題作成に反映する。	また、評価結果については、ホームページで公開するとともに、共通テストの問題作成に反映する。		各分科会での出題科目ごとの総合評価は、外部評価分科会では対象 37 科目・7 出題範囲※中 37 科目・7 出題範囲（100%）、自己点検・分析・評価分科会も 37 科目・7 出題範囲（100%）で 4 段階評価の 3 以上であった。 以上のことから、共通テストの試験問題として良質な試験問題であったとの結論を得られた。 また、教育研究団体からは、高等学校学習指導要領の目標や範囲に沿った、教科書の内容・範囲を踏まえた基礎的・基本的な問題であったとの評価を受けた。 外部評価分科会及び教育研究団体等から寄せられた評価・意見等については、「大学入学共通テスト問題評価・分析委員会報告書」において問題作成分科会の見解を記している。 ア 外部評価分科会 〔委 員〕 高等学校関係者等 74 人 〔役 割〕 学校教育に携わる専門的立場からの外部評価 〔評価結果〕 対象 37 科目・7 出題範囲※の全てについて、総合評価が 4 段階評価で 3 以上であった。 イ 自己点検・分析・評価分科会 〔委 員〕 試験問題作成委員 63 人 〔役 割〕 外部評価分科会の評価、16 関係教育研究団体の評価を踏まえた自己点検・評価 〔評価結果〕 対象 37 科目・7 出題範囲※の全てについて、総合評価が 4 段階評価で 3 以上であった。 ※出題科目としては 38 科目（旧教育課程科目を含む。）であるが、『英語（リスニング）』を 1 科目として数え、『地理総合／歴史総合／公共』及び『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』については出題範囲ごとに評価しているため、評価対象は 37 科目・7 出題範囲としている。 ②ー 2 「令和 7 年度大学入学共通テスト問題評価・分析委員会報告書（本、追・再試験）」 を作成し、令和 7 年 6 月以降にセンターのウェブサイト等で公表することとしている。
(2) 共通テストの円滑な実施 共通テストに参加する国立、公立、私立の各大学等との緊密な連携により、同一の期日に同一の試験問題により行われる共通テストの円滑な実施や、受験者が安心し、安定的に共通テストを実施していくための対策、デジタル化への対応のため、以下のことを行う。また、試験の実施結果を踏まえて、次年度以降の試験の実施方法を改善する。	(2) 共通テストの円滑な実施 共通テストに参加する国立、公立、私立の各大学等との緊密な連携により、同一の期日に同一の試験問題により行われる令和 7 年度共通テストを確実に実施するため、実施方法や時間割等を定めた「令和 7 年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施要項」を公表しつつ、安定的に共通テストを実施するための対策及びデジタル化への対応のために以下のことを行う。 なお、令和 7 年度共通テストの実施に当たっては、令和 6 年度共通テスト	A	(2) 共通テストの円滑な実施 令和 7 年度共通テストについては、新学習指導要領に対応した出題教科・科目となるとともに、旧教育課程履修者に対して経過措置として別科目を出題するなど複雑な試験となったが、試験実施に向け、実施方法の検討を入念に行い、受験者に対し変更点の周知を徹底するなど周到な準備を行った結果、新・旧教育課程に起因するトラブルもなく、以下のとおり、計画的かつ着実に実施できた。 ○令和 7 年度共通テスト実施結果 本試験については、令和 7 年 1 月 18 日、19 日に実施し、追試験については、本試験の 1 週間後に設定するという文部科学省の令和 7 年度大学入学者選抜実施要項に基づき、1 月 25 日、26 日に実施した。 ア 参加大学数 838 大学（うち短期大学 129 大学） イ 試験期日

（令和6年1月実施）の実施結果のほか、新学習指導要領に対応した共通テストとなることを踏まえ、実施方法について、必要な改定・改善を行う。

本試験

令和7年1月18日（土）、19日（日）

追・再試験

令和7年1月25日（土）、26日（日）

ウ 志 願 者 数 495,171 人
 ・現役志願者数 425,968 人
 ・現 役 志 願 率 45.5%
 エ 受 験 者 数 462,066 人（受験率 93.31%）
 オ 成績提供件数 1,638,140 件

○共通テスト実施状況の推移

		令和4年度 共通テスト	令和5年度 共通テスト	令和6年度 共通テスト	令和7年度 共通テスト
1 試験日	本試験	1/15・16	1/14・15	1/13・14	1/18・19
	追・再試験	1/29・30	1/28・29	1/27・28	1/25・26
2 参加大学数	大学	864 大学	870 大学	864 大学	838 大学
	短期大学	149 大学	151 大学	147 大学	129 大学
3 志願者数		530,367 人	512,581 人	491,914 人	495,171 人
4 受験者数		488,384 人	474,051 人	457,608 人	462,066 人
5 現役志願率		45.1%	45.1%	45.2%	45.5%
6 成績提供件数		1,532,350 件	1,492,101 件	1,494,434 件	1,638,140 件
7 追試験許可者数		1,660 人	3,893 人	1,629 人	992 人
8 追試験受験者数		1,354 人	3,445 人	1,429 人	866 人
9 再試験対象者数		215 人	393 人	50 人	163 人
10 再試験受験者数		183 人	27 人	6 人	12 人

○令和7年度共通テスト当日の試験開始時刻の繰下げ及び再試験

ア 試験開始時刻の繰下げ（交通機関の遅延又は事故等によるもの）

・11 大学 12 試験場

イ 再試験の実施

・4 大学 4 試験場、受験者数 12 人

（正規の試験時間を確保しなかったことや監督者等の対応誤りによるもの）

○追試験場の設定

原則として全国を2地区に分け、地区ごとに2か所設定することとし、東日本地区は東京農工大学及び東京外国語大学、西日本地区は大阪教育大学及び大阪大学に設定した。

また、リスク管理の一環として、追試験受験許可者数が上記試験場の収容数を超えた場合に備え近隣府県に予備的な試験場を確保していたが、実際の追試験受験許可者数を踏まえ、追加での試験場の設定はしなかった。

○東日本大震災による被災志願者への対応

検定料等の免除については、東日本大震災の復興状況に鑑み、被災者等が自宅の全半壊や

		主たる家計支持者を亡くしたことなどにより、大学進学を断念しないように、検定料及び成績通知手数料について申請に基づき免除した。 令和7年度共通テスト：申請者数 158 人、免除者 153 人、免除総額 2,861 千円 （令和6年度共通テスト：申請者数 216 人、免除者 208 人、免除総額 3,881 千円） ○利用者の利便性向上に向けた取組状況 ア 受験上の注意 受験票とともに配付する「受験上の注意」において、下記の注意点を掲載し、周知した。 ・受験するに当たり特に気を付けるべき事項 ・受験票を確認する際のポイント ・試験当日及び試験時間中の注意事項 イ 新学習指導要領への対応 新学習指導要領に対応した試験となり、出題教科・科目等の変更等に伴い、出願方法、科目選択方法や解答方法に注意が必要であることから、下記のとおり対応し、効果的な周知に努めた。 ・出願方法、科目選択方法や解答方法を分かりやすく解説したリーフレットを作成・配付した。 ・SNSによる情報発信を強化した。 ・一部の教科・科目では、問題冊子の表紙の注意事項や解答用紙の様式などに変更があり、解答用紙の解答科目欄等のマーク誤りへの注意喚起を図るため、ウェブサイトにて解答科目欄の不適切なマーク例等を掲載した。また、問題冊子の表紙や解答用紙の様式等をウェブサイトに掲載した。 ・出願方法や試験当日の注意点について説明した志願者向けの説明動画を新・旧教育課程別に、それぞれの時期に合わせて作成し、公開した。 ○業務の効率化についての取組状況 業務の効率化の観点から、出願受付や成績通知業務を民間に委託するとともに、共通テスト実施後に、各参加大学から意見・要望を聴取し、各種マニュアル等を見直すなど、参加大学と連携して業務改善に向けた取組を行うこととしている。 試験場・試験室の割当てについては、専用のウェブサイトにより試験場・試験室の登録及び割当て結果の確認・修正を行うなど、効率的に業務を行った。また、複数の試験場を仮想的に1試験場とみなす試験場のグループ化を実施しているが、令和7年度共通テストでは新・旧教育課程を含めた割当てパターンとし、1試験場に特定の割当てパターンを集中させることで、効率的に試験場・試験室を活用した。 ○受益者負担の妥当性・合理性 センターは、平成23年度から、国からの運営費交付金が交付されない独立行政法人となっており、事業の効率化に努め、検定料、成績提供手数料等の自己収入を主たる財源として試験業務を行っている。
--	--	---

① 秘密保持に十分留意の上、大学の試験実施や試験問題の管理、輸送に関する方針を定め、各種マニュアルを整備するとともに、参加大学の関係者に対して、セキュリティ対策を講じた特設サイトを利用して説明資料等を提供し、周知徹底を行う。なお、同資料の閲覧率を100%とする。	① 秘密保持に十分留意の上、試験の円滑な実施や試験問題の適切な管理及び輸送に関する方針を定め、参加大学に配付する実施・監督・輸送等に関わる各種マニュアルについて、参加大学の意見も踏まえ、必要な改善を行う。 また、参加大学の関係者に対して、セキュリティ対策を講じた特設サイトで、旧教育課程履修者に対する経過措置や不正行為防止、試験場の安全対策を含め、留意点や変更点等を分かりやすく解説した説明資料等を提供し、周知徹底を行う。 なお、同資料の閲覧率を100%とし、各参加大学において学内関係者に周知徹底を図るよう要請する。	A	①ー1 令和7年度共通テストの企画・立案 過年度共通テストの実施結果や各参加大学からの意見・要望などを踏まえて、改善方を整理し、以下のような対応を行った。 ア 新学習指導要領への対応 令和7年度共通テストについては、新学習指導要領に対応した出題教科・科目とし、また、「地理歴史,公民」、「数学」、「情報」については、旧教育課程履修者のうち希望する者は、経過措置として旧教育課程科目を受験できることとした。これらに対応する試験の実施方法等について、下記のとおり改訂・改善を図り、その結果、令和7年度共通テストを円滑に実施することができた。 ○ 受験案内等 ・ 内容や志願票、確認はがき、登録教科等訂正届及び受験票の各様式を新・旧教育課程に対応したものに変更した。 ・ 特に注意が必要な点として、出願時の受験教科登録と試験当日の科目選択方法、「地理歴史,公民」「理科」を受験するに当たってのポイント及び解答用紙の様式等をリーフレットに記載した。 ○ 実施要領、監督要領等 ・ 「地理歴史,公民」においては、出題科目が多数になることから、問題冊子を新・旧教育課程で分冊化し、出願時に受験する教育課程を登録させることとした。このことに伴い、「地理歴史,公民」において出願時に受験すると登録した教育課程を基に、試験室を新教育課程試験室、旧教育課程試験室、新旧混在試験室の三つに分類して割り当てることとしたほか、受験者への監督者の指示内容を試験室別に作成した。 ・ 配付する問題冊子は新教育課程科目（2冊）と旧教育課程科目（2冊）に分け、それぞれの問題冊子の表紙の左上に「新」「旧」と記載した上で、それぞれをビニールでパッケージすることで問題冊子の配付誤りを防止した。 ・ 受験者が選択解答する科目が分かるよう、解答用紙の解答科目欄のマークに関する監督者の指示内容を丁寧に記載した。 ○ 問題冊子、解答用紙の注意事項等 ・ 「地理歴史,公民」及び「理科」において、科目の選択方法や解答欄の誤りを防ぐための変更を行った。 ・ 問題冊子の注意事項において旧教育課程履修者に対する経過措置の実施に伴う科目選択の指示等を新・旧教育課程別に記載した。 イ 試験時間中に電子機器類（スマートフォン）を使用した不正行為への対応 令和4年度共通テストにおいて、試験時間中に電子機器類を使用した不正行為事案が発生したことを踏まえ、各大学に対して、引き続き不正行為事例等の情報や写真照合及び試験時間中の巡視の際に確認すべきポイントをマニュアル等で提供し、監督者等に周知徹底するよう依頼した。 また、受験者に対しても、不正行為に関する注意事項や不正行為を行った場合の不利益（受験した全ての教科・科目の成績を無効とすることなど）について、引き続き「受
--	--	---	---

			験案内」や「リーフレット」に記載し、周知を図るとともに、高等学校等に活用を促した。併せて、試験当日に、受験者の机上に貼る受験番号票による注意喚起も継続して行った。 ウ 試験場等の安全対策 令和4年度共通テスト当日に、東京大学本郷地区キャンパス農正門前の路上で刺傷事件が発生したことやトンガ諸島の火山噴火による津波警報・津波注意報が発令されたことから、安全対策及び災害対策、不測の事態への対応について、文部科学省の「令和7年度大学入学者選抜実施要項」を踏まえ、各大学に対して、引き続き試験場等の安全対策について、各試験場の状況に応じて、所轄の警察署と連携・協力に一層取り組むよう依頼した。 ①－2 実施要領、監督要領、輸送要領の整備 共通テストは、同一の期日に同一の試験問題によって実施する全国規模の試験であることから、毎年度、各試験場において公平かつ円滑に試験が進められるよう、統一的な基準を示す実施要領、監督要領、輸送要領を整備し、適宜見直しを行うこととしている。 令和7年度共通テストでは、各要領の見直しに当たり、令和6年度共通テスト実施後の参加大学からの意見・要望及び①－1に示した企画・立案の内容を踏まえ、実施方法部会及び大学入学共通テスト企画委員会で検討した上で、各種マニュアルを改訂するとともに新学習指導要領に対応した実施方法について記載した。 【主な実施方法の変更点等】 ・新学習指導要領対応による変更。 ・監督者の指示内容等の増加に伴い、「地理歴史、公民」及び「理科」の試験時間における受験者入室終了時刻を早め、試験開始前の監督者の説明時間を30分間に変更。 ・受験者の所持品について、時計として使用できないものとして「学習タイマー」を追加。また、試験時間中に使用できないものとして記載しているウェアラブル端末に具体例を追加。（スマートウォッチやスマートグラス等。） ・追試験の実施日程が本試験1週間後となったことに伴い、追試験受験申請書等のセンターへの返送方法について、従来のコンテナでの返送からパソコンでのアップロードに変更。 【主な輸送方法の変更点等】 ・「地理歴史、公民」及び「理科」の受験者用の第2解答科目解答用紙の送付基準について、経済的な調達数量を確保する観点から、2科目受験の登録者数と同数を送付することに変更。 ①－3 大学・監督者への周知 以下のとおり大学・監督者への周知徹底を図った。 ア 入試担当者連絡協議会（オンライン開催） 参加大学の担当者に対して「入試担当者連絡協議会」を以下のとおりオンラインにより開催し、新学習指導要領に対応した出題教科・科目となることや旧教育課程履修者に対して経過措置を行うことのほか、実施要領、監督要領、輸送要領、成績提供要領をも
--	--	--	---

			とに、令和7年度共通テストの実施方法の変更点を中心に試験実施業務等の具体的内容について周知するとともに協議を行った。 特に、説明内容や配付資料について、入試担当者連絡協議会の参加者が分かりやすく、さらに各大学で学内関係者へ周知しやすいようにするとともに、過去のトラブルや対応事例を精選し、関係者の理解を得るよう改善した。 また、この入試担当者連絡協議会の説明で使用するスライド資料は、協議会開催前に参加大学専用の特設サイトに掲載し、事前に各大学で資料内容を確認できるようにするとともに、協議会開催後は解説付きのスライド資料も特設サイトに掲載し、各大学がダウンロードして各大学における監督者説明会等で使用できるよう工夫した。 ・開催日 9月12日、20日 ・参加大学数 1,010大学 ※ オンラインで開催。両日参加している場合、重複を含む。 イ 説明資料の提供等 参加大学専用の特設サイトにより、参加大学の担当者に対して解説付きのスライド資料等を随時提供し、実施要領、監督要領、輸送要領、成績提供要領をもとに、令和7年度共通テストの実施方法の変更点や不正行為の防止策として必要な事項を中心に試験実施業務等の具体的内容について周知を行った。 スライド資料については、各大学の担当者が分かりやすく、さらに学内関係者へ周知しやすいように、過去のトラブルや対応事例を精選し、関係者の理解を得るよう改善した。 また、各提供資料は、編集可能なファイル形式とし、各大学がダウンロードして学内の監督者説明会等で使用できるよう配慮した。 〔資料提供状況〕 ・資料の提供回数 8月：1回、9月：1回、10月：2回、11月：3回、12月：1回 ・対象大学数 838大学 ・各資料を確認した大学数 838大学（閲覧率100%） （各資料の確認状況について、各参加大学にアンケート調査を実施） ウ 監督者を始めとした試験実施関係者への周知徹底 各大学に対し、監督者等への監督業務及び担当業務を周知徹底するための監督者等説明会を開催し、全ての監督者等に以下を説明するよう要請した。また、監督者等説明会に出席できない者に対しては、説明会の別途開催や個別説明などを依頼した。 ・共通テストは参加大学とセンターが協力して、共同で実施する試験であること ・前年度共通テストとの変更点 ・各担当者の業務内容 ・不正行為の取扱い ・不測の事態が発生した場合の対応方法等 ・各業務において実施上のミスやトラブルが発生した場合、再試験の実施など受験者に多大な影響を与えるおそれがあること ・各要領の記載内容や試験実施に係る業務内容に関して、試験実施関係者以外に話したり、SNS等に投稿したりしないこと
--	--	--	---

			さらに、監督業務を理解するための補助資料として、視覚的に容易に業務を理解できるよう、「監督業務解説ビデオ」、「英語リスニング監督者用演習ビデオ」を更新し、参加大学専用の特設サイトに掲載しダウンロードして活用できるようにした。 また、10月に参加大学に対し、関係教職員への留意点の周知徹底、英語リスニングの監督者等予行演習及びマニュアル整備を依頼する文書を発出した。 ①-4 試験問題等の適切な管理 以下のア、イのとおりセンター及び各実施大学において試験問題等の適切な管理を行うとともに、試験問題等の管理上のトラブルが発生した場合に適切に対処できるよう緊急時における連絡体制及びマニュアルの整備等を行った。 ア センターにおける管理 試験問題等を適切に管理するため、保管倉庫については、24時間機械警備を行うとともに厳格な入退手続を徹底した。 イ 各実施大学における管理 適正な試験問題の保管・管理体制を構築するため、各参加大学に対し、入試担当者連絡協議会における説明や輸送要領の概要説明を含めたスライド資料の提供を行い、試験問題等の保管・管理上の留意点、特に秘密の保持について周知徹底を図った。また、新たに試験場を設定する場合等は、当該大学に対し、試験問題等の保管・管理体制について調査票による調査を実施し、必要な助言を行った。 ①-5 試験問題等の適切な輸送 以下のア、イのとおりセンター及び各実施大学において試験問題等の適切な輸送を行うとともに、試験問題等の輸送上のトラブルが発生した場合に適切に対処できるよう緊急時における連絡体制及びマニュアルの整備等を行った。 ア センターから各実施大学に向けた輸送 センターは、輸送計画を立てた上で、輸送会社、警備会社を含めて入念な打合せを行い、3者の緊密な連携によって、試験問題等を適切に輸送した。 また、警察庁等に対し、文書や直接訪問により試験実施及び試験問題等の輸送時における警備協力を要請した。 イ 各実施大学から各試験場に向けた輸送 複数の試験場を設定する大学は、各大学で輸送計画を策定し、各試験場への試験問題等の輸送を行った。 センターは、各参加大学に対し、入試担当者連絡協議会における説明や解説付きのスライド資料の提供を行い、輸送に関する留意点、特に安全で確実な輸送体制の確保及び秘密の保持について周知徹底を図った。 その結果、全ての大学が確実に試験問題等を輸送した。
② 受験案内等を作成し受験者及び高等学校に配布するとともに、高等学校関係者に対して、インターネットを利用して解説資料等により、出願	② 受験者及び高等学校に配布する受験案内等について、高等学校関係者の意見も踏まえ、必要な改定・改善を行う。	B	②-1 「受験案内」の作成・配付 受験者及び高等学校関係者に対しては、共通テストの出願・受験等に必要な事項をまとめた「受験案内」を実施方法部会及び大学入学共通テスト企画委員会で検討した上で作成し、配付している。

手続、受験上の留意点について周知徹底を行う。	不正行為防止については、引き続き留意事項を周知徹底する。 また、教育委員会を含む高等学校関係者に対して、出願手続、受験上の留意点等について、インターネットを利用して解説資料の提供等を行い周知するとともに、教育委員会を通じて、各学校において関係教員や生徒に周知徹底するよう要請する。		令和7年度共通テスト「受験案内」では、新しい学習指導要領への対応に伴う変更点や旧教育課程履修者に対する経過措置について記載するとともに、出願手続や受験に当たっての注意事項が分かりやすく伝わるよう留意した。また、令和7年度共通テストの注意点等の周知を図るため、志願者向けの「リーフレット」を作成し、「受験案内」に同封して配付した。 「受験案内」等は、令和6年9月2日から、各参加大学及び全国学校案内資料管理事務センターを通じて高等学校等及び志願者等に748,324部配付した。 また、「受験案内」の公表と併せて、令和7年度共通テストの変更点や注意点に関する志願者向けの説明動画を新教育課程履修者用と旧教育課程履修者用それぞれ新たに作成し、センターのウェブサイトで公開した。 ②-2 志願票等の取りまとめ依頼 高等学校等に在籍する卒業見込者の円滑な出願に資するため、卒業見込者の志願票等は学校において取りまとめてセンターに提出するよう高等学校等に従前から協力を依頼している。 ②-3 高等学校関係者への周知 教育委員会を含む高等学校関係者を対象とした「説明協議会」をオンラインで開催し、志願者が間違いなく出願できるよう指導を依頼するとともに、出願書類の取りまとめ等、共通テストの出願手続についての協力を要請した。 開催に当たり、令和7年度共通テスト全般について事前に質問を受け付け、当日に説明と併せて回答した。このほか、協議会当日にも説明内容について質問を受け付け、協議会後にセンターのウェブサイトに質問内容と回答を掲載した。 なお、協議会終了後は8月末までウェブサイト上で質問を受け付け、9月11日に質問内容と回答をウェブサイトに掲載した。 また、説明協議会のスライド資料やアーカイブ動画について、参加者以外でも活用できるよう、センターのウェブサイトに掲載した。 ・開催日 7月17日、23日 ・参加高等学校等数 2,844校 ※ オンラインで開催。両日参加している場合、重複を含む。
③ 試験場や試験室の割り当て方法等について、受験者の利便性等を考慮しつつ参加大学が設定する試験場等を効率的に活用する。	③ 試験場・試験室の割り当て方法について、受験者の利便性や参加大学の立地状況を考慮しつつ、試験を円滑に実施する観点から、効率的に試験場等を活用する。	B	③ 効率的な試験場の活用 試験場（点字試験場を除く。）については、受験者の利便性に配慮し、効率的に試験場を配置した結果、試験場数としては、651試験場となった。 複数の試験場を仮想的に1試験場とみなす試験場のグループ化を実施しているが、経過措置としての旧教育課程科目を出題するにあたり、令和7年度共通テストでは新・旧教育課程を含めた割当パターンとし、1試験場に特定の割当パターンを集中させることで、効率的に試験場・試験室を活用した。 追試験については、令和6年度共通テストと同様、原則として全国を2地区に分け、東日本地区は東京農工大学及び東京外国語大学、西日本地区は大阪教育大学及び大阪大学に設定した。

			また、リスク管理の一環として、追試験受験許可者数の状況を踏まえ各試験場の近隣府県に予備的な試験場を確保していたが、実際の受験許可者数を踏まえ、追加での試験場の設定はしなかった。
④ 新型コロナウイルス感染症等のリスクを踏まえ、必要な措置を講じる。	④ 感染症等のリスクに応じ、必要な措置を講じる。	B	④ー１ 感染症等への対応 ア 「令和７年度大学入学者選抜実施要項」及び実施時期における感染症の流行状況等を踏まえ、換気の確保や手洗い等の手指衛生励行など感染症の特徴に応じた対策を講じるものとした。 イ 追試験場については、東日本地区に東京農工大学及び東京外国語大学、西日本地区に大阪教育大学及び大阪大学としていたが、リスク管理の一環として、追試験受験許可者数が上記追試験場の収容数を超えた場合に備え各地区の近隣府県に予備的な試験場を確保した。 ④ー２ 緊急対応用の試験問題 問題漏洩等の不測の事態に備えて緊急対応用試験問題を準備した。
⑤ 電子出願等システムの導入に向けた準備を着実に進める。	⑤ 令和８年度共通テストからの電子出願等システムの導入に向けて、高等学校や参加大学との調整・連携を行いつつ、システム開発及び構築を進めるとともに、必要な検証を実施する。	B	⑤ 電子出願等システムについて 電子出願システムの基本的な機能は令和６年４月末に完成した。令和８年度共通テストからの電子出願システムの導入を目指し、関係団体や大学と意見交換して調整を行いつつ、以下のとおり、大学との連携テストや高校生等を対象とした操作検証も行った。また、それらの意見等を踏まえ、システムの改善や必要な開発等を行った。 - 各大学の出願システムからセンターの電子出願システムに受験者情報を照会・取得する API（Application Programming Interface：ソフトウェアやプログラム、Web サービスの間をつなぐインタフェース）方式について、各大学に導入に必要な情報提供及び意見交換を行うとともに、API 連携が円滑に行われることを検証するため、令和６年１２月から連携テストを行った。 - 電子出願システムを利用することになる全国 11 の高等学校の２年生を対象に、実際に電子出願システムを操作してもらい、アンケート調査を行った。 このほか、令和８年度大学入学共通テストの出願手続の電子化の予告について令和６年９月に、より詳細な情報を令和７年３月 18 日に公表した。
⑥ 障害のある者等に対する受験上の配慮について、障害者基本法（昭和 45 年法律第 84 号）等を踏まえ、障害等の種類・程度に応じた試験時間の延長、出題・解答の方法、別室の確保等、試験会場となる大学の施設・設備等の状況を勘案しつつ、一人一人の申請をきめ細かに確認して適切に実施するとともに、更なる充実に努める。	⑥ 障害のある者等に対する受験上の配慮について、障害者基本法（昭和 45 年法律第 84 号）や障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成 25 年法律第 65 号）の施行等の状況を踏まえ、障害等の種類・程度に応じた試験時間の延長、出題・解答の方法、別室の確保等、試験会場の施設・設備等の状況を勘案しつつ、一人一人の申請をきめ細かに確認して、適切に実施する。	B	⑥ 障害のある者等への受験上の配慮 共通テストにおいて実施している障害のある者等への受験上の配慮については、各大学における受験上の配慮に関する先進的な取組のモデルに資するべく、受験者一人一人の申請をきめ細かに確認して適切に実施するものとし、令和７年度共通テストにおいては、以下のような取組を行った。 障害のある者等が受験上の配慮を申請するための「受験上の配慮案内」（以下「配慮案内」という。）について、令和６年度共通テストにおいてその他の配慮事項を一覧化するなどの大幅な変更を実施したが、更なる利便性向上のため、配慮事項ごとの申請件数や申請者・大学等からの問合せ内容の分析を行い、それらを踏まえ記載事項やレイアウトの改善を進め、受験者一人一人の申請をきめ細かに確認できるよう内容を更に充実させた。

また、受験上の配慮が必要な者の試験場・試験室を設定する大学に対して、確実に実施されるよう要請する。

- ・令和7年度共通テストにおける新学習指導要領に基づく教育課程に対応した出題に伴い、文字・チェック解答用紙について、「地理歴史、公民」及び「理科」において、新たな選択科目・出題範囲に対応した上で、視覚的に判別しやすいデザインを検討し、改訂を行った。また、令和7年度共通テストから新たに追加された「情報」の取扱いについて検討を行い、「数学」「理科」と同様に文字・チェック解答の下書き用紙配付の対象とすることなどを決定、公表した。
- ・7月上旬の「配慮案内」の公表とともに、高等学校等関係者向けに「配慮案内」説明資料及び説明動画をウェブサイトに掲載して周知した。また、特別支援学校関係校長会に対し各特別支援学校への周知を依頼した。
- ・「受験案内」、「配慮案内」の内容を視覚障害者等が音声読み上げソフトを使用して確認できるよう、画像データをウェブサイトに掲載する際、テキストデータを併せて掲載した。
- ・文字・チェック解答用紙のイメージを「配慮案内」に掲載することに加え、解答枠を原寸大にしたイメージをウェブサイトに掲載した。
- ・障害のある受験者一人一人のニーズに応じて、より柔軟な対応に努める観点から、以下の配慮を初めて実施した。また、パソコンやタブレット端末の利用、人による問題文等の読み上げ、受験者の症状や状態等に応じ加工した問題冊子（下線部・傍線部を強調した問題冊子、漢字にルビを振った問題冊子等）の配付等の配慮についても引き続き実施した。

【視覚に障害がある受験者に対する配慮】

- ・下線部・傍線部を強調した問題冊子を作成の上、その冊子をPDFに変換したものをタブレットで閲覧
- ・点字解答において受験者が使用する点字器に個別に対応した解答用紙・下書き用紙の作成

受験上の配慮が必要な者が年々増加していることに鑑み、受験上の配慮が必要な者の試験場・試験室の設定については、以下のとおり対応した。

- ・各大学に対して受験上の配慮が必要な者の積極的な受入れについて要請した。
- ・試験場大学の負担を軽減するために、受験上の配慮が必要な者の試験場・試験室をより効率よく指定できるよう作業体系を改善した結果、試験場・試験室数を最小限に設定することとした。

なお、令和7年度共通テストにおける受験上の配慮許可者数及び受験上の配慮許可者数のうち拡大文字問題冊子配付許可者数内訳は以下のとおりである。

【受験上の配慮許可者数】（詳細については、資料編 p.12【資料8】参照）

（ ）内は令和6年度共通テスト

障 害 区 分	配慮事項	令和7年度共通テスト
視覚障害	点字解答（時間延長）、文字解答（時間延長）、その他（拡大鏡等の持参使用等）	124 人 （ 130 人）
聴覚障害	手話通訳、文書伝達、補聴器の装用等	539 人 （ 553 人）

				<table><tr><td>肢体不自由</td><td>チェック解答（時間延長）、代筆解答（時間延長）、別室設定、座席指定等</td><td>311 人 （ 313 人）</td></tr><tr><td>病 弱</td><td>別室設定、座席指定等</td><td>1,142 人 （ 940 人）</td></tr><tr><td>発達障害</td><td>時間延長、チェック解答、別室設定、座席指定等</td><td>541 人 （ 507 人）</td></tr><tr><td>そ の 他</td><td>別室設定、座席指定等</td><td>1,744 人 （ 1,520 人）</td></tr><tr><td colspan="2">合 計</td><td>4,401 人 （ 3,963 人）</td></tr></table> ※ 重複障害の者は、程度が重い障害区分に計上。 【受験上の配慮許可者数のうち拡大文字問題冊子配付許可者数内訳】 （ ）内は令和6年度共通テスト <table><tr><td>区 分</td><td>ポイント</td><td>令和7年度共通テスト</td></tr><tr><td rowspan="2">視覚障害</td><td>22 ポイント</td><td>21 人（29 人）</td></tr><tr><td>14 ポイント</td><td>41 人（46 人）</td></tr><tr><td rowspan="2">聴覚障害</td><td>22 ポイント</td><td>0 人（ 0 人）</td></tr><tr><td>14 ポイント</td><td>1 人（ 0 人）</td></tr><tr><td rowspan="2">肢体不自由</td><td>22 ポイント</td><td>2 人（ 2 人）</td></tr><tr><td>14 ポイント</td><td>7 人（ 9 人）</td></tr><tr><td rowspan="2">病 弱</td><td>22 ポイント</td><td>0 人（ 0 人）</td></tr><tr><td>14 ポイント</td><td>0 人（ 0 人）</td></tr><tr><td rowspan="2">発達障害</td><td>22 ポイント</td><td>14 人（16 人）</td></tr><tr><td>14 ポイント</td><td>47 人（51 人）</td></tr><tr><td rowspan="2">そ の 他</td><td>22 ポイント</td><td>0 人（ 0 人）</td></tr><tr><td>14 ポイント</td><td>3 人（ 5 人）</td></tr></table> ※ 重複障害の者は、程度が重い障害区分に計上。 【令和5年度業務実績に関する評価結果を踏まえた業務運営の改善等への反映状況】 〈令和5年度業務実績評価における主要な指摘等〉 - 令和8年度共通テスト（令和7年度実施）からの電子出願システムの導入に向けて、関係者への情報提供等、準備を着実に進めること。 〈上記の指摘事項を踏まえた令和6年度の改善状況〉 【全般】 - 令和8年度共通テストから電子出願システムを導入することについて、大学・高等学校の各関係団体に情報提供・説明を行った。 - 令和8年度共通テストに係る出願手続の電子化について、その概要を予告として	肢体不自由	チェック解答（時間延長）、代筆解答（時間延長）、別室設定、座席指定等	311 人 （ 313 人）	病 弱	別室設定、座席指定等	1,142 人 （ 940 人）	発達障害	時間延長、チェック解答、別室設定、座席指定等	541 人 （ 507 人）	そ の 他	別室設定、座席指定等	1,744 人 （ 1,520 人）	合 計		4,401 人 （ 3,963 人）	区 分	ポイント	令和7年度共通テスト	視覚障害	22 ポイント	21 人（29 人）	14 ポイント	41 人（46 人）	聴覚障害	22 ポイント	0 人（ 0 人）	14 ポイント	1 人（ 0 人）	肢体不自由	22 ポイント	2 人（ 2 人）	14 ポイント	7 人（ 9 人）	病 弱	22 ポイント	0 人（ 0 人）	14 ポイント	0 人（ 0 人）	発達障害	22 ポイント	14 人（16 人）	14 ポイント	47 人（51 人）	そ の 他	22 ポイント	0 人（ 0 人）	14 ポイント	3 人（ 5 人）
肢体不自由	チェック解答（時間延長）、代筆解答（時間延長）、別室設定、座席指定等	311 人 （ 313 人）																																																		
病 弱	別室設定、座席指定等	1,142 人 （ 940 人）																																																		
発達障害	時間延長、チェック解答、別室設定、座席指定等	541 人 （ 507 人）																																																		
そ の 他	別室設定、座席指定等	1,744 人 （ 1,520 人）																																																		
合 計		4,401 人 （ 3,963 人）																																																		
区 分	ポイント	令和7年度共通テスト																																																		
視覚障害	22 ポイント	21 人（29 人）																																																		
	14 ポイント	41 人（46 人）																																																		
聴覚障害	22 ポイント	0 人（ 0 人）																																																		
	14 ポイント	1 人（ 0 人）																																																		
肢体不自由	22 ポイント	2 人（ 2 人）																																																		
	14 ポイント	7 人（ 9 人）																																																		
病 弱	22 ポイント	0 人（ 0 人）																																																		
	14 ポイント	0 人（ 0 人）																																																		
発達障害	22 ポイント	14 人（16 人）																																																		
	14 ポイント	47 人（51 人）																																																		
そ の 他	22 ポイント	0 人（ 0 人）																																																		
	14 ポイント	3 人（ 5 人）																																																		

			令和6年9月6日に公表し、さらに検討を進め、詳細な手続の方法等を令和7年3月18日に公表した。 【参加大学への情報提供】 - 電子出願システムの導入後の成績請求に係る対応については、7月に各大学に仕様を提供するとともに、要望のあった大学関係団体に対し説明を行った。12月以降、当該機能を実装した大学の出願システムと連携テストを実施した。 【システム開発】 8月以降、高等学校の生徒に事前に電子出願システムを体験してもらい、システムの問題点等の検証を行った。 - 検証で得た指摘について、対応の優先順位などを整理し、令和7年度における電子出願システム改修の調達手続を進めた。
(3) 共通テストの採点・成績提供	(3) 共通テストの採点・成績提供	B	(3) 共通テストの採点・成績提供 共通テストの採点・成績提供については、以下の①～③を計画的かつ着実に実施した。
① 成績請求データ等作成及び取り扱いの留意点等について周知徹底するため、成績提供要領等の各種マニュアルを整備するとともに、参加大学に対して、セキュリティ対策を講じた特設サイトを利用して説明資料等を提供し、周知徹底を行う。	① 成績請求データ等作成及び取扱いの留意点等について周知徹底するため、成績提供要領等の各種マニュアルを整備するとともに、参加大学に対して、セキュリティ対策を講じた特設サイトを利用して説明資料等を提供し、周知徹底を行う。	B	①ー1 成績提供要領の整備 各参加大学が円滑に成績請求及び提供を受けられるよう、手続の詳細を記した成績提供要領を整備した。 ①ー2 成績提供要領の周知徹底 参加大学に対して、セキュリティ対策を講じた特設サイトを利用して成績提供要領及び解説付きのスライド資料を提供し、手続の具体的内容及び留意点等について周知徹底を図った。 また、参加大学の担当者に対し、オンラインで開催した入試担当者連絡協議会（9月12日、20日の2回）にて、成績提供要領をもとに手続の具体的内容及び留意点等について周知徹底を図った。

② 情報処理システムを適切に管理・運営し、正確な採点及び成績提供を行う。

② 令和7年度共通テストに係るシステム改修やプログラムのチェックなどのテストを確実に実施することにより、情報処理システムを適切に管理・運営し、正確な採点及び成績提供を行う。

B

②－1 情報処理システムの適切な管理・運営

電子計算機、OMR（光学式マーク読取装置）を適切に管理・運営するため、以下のことを実施し、正確な採点及び成績提供を行った。

ア 電子計算機

・ 共通テストの実施方法等の変更に対応してプログラム等を修正。

・ サーバ等の機械部・冷却部等の清掃・調整、診断プログラムによる動作確認、障害発生時の障害記録による障害箇所の調査・確認等の保守点検を実施。令和6年度においては、年間14日間実施。また、本試験と追・再試験の当日及び採点処理と成績提供期間を含む計16日間、保守員をセンター内に待機させた万全の保守体制を維持。

イ OMR（Optical Mark Reader／光学式マーク読取装置）

・ 共通テストの実施方法等の変更に対応してプログラム等を修正。

・ 各装置のマークシート搬送路等の機械部分の清掃・注油・調整、OMRの心臓部であるカメラ部分の機械的、電気的、光学的な調整等の保守点検を実施。令和6年度においては、年間69日間実施。

②－2 採点

正確な採点のため、適切に保守・管理した電子計算機、OMRを使用し、全ての答案について2回ずつ読取りを行って万全を期した。

また、答案読取り及び採点処理等の下記期間中は、不測の事態に備えるため、電子計算機及びOMRそれぞれの保守員をセンターに常駐させた。

常駐期間 令和7年1月20日～23日、1月27日、1月28日（6日間）

・ 答案等枚数・読取枚数

答案等枚数 3,467,253枚

OMR読取枚数※ 6,973,766枚

※照合不一致、読取順の誤りに伴う再読取枚数を含む。

②－3 成績提供の実績

参加大学の大学入学者選抜に利用するため、共通テストの成績を参加大学の請求に基づき提供している。

なお、令和7年度共通テストの成績提供の実績は以下のとおりである。

ア 当年度成績提供大学数・提供件数

試験年度	令和4年度共通テスト	令和5年度共通テスト	令和6年度共通テスト	令和7年度共通テスト	
大学数	859大学	851大学	842大学	816大学	
提供件数	1,532,316件	1,492,094件	1,494,419件	1,638,140件	
（内訳）	国立大学	322,734件	320,163件	322,356件	324,301件
	公立大学	135,015件	133,326件	132,417件	138,156件
	私立大学	1,069,100件	1,034,045件	1,035,921件	1,172,400件
	短期大学	5,237件	4,288件	3,461件	2,948件
	公立専門職大学	145件	210件	139件	212件

			<table><tr><td></td><td>私立専門 職大学</td><td>85 件</td><td>62 件</td><td>125 件</td><td>123 件</td></tr></table>		私立専門 職大学	85 件	62 件	125 件	123 件																																						
	私立専門 職大学	85 件	62 件	125 件	123 件																																										
			イ 過年度成績提供大学数・提供件数 <table><tr><td>試験年度</td><td>令和4年度共通テスト</td><td>令和5年度共通テスト</td><td>令和6年度共通テスト</td><td>令和7年度共通テスト</td></tr><tr><td>大学数</td><td>14 大学</td><td>7 大学</td><td>9 大学</td><td>10 大学</td></tr><tr><td>提供件数</td><td>34 件</td><td>7 件</td><td>15 件</td><td>18 件</td></tr><tr><td rowspan="6">(内訳)</td><td>国立大学</td><td>0 件</td><td>0 件</td><td>0 件</td></tr><tr><td>公立大学</td><td>0 件</td><td>0 件</td><td>0 件</td></tr><tr><td>私立大学</td><td>34 件</td><td>5 件</td><td>15 件</td><td>18 件</td></tr><tr><td>短期大学</td><td>0 件</td><td>2 件</td><td>0 件</td><td>0 件</td></tr><tr><td>公立専門 職大学</td><td>0 件</td><td>0 件</td><td>0 件</td><td>0 件</td></tr><tr><td>私立専門 職大学</td><td>0 件</td><td>0 件</td><td>0 件</td><td>0 件</td></tr></table>	試験年度	令和4年度共通テスト	令和5年度共通テスト	令和6年度共通テスト	令和7年度共通テスト	大学数	14 大学	7 大学	9 大学	10 大学	提供件数	34 件	7 件	15 件	18 件	(内訳)	国立大学	0 件	0 件	0 件	公立大学	0 件	0 件	0 件	私立大学	34 件	5 件	15 件	18 件	短期大学	0 件	2 件	0 件	0 件	公立専門 職大学	0 件	0 件	0 件	0 件	私立専門 職大学	0 件	0 件	0 件	0 件
試験年度	令和4年度共通テスト	令和5年度共通テスト	令和6年度共通テスト	令和7年度共通テスト																																											
大学数	14 大学	7 大学	9 大学	10 大学																																											
提供件数	34 件	7 件	15 件	18 件																																											
(内訳)	国立大学	0 件	0 件	0 件																																											
	公立大学	0 件	0 件	0 件																																											
	私立大学	34 件	5 件	15 件	18 件																																										
	短期大学	0 件	2 件	0 件	0 件																																										
	公立専門 職大学	0 件	0 件	0 件	0 件																																										
	私立専門 職大学	0 件	0 件	0 件	0 件																																										
③ 試験成績の開示を希望する受験者本人に対して、当該年度の入学者選抜の全体日程終了後に共通テストの成績を確実に通知する。	③ 試験成績の開示を希望する受験者本人に対して、令和7年度の入学者選抜の全体日程終了後に共通テストの成績を確実に通知する。	B	③ 成績開示希望者への成績通知の実績 令和7年度共通テストの成績の開示を希望する受験者に、成績を通知した。 ・成績通知書送付数 409,252 人 (前年度 402,255 人) ・成績通知書送付率 82.6% (前年度 81.8%) (全志願者に対する通知書送付数の割合)																																												
(4) 高等学校学習指導要領等への対応 令和4年度から年次進行で実施される高等学校学習指導要領(平成30年告示。以下「新学習指導要領」という。)に対応した試験を適切に実施するため、文部科学省の「大学入試のあり方に関する検討会議」など関連する会議における検討結果等を踏まえ必要な対応を行うとともに、実施方法等について検討し、令和6年度から着実に実施する。	(4) 高等学校学習指導要領等への対応 新学習指導要領に対応した令和7年度共通テストを適切に実施するため、「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針」(令和5年6月9日公表)に基づき、これまでの試験実施結果も踏まえつつ、令和7年度共通テストの問題作成を行う。 また、「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等」(令和5年6月9日公表)等を踏まえ、令和7年度共通テストの実施方法や時間割等を定めた「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施要項」を策定し、公表する。その上で、参加大学に配付する実施・監督・輸送等に関わる各種マニュアルを速やかに提供するとともに、受験	A	(4) 高等学校学習指導要領等への対応 令和7年度共通テストについては、新学習指導要領に対応した出題教科・科目となるとともに、旧教育課程履修者に対して経過措置として別科目を出題するなど複雑な試験となった。 試験問題の作成については、例年よりも多くの委員を委嘱し計画的かつ着実にいった。試験実施においては実施方法の検討を入念に行う等、次の①～④のとおり取り組み、円滑に試験を実施した。 ①—1 実施要項の公表 令和7年度共通テストの実施方法や時間割等を定めた「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施要項」を策定し、令和6年6月7日に公表した。 ①—2 受験案内の公表 新学習指導要領や旧教育課程履修者に対する経過措置に対応した「受験案内」を作成し、令和6年7月10日に公表した。また、令和7年度共通テストの注意点等の周知を図るため、志願者向けの「リーフレット」を作成し、「受験案内」に同封して配付した。 ①—3 各種マニュアルの提供 新学習指導要領や旧教育課程履修者に対する経過措置に対応した実施要領、監督要領、輸																																												

	者及び高等学校に配布する受験案内等を適宜公表する。 併せて、令和７年度以降の共通テストの実施に当たり必要となる情報処理システムの整備を計画的に実施する。		送要領について、令和６年８月２９日に参加大学専用の特設サイトに掲載し提供した。 ② 試験問題の作成 「問題作成方針」に基づき、新教育課程に対応した試験問題及び経過措置としての旧教育課程による試験問題について、これまでの試験実施結果も踏まえつつ試験問題を作成した。 ③ 情報処理システムの整備 新旧教育課程に対応した令和７年度共通テストの実施に当たり、教科・科目の変更や新旧教育課程への対応等のシステム改修を実施した。 ④ 参加大学や高等学校等への周知 参加大学や高等学校等における令和７年度共通テストに向けた準備に資するよう、変更がある教科・科目における問題冊子の形態や解答用紙の様式等について公表した。 参加大学に対しては、「入試担当者連絡協議会」をオンラインにより開催し、新学習指導要領に対応した出題教科・科目となることや旧教育課程履修者に対して経過措置を行うこと等を周知した。 高等学校等に対しては、教育委員会を含む高等学校関係者を対象とした「説明協議会」をオンラインで開催し、志願者が間違いなく出願できるよう指導を依頼するとともに、出願書類の取りまとめ等、共通テストの実施についての協力を要請した。 【令和５年度業務実績に関する評価結果を踏まえた業務運営の改善等への反映状況】 〈令和５年度業務実績評価における主要な指摘等〉 ・ 新教育課程に対応した令和７年度共通テスト（令和６年度実施）が円滑に実施できるよう、受験者等の関係者に対し、丁寧な情報発信を引き続き行うこと。 〈上記の指摘事項を踏まえた令和６年度の改善状況〉 【全般】 ・ 「令和７年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱」（文部科学省が公表）に基づき、６月７日に、「令和７年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施要項」を公表した。 【高等学校・志願者】 ・ 「受験案内」について、「令和７年度大学入学共通テストの主な変更点」として、出題教科・科目の変更点や旧教育課程履修者に対する経過措置等を新たに記載し、７月１０日にセンターのウェブサイトに掲載し、公表した。この「受験案内」については９月２日から志願者に配付した。 ・ 出願時の受験教科の登録方法や試験当日の科目選択の方法、解答用紙の解答科目欄にマークする際のポイント等を新たに「リーフレット」としてまとめ、「受験案内」と併せて７月１０日にセンターのウェブサイトに掲載し、公表した。 なお、本リーフレットは受験案内に同封し、志願者に配付した。
--	--	--	---

			・ 高等学校等の教員等を対象として7月17日、23日に説明協議会をオンラインで開催し、令和7年度大学入学共通テストの変更点等を中心に説明・協議を行った。 開催に当たり、令和7年度共通テスト全般について事前に質問を受け付け、協議会当日に説明と併せて回答した。このほか、協議会当日にも説明内容について質問を受け付け、協議会後にセンターのウェブサイトに質問内容と回答を掲載した。 なお、協議会終了後は8月末までウェブサイト上で質問を受け付け、9月11日に質問内容と回答をウェブサイトに掲載した。 ・ 志願者に対しては、令和7年度大学入学共通テストの理解を深めるため、各教科・科目の出題方法や解答方法の変更点、受験時の注意事項等に関する説明動画を新教育課程履修者用と旧教育課程履修者用それぞれ新たに作成し、「受験案内」と併せて7月10日にセンターのウェブサイトに掲載した。 ・ 令和7年度大学入学共通テストにおいて、問題冊子の表紙の注意事項や解答用紙の様式などに変更がある一部の教科・科目（「地理歴史、公民」、「理科」、「数学」、「情報」）については、問題冊子の注意事項及び解答用紙の様式を「受験案内」と併せて7月10日にセンターのウェブサイトに掲載した。 ・ 試験当日の注意事項について、「受験上の注意」を各志願者に送付し注意喚起を図るとともに、受験者向けに説明スライド資料を新たに作成し、公表した。 【参加大学】 ・ 9月12日、20日に入試担当者連絡協議会をオンラインで開催し、令和7年度大学入学共通テストの変更点等を中心に、説明・協議を行った。 ・ 協議会の開催に当たっては、説明協議会と同様に、各実施大学の担当者から事前、協議会当日及び協議会終了後にも質問を受け付け、回答した。 ・ 8月から12月にかけて、試験当日の留意事項等をはじめ、各種の実施方法に係る資料を提供した。
--	--	--	--

2 大学の入学者選抜方法の改善に関する調査研究

センター法第13条第1項第2号に基づき、センターは、大学の入学者の選抜方法の改善に関する調査研究について、大学や高等学校等と連携しつつ進める。

特に、センターは、大学入学者選抜のナショナルセンターを目指して、高大接続や大学入学者選抜に関する時代の要請を的確に捉えながら、大学入学者選抜方法の改善に関する調査研究を実施する。

調査研究においては、真に必要なとされる具体的なテーマに集中・特化して選定を行うとともに、それに対する目標や評価の基準の明確化を図るものとする。

(1) 調査研究の在り方及び評価・公表

将来の大学入学者選抜の望ましい在り方を見据えながら、共通テストに関する調査研究や、大学入学者選抜方法の改善に資する基盤的な調査研究や政策的・社会的課題に対応した調査研究等に取り組むことが必要である。

このことを踏まえ、理事長のリーダーシップの下で策定する研究計画に基づき調査研究を着実に実施するとともに、外部評価にあたっては、設定した目標が達成されているか、研究成果が入学者選抜の改善に活用できる内容であるか等について厳格な評価を行った上で、当該評価結果に沿った改善を図りつつ、成果が十分でない研究テーマについては、理事長の判断により機動的に見直しを行う。

また、研究成果については、共通テストの改善に活用するとともに、各大学との研究協議等を通じた、各大学の入学者選抜方法の改善や、国が行う大学入学者選抜方法の改善に向けた政策の企画立案への活用を促し、その活用状況も含め、多様な手段で積極的かつ効果的に公表する。

(2) プロジェクト型研究の推進

大学入学者選抜方法の改善に関する調査研究は、分野横断的な研究活動が要求されることを踏まえ、専門分野が特定の分野に偏らないような組織編制を継続しつつ、大学等の外部の研究者の参画も得た柔軟な体制による調査研究を行う。さらに、調査研究成果の事業への実装に向けて、事業部門との有機的な連携を行う。

(3) 共通テストに関する調査研究

共通テストの改善方策等に関して調査研究を行い、出題内容や選抜方法に適切に反映させる。特に、良質の試験問題の作成に資する調査研究並びに科目間の得点調整及び本試験と追試験の比較に関する調査研究を行う。

(4) 大学入学者選抜の基盤的・実践的な調査研究

大学入学者選抜方法の改善に向けて、教育測定や高大接続等に係る基盤的研究とともに、大学入学者選抜におけるComputer Based Testing (CBT) などの新技術の活用や障害のある者等への合理的配慮、アドミッションスタッフの育成支援など、政策的・社会的課題に対応した実践的な調査研究を行う。

(5) 試験情報の活用の推進

教育データを多様に利活用する動向を見据えつつ、個人情報保護に十分留意した上で、大学入学者選抜方法の改善、ひいては高等学校及び大学の教育改善が促されるよう、共通テスト等の試験情報の活用に関し調査研究を実施した上で、その仕組みを構築する。

【指標】

・調査研究を研究計画に基づき着実に実施するとともに、外部評価委員会において、研究課題に設定した目標が達成された上で、その研究成果が入学者選抜の改善に活用できる内容であるとの評価を 80%以上の研究課題で得る。

【重要度：高】共通テストや個別の大学入学者選抜の不断の改善に向け、新学習指導要領に対応した共通テストにおける得点調整の在り方などの中期的な課題だけではなく、CBT を始めとする新技術を活用した大規模試験に関する調査研究などの長期的な課題についても、調査研究を行い、専門的知見に基づく改善方を提示することが不可欠であるため。

【困難度：高】特に、得点調整や新技術を活用した試験に関する調査研究は、求められる達成水準が高いだけでなく、社会的影響も大きいことから、社会の理解を得つつ調査研究を進める必要があるため。

中期計画	令和6年度計画	進捗状況	実績（進捗状況の判断理由）										
2 大学の入学者選抜方法の改善に関する調査研究 大学入学者選抜のナショナルセンターを目指して、高大接続や大学入学者選抜に関する時代の要請を的確に捉えながら、大学や高等学校等と連携しつつ大学入学者選抜方法の改善に関する調査研究を実施する。 調査研究を行う際、選定テーマにおける目標や評価の基準の明確化を図るとともに、外部委員による評価結果を踏まえ、必要に応じて目標や評価の基準の見直しを行う。	2 大学の入学者選抜方法の改善に関する調査研究 大学入学者選抜のナショナルセンターを目指して、高大接続や大学入学者選抜に関する時代の要請を的確に捉えながら、大学や高等学校と連携しつつ大学入学者選抜方法の改善に関する調査研究を実施する。 調査研究を行う際に、選定テーマにおける目標や評価の基準の明確化を図るとともに、外部委員による評価結果を踏まえ、必要に応じて目標や評価の基準の見直しを行う。	A	2 大学の入学者選抜方法の改善に関する調査研究 大学の入学者選抜方法の改善に関する調査研究として、以下の(1)～(5)を計画的かつ着実に実施した。										
(1) 調査研究の在り方及び評価・公表 将来の大学入学者選抜の望ましい在り方を見据えながら、共通テストに関する調査研究や、大学入学者選抜方法の改善に資する基盤的な調査研究、政策的・社会的課題に対応した調査研究等に取り組む。こうしたことを踏まえ、理事長のリーダーシップの下で策定する研究計画に基づき、調査研究を着実に実施する。なお、研究の実施に当たっては、科学研究費補助金などの	(1) 調査研究の在り方及び評価・公表 理事長のリーダーシップの下で策定した研究計画に基づき、外部資金も積極的に活用しながら共通テストに関する調査研究や大学入学者選抜方法の改善に資する基盤的な調査研究、政策的・社会的課題に対応した調査研究に取り組む。 評価における達成指標については、外部評価委員会における評価の結果、研究課題に設定した令和6年度の目標		(1) 調査研究の在り方及び評価・公表 ○ 調査研究の在り方等 共通テストに関する調査研究及び大学の入学者の選抜方法の改善に関する調査研究について、令和3年3月に策定した「独立行政法人大学入試センター研究開発戦略」に基づき、実施した。 ・ 中期計画・年度計画を達成するための調査研究等は、主に理事長裁量経費により実施しており、令和6年度における調査研究の配分は、10件 13,780千円であった。（研究テーマ等は資料編 p.13【資料9】参照。） <table><tr><th>区分</th><th>令和3年度</th><th>令和4年度</th><th>令和5年度</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td>件数</td><td>11件</td><td>12件</td><td>10件</td><td>10件</td></tr></table>	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	件数	11件	12件	10件	10件
区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度									
件数	11件	12件	10件	10件									

競争的資金を積極的に活用する。

評価における達成指標については、外部評価委員会における評価の結果、研究課題に設定した目標を達成した上で、その研究成果が入学選抜の改善に活用できる内容であるとの評価を受ける研究課題の割合が 80%以上とする。当該評価結果に沿った改善を図りつつ、成果が十分でない研究テーマについては、理事長の判断により機動的に見直しを行う。

また、研究成果については、共通テストをはじめ我が国の大学入学選抜方法の改善に資するため、以下のことを行うとともに、活用状況の把握に努める。

① 各大学や高等学校が利用しやすいよう積極的にホームページ等で公表する。

② 国内外の学会や学会誌等で発表する。

③ 国が行う大学入学選抜方法の改善に向けた政策の企画立案のための資料を提供する。

④ センターが主体となり、各大学と連携して入学選抜に関する研究協議を実施する。

また、研究協議の場において研究成果を周知・公表し、その活用を促すことを通じて現れた諸課題を踏まえた調査研究に取り組む。

を達成した上で、その研究成果が入学選抜の改善に活用できると見込める内容であるとの評価を受ける研究課題の割合が 80%以上とする。当該評価結果に沿って調査研究内容の改善を図るとともに、成果が十分に見込めない研究テーマについては、理事長の判断により機動的に見直しを行う。

また、研究成果については、共通テストをはじめ我が国の大学入学選抜方法の改善に資するため、各大学や高等学校から利用されるようホームページ等における積極的な公表や、国内外の学会や学会誌等での発表を行う。加えて、国が行う大学入学選抜方法の改善に向けた政策の企画立案のための資料の提供を行うとともに、センターが主体となり各大学と連携した入学選抜に関する研究協議を実施しつつ、活用状況の把握に努める。

さらに、研究協議の場において研究成果を周知・公表し、その活用を促すとともに、過去の研究成果に係る活用状況の把握に努め、社会に分かりやすく発信することを通じて現れた諸課題を踏まえた調査研究に取り組む。

総額	14,754 千円	17,307 千円	14,743 千円	13,780 千円
----	-----------	-----------	-----------	-----------

外部資金については、科学研究費補助金に加え、JST 戦略的創造研究推進事業での外部資金も積極的に活用した。

(科学研究費補助金) (資料編 p.14【資料 10】参照)

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
研究課題 件数	新規	5 件	2 件	3 件	5 件
	継続	9 件	13 件	14 件	10 件
	合計	14 件	15 件	17 件	15 件
新規申請件数	7 件	3 件	5 件	8 件	
採択件数	5 件	2 件	3 件	5 件	
採択率	71.4%	66.7%	60.0%	62.5%	

※4年度の継続件数には、前任機関での採択1件を含む。

(JST 戦略的創造研究推進事業)

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
研究課題 件数	新規	1 件	0 件	0 件	0 件
	継続	1 件	1 件	1 件	1 件
	合計	2 件	1 件	1 件	1 件
新規申請件数	1 件	0 件	0 件	0 件	
採択件数	1 件	0 件	0 件	0 件	
採択率	100%	0 %	0 %	0 %	

外部評価

理事長裁量経費により実施した調査研究については、高等教育やテスト理論等を専門とする外部有識者により、研究代表者の報告書とヒアリングに基づき、調査研究等の目的が達成されたか、優れた成果が得られたか、研究目標が達成され、大学入学選抜の改善に活用できるか等の観点から評価を実施した。(以下「外部評価」という。)

評価は「A」「A-」「B」「C」の4段階から成り、「A-」以上の評価を受けたものを、研究課題に設定した令和6年度の目標を達成した上で、その研究成果が「入学選抜の改善に活用できると見込める内容である」と評価することとしている。

対象の研究課題合計7件については、全ての研究課題が「入学選抜の改善に活用できると見込める内容である」と評価を受けた。

なお、令和5年度からは、次年度に行う調査研究についても外部評価を実施している。また、外部有識者による研究課題ごとの改善に向けた助言を、今後の調査研究に活かしていくこととしている。

研究成果の公表等

研究成果については、共通テストをはじめ我が国の大学入学選抜方法の改善に資するため、次の①～④のとおり公表した。

① **各大学や高等学校が利用しやすいよう積極的にホームページ等で公表**
センターでの研究成果を含めた、入試研究に関する論文等を、冊子「大学入試研究ジャーナル」として取りまとめ、調査研究の成果を各大学・高等学校及び研究者が利用しやすいようウェブサイトにおいて公表した。

② **国内外の学会や学会誌等で発表**

国内外の学会や学会誌等で、以下のとおり研究成果を発表した。なお、令和6年度は7名が学会等から受賞した。（資料編 p.15【資料11】参照）

単位：件（ ）内は前年度

学 会		学会誌等	
国際学会・国際会議	8(8)	欧文誌	10(6)
国内学会	31(18)	和文誌	15(7)
研究開発部セミナー	16(14)	リサーチノート	1(3)
外部セミナー・研究会など	11(6)	報告書	19(23)
解説・その他	7(9)	著書・学位論文	7(19)

欧文誌 : Interactive Learning Environments、
Document Analysis and Systems など

和文誌 : 大学入試研究ジャーナル、日本テスト学会誌

リサーチノート : 大学入試センター研究開発部リサーチノート

報告書 : 大学入学共通テストモニター調査研究報告書、科学研究費補助金研究成果報告書、研究報告書など

③ **国が行う大学入学者選抜方法の改善に向けた政策の企画立案のための資料を提供**

国が行う入学者選抜方法の改善の企画立案に資するよう、センターが作成した入試研究に関する資料を文部科学省に随時提供したほか、「研究開発部活動報告」の刊行物を提供した。また、「大学入試研究の動向」及び「大学入試研究ジャーナル」をウェブサイトに掲載したことを案内した。

④ **センターが主体となり、各大学と連携して入学者選抜に関する研究協議を実施**

大阪公立大学との共催により令和6年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会（第19回）を開催しており、アンケート等でプログラムの内容等に関し高評価を得た。（資料編 p.16【資料12】参照）

【令和5年度業務実績に関する評価結果を踏まえた業務運営の改善等への反映状況】

〈令和5年度業務実績評価における主要な指摘等〉

- ・ 研究成果については、過去のものも含めて活用状況をフォローアップするとともに、引き続き社会に対し積極的に発信を行うことが期待される。

〈上記の指摘事項を踏まえた令和6年度の改善状況〉

		・ ウェブサイトにおいて過去のものも含めて活用状況の発信を行っている。令和6年度には大学入学者選抜に実装された事例として「CBT 出題モジュールの開発」、「リスニングテストの研究」及び「得点調整の調査研究」の研究成果記事を公開した。
(2) プロジェクト型研究の推進 大学入学者選抜方法の改善に関する調査研究は、分野横断的な研究活動が要求されることを踏まえ、専門分野が特定の分野に偏らないような組織編制を継続しつつ、大学等の外部の研究者の参画も得た柔軟な体制による調査研究を行う。さらに、調査研究成果の事業への実装を企図し、試験問題作成部署を含めた事業部門との有機的な連携を行う。 また、共同研究を推進するため、大学入試の研究者にとって魅力のある研究資源を定期的に収集・整理し、連携・交流する研究者に提供する。	(2) プロジェクト型研究の推進 令和6年度においては、大学等の外部の機関・研究者と連携した取組として、既に大学入学者選抜において Computer Based Testing(CBT)を活用した、又は活用することを検討している大学等と協定を締結し、連携協力して各大学における入学者選抜での CBT の活用を更に推進するための体制を構築するとともに、名古屋工業大学と連携して大学入学後の学修状況と共通試験（共通テスト及び大学入試センター試験）との関連に関する追跡調査を実施する。 また、調査研究成果の事業への実装を企図し、試験問題作成部署と連携した共通テスト試験問題に関する大学生へのアンケート調査の分析等により、試験問題形式と解答プロセスの関係に係る基礎的な研究を実施する。 さらに、共同研究の推進に資するよう、共通テストの実施関連資料や研究報告書を、令和4年度に整備したアーカイブサイトに引き続き収集・整理し、大学入試の研究者にとって魅力のある研究資源を提供する。	(2) プロジェクト型研究の推進 プロジェクト型研究の推進について、以下を計画的かつ着実に実施した。 ○CBT の活用に向けた大学等機関との連携 大学入学者選抜における Computer Based Testing (CBT) のさらなる活用促進に向け、神田外語大学・佐賀大学・電気通信大学と連携して、導入時に検討を要した点をリストとして整理するとともに、直面した課題と解決策を対応させて明文化した。また、共通テストや連携大学の過去問題などの電子ファイルを CBT の国際技術標準に準拠した形で作成し、出題・解答形式の多様性や試験問題の流通の利点を周知する体験機会提供の計画を精緻化した。 本調査研究は、外部評価において、当初の目標が達成され、期待どおりの成果が見込まれ、「入学者選抜の改善に活用できると見込める内容である。」と評価された。（研究期間：令和6年度～令和8年度） ○大学入学後の学修状況と共通試験との関連に関する追跡調査研究 令和5年度から共同して調査研究を行っている名古屋工業大学が保有する入試成績データと学内成績データについて相関分析を行い、両データ間の相関の経年変化に関する知見を得た。さらに、センターと佐賀大学、長崎大学、大阪公立大学との間で各大学が保有する入試成績データと学内成績データの利用許諾の覚書を締結し、各大学のデータに基づく追跡調査研究を開始した。 また、令和5年度に実施した追跡調査のフィージビリティ・スタディの研究成果を活用し、令和6年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会（第19回）において全体会1（センターセミナー）「大学入学者に対する追跡調査研究の現状と展望」を企画・開催した。 本調査研究は、外部評価において、当初の目標が概ね達成され、概ね期待どおりの成果が見込まれ、「入学者選抜の改善に活用できると見込める内容である。」と評価された。（研究期間：令和6年度～令和7年度） ○試験問題形式と解答プロセスの関係に関する基礎的研究 調査研究成果の事業への実装を企図した事業部門との有機的な連携の一環として、試験問題形式と解答プロセスの関係に関する基礎的研究において、令和5年度に実施した試験問題への取組状況を尋ねるアンケート調査の回答を集計・分析した。集計・分析に試験問題作成部署の視点を取り入れるとともに分析結果を共有することで、試験問題作成部署と連携した。 ※外部評価における評定については、P. 32(3)-①参照 ○大学入試関連アーカイブの運用 大学入試の研究者にとって魅力のある研究基盤を整備するための研究資源の収集の一環として、ニーズが高いセンター発出文書や研究報告書等を PDF 化し検索できるアーカイブサイトの情報の追加を行った。

			※本件は、研究開発部の業務経費により実施したため、外部評価の対象外。
(3) 共通テストに関する調査研究 共通テストの改善方策等に関して調査研究を行い、出題内容や選抜方法に適切に反映させる。特に、次に掲げる研究課題について、計画的に調査研究を行うとともに、調査研究の成果も踏まえながら共通テストの改善を図る。 ① 良質の試験問題の作成に資する調査研究 ② 共通テストの科目間の得点調整に関する調査研究 ③ 本試験と追試験の比較に関する調査研究 ④ その他共通テストの改善に関する調査研究	(3) 共通テストに関する調査研究 共通テストの改善方策等に関して調査研究を行い、出題内容や選抜方法に適切に反映させる。次の①～④に掲げる研究課題を中心に、計画的に調査研究を行うとともに、調査研究の成果も踏まえながら共通テストの改善を図る。 ① 良質の試験問題の作成に資する調査研究 ② 共通テストの科目間の得点調整に関する調査研究 ③ 本試験と追試験の比較に関する調査研究 ④ その他共通テストの改善に関する調査研究	(3) 共通テストに関する調査研究 共通テストに関する調査研究として、以下の①～④を計画的かつ着実に実施した。 ① 良質の試験問題の作成に資する調査研究 試験問題形式と解答プロセスの関係に関する基礎的研究を行うことを目的として、令和5年度に実施した試験問題への取組状況を尋ねるアンケート調査の回答を分析し、教科の専門家の協力を得て問題と解答過程との関係を資料にまとめた。また、共通試験の問題形式について、前年度に引き続き対象科目・年度における属性の種類や数等の情報のデータ化を進めるとともに、「理科」の科目についてデータの不備等を検証して確定版のデータセットを作成した。 本調査研究は、外部評価において、当初の目標が概ね達成され、概ね期待どりの成果が見込まれ、「入学者選抜の改善に活用できると見込める内容である。」と評価された。 (研究期間：令和6年度～令和7年度) ② 共通テストの科目間の得点調整に関する調査研究 令和7年度共通テストより、得点調整の実施条件が平均点差だけでなく、段階表示におけるスタナイン区分点差にも基づくようになった。このため、令和6年度においては、考え得る様々なタイプの悪条件のデータを用いても、プログラムが誤作動しないかの確認を行い、必要に応じてプログラムの改修を行うことで、プログラムを頑健化することができた。また、得点調整の要否に必要な資料を自動出力するよう整えた。さらに、当プログラムと研究開発部が独自で作成した他言語のプログラムとの検算作業を行った上で、共通テストの情報処理システムに移管し、移管後も正しくプログラムが作動することを確認した。 ※理事長裁量経費の業務経費により実施したため、外部評価の対象外。(研究期間：令和6年度) ③ 本試験と追試験の比較に関する調査研究 令和7年度共通テストにおける本試験と追試験の間の難易差及び類似性を比較するために、大学1年生を調査参加者として本試験と追試験の両方の問題を解答させた。令和7年度共通テストは新学習指導要領に基づき出題されたが、旧教育課程による出題科目も調査の対象とした。有効な355名のデータを分析した結果、調査対象科目(計24科目)について、令和7年度共通テストの本試験と追試験は概ね同等であることが確認できた。この比較結果は「問題作成部会」に提供され、難易度比較などのための検討資料として利用された。 ※研究開発部のモニター調査実施経費により実施したため、外部評価の対象外。(研究期間：令和6年度) ④ その他共通テストの改善に関する調査研究 リスニング音源作成支援のための高品質テキスト音声合成を用いた調査研究 コロナ禍などによって、音声の収録作業ができないような緊急時の代替方式として、先端の深層学習に基づく合成音声の利用可能性を検証した。人の録音音声と合成音声を	

		組み合わせた試験問題を作成して実験した。その結果、受験者には、人の声と合成音声の違いは検知されず、試験成績にも系統的な違いは見られなかった。合成音声を適用したリスニングテストは、人の声と比しても遜色なく利用できる可能性が示された。 本調査研究は、外部評価において、当初の目標が達成され、期待どおりの成果が見込まれ、「入学者選抜の改善に活用できると見込める内容である。」と評価された。（研究期間：令和6年度～令和7年度）
(4) 大学入学者選抜の基盤的・実践的な調査研究 大学の入学者選抜方法の改善に向けて、教育測定や高大接続等に係る基盤的研究とともに、次に掲げる政策的・社会的課題に対応した実践的な調査研究を行う。 ① Computer Based Testing (CBT) などの新技術を活用した入学者選抜に関する調査研究 ② 障害のある者等に配慮した入学者選抜に関する調査研究 ③ アドミッションスタッフの育成支援等に関する調査研究 ④ その他大学入学者選抜方法の改善に関する調査研究	(4) 大学入学者選抜の基盤的・実践的な調査研究 大学の入学者選抜方法の改善に向けて、教育測定や高大接続等に係る基盤的研究とともに、次の①～⑤に掲げる政策的・社会的課題に対応した実践的な調査研究を行う。 ① CBT などの新技術を活用した入学者選抜に関する調査研究 ② 障害のある者等に配慮した入学者選抜に関する調査研究 ③ アドミッションスタッフの育成支援等に関する調査研究 ④ 大学で学ぶための基礎的学力の新たな評価測度の開発に関する調査研究 ⑤ その他大学入学者選抜方法の改善に関する調査研究 CBT については、共通テストのような大規模試験への導入には未だ課題があることから、各大学における入学者選抜での活用を念頭に引き続き調査研究を行うとともに前述の協定に基づき、大学等機関と連携協力して CBT の活用を更に推進するための体制を構築し、CBT 実施に係る知見の共有等に取り組み、活動による成果を広く公開する。	(4) 大学入学者選抜の基盤的・実践的な調査研究 大学入学者選抜の基盤的・実践的な調査研究として、以下の①～⑤を計画的かつ着実に実施した。 ① Computer Based Testing (CBT) などの新技術を活用した入学者選抜に関する調査研究 ア 受験者 BYOD 端末への CBT 環境配布方法パッケージの確立と試行実験 受験者が自身の端末を持参する CBT (BYOD 型 CBT) の実施方法の確立に向け、大学生を対象とした試行実験を行い、受験環境の事前準備および当日の対応事項などに関する知見を得た。マニュアルや伴走サイトをわかりやすく示すことで、受験環境の事前準備を適切に実施できた受験者が大多数であった反面、事前準備の煩雑さを感じる受験者も少数見られた。また、当日の試験監督者の対応事項が、型の異なる USB ポートやイヤホンジャックの接続不良などハードウェアの側面に絞り込まれることも示された。 本調査研究は、外部評価において、当初の目標が達成され、期待どおりの成果が見込まれ、「入学者選抜の改善に活用できると見込める内容である。」と評価された。（研究期間：令和6年度～令和7年度） イ CBT の活用に向けた大学等機関との連携 p. 31 (2)「CBT の活用に向けた大学等機関との連携」参照 ② 障害のある者等に配慮した入学者選抜に関する調査研究 CBT 分野の研究開発の要請と共通テストの開始を踏まえ、読み書きに困難を抱えるような障害のある者等（主に視覚障害者と発達障害者）の更なる受験環境向上のために調査研究を進めた。 その要件調査として、点字受験者のための新たな CBT システムの開発を念頭に、クライアントシステムへのアイテムバンク搭載の可能性を実機検証して実践上の課題を把握した。 また、全国学力・学習状況調査における CBT 化に関わる合理的配慮のアセスメントとして、当該 CBT 化において採用された合理的配慮の戦略を分析し、一般適用可能性を含めた知見を得た。 研究成果については、令和6年5月29日に視覚障害者の ICT 活用および日本語点字表記法に関する有識者による「海外最新点字ディスプレイ動向サミット」を主催し、研究の周知とともに、大学入試をはじめとする高度知的作業における点字使用者の ICT 活用の可能性について意見聴取を行った。また、大学入試センター・シンポジウム 2024「障害者配慮入試からはじまる、豊かな学生生活を提供するために」を開催した。 ※科学研究費補助金や JST 戦略的創造研究推進事業、研究開発部のシンポジウム開催経費により実施したため、外部評価の対象外。（研究期間：令和3年度～令和7年度）

③ アドミッションスタッフの育成支援等に関する調査研究

大学入学者選抜への CBT 導入に向けた論点を理解、整理し、主体的に行動できるようになることをねらいとして、「2024 年度大学入試センター・アドミッションリーダー研修 意外とカンタン！！体験しよう！CBT」と題したアドミッションリーダー研修を令和 6 年 6 月 13 日、14 日に対面にて実施した。29 名が参加し、グループに分かれての議論やセンターが用意した PC を用いたグループワーク演習を行った。研修後のアンケートにおいて、実際に会場で CBT の操作体験ができたことや、大学の実務者同士で意見交換ができたこと等、対面形式での研修が活かされた充実した内容であったと回答を得た。

※研究開発部の研修実施経費により実施したため、外部評価の対象外。（研究期間：令和 6 年度）

④ 大学で学ぶための基礎的学力の新たな評価測度の開発に関する調査研究

・ 大学入試センターが行う個別大学の入試改善支援に関わる需要の検討

「大学入学者選抜試験の改善に向けた需要調査」の更なる分析と大学へのインタビュー調査に基づいて、個別大学の入試における知識・技能、思考力・判断力・表現力等の評価方法の改善のための支援案を具体化する際の課題を整理した。

総合型や学校推薦型選抜におけるテストについては、「履修を前提とする教科・科目を明示した上でそれらに関連する汎用的な能力を評価するための問題」の出題が自大学に向いているという評価が高かったが、実施できている大学の割合は低かった。このタイプを入試で課す大学にインタビュー調査を行い、問題作成の手引きの活用実態や課題を整理した。問題バンクについては、作題の負担軽減への期待が高いことが示された一方で、出題頻度や統計的性能に関する情報も格納される必要がある等の課題が明らかになった。

本調査研究は、外部評価において、当初の目標が概ね達成され、概ね期待どおりの成果があり、「入学者選抜の改善に活用できると見込める内容である」と評価された。（研究期間：令和 6 年度）

⑤ その他大学入学者選抜方法の改善に関する調査研究

・ 大学入学者選抜におけるフェアネス・マネジメントに関する研究

人口減少社会における大学入試においては、基礎学力が担保され、学生に公正観が高まるような形での入試制度が設計されること（大学入試のフェアネスマネジメント）が求められ、そのあり方について研究を行った。具体的には、①多面的評価とその高大接続に先駆的な評価を行っている大学として、国内の国私立大学に訪問調査を行った。②米国の共通テストスコアをどう合否判定に取り扱ったのかに関するグッドプラクティスを分析した。③共通テストのモニター調査時に公正観のデータ取得を行った。④「国公立大学入学者選抜実施状況」「国公立短期大学入学者選抜実施状況」のデータを整理し、多様化する入試制度の状況について整理した。

本調査研究は、外部評価において、当初の目標が概ね達成され、概ね期待どおりの成果が見込まれ、「入学者選抜の改善に活用できると見込める内容である。」と評価された。（研究期間：令和 6 年度～令和 7 年度）

【令和 5 年度業務実績に関する評価結果を踏まえた業務運営の改善等への反映状況】

		〈令和５年度業務実績評価における主要な指摘等〉 - 各大学において、大学入学者選抜を支える専門人材の育成が求められていることを踏まえ、人材育成に関するこれまでの調査研究コンテンツへのアクセスを向上する等、さらなる充実に努めることが期待される。 〈上記の指摘事項を踏まえた令和６年度の改善状況〉 - 大学におけるアドミッションスタッフの育成支援に資するため、アドミッションリーダー研修を開催してきた。近年、複雑化・多様化する大学入試関連業務に対応できるコンテンツを体系的に提供・定着させていくため、①合理的配慮、②ＣＢＴ、③試験問題の開発と評価、に主軸を置くこととし、令和５年度には合理的配慮、令和６年度にはＣＢＴをテーマに開催した。 - 大学入学者選抜に係る研究成果について社会に発信するためにシンポジウムも開催しており、令和５年度にはＣＢＴをテーマに、令和６年度には、合理的配慮をテーマに、１１月に開催した。令和６年度のアドミッションリーダー研修では、令和５年度のシンポジウムの視聴を事前課題としたところであり、シンポジウムも含めて人材育成に貢献していく。 - アドミッションリーダー研修のコンテンツのウェブサイトへの掲載について、グループワークを中心に実施していることからこれまでコンテンツを掲載してこなかったが、令和７年３月に事前課題の問いやその狙い、講演のタイトルと内容及びディスカッションのテーマ等をウェブサイトに掲載した。
(5) 試験情報の活用の促進 教育データを多様に利活用する動向を見据えつつ、個人情報保護に十分留意した上で、大学入学者選抜方法の改善、ひいては高等学校及び大学の教育改善が促されるよう、共通テスト等の試験情報の活用に関し調査研究を実施した上で、その仕組みを構築する。	(5) 試験情報の活用の促進 教育データを多様に利活用する動向を見据えつつ、個人情報保護に十分留意した上で、大学入学者選抜方法の改善、ひいては高等学校及び大学の教育改善が促されるよう、共通テスト等の試験情報の活用に関し調査研究を行う。	(5) 試験情報の活用の促進 共通テスト等の試験情報の活用に関する調査研究として、以下を実施した。 ○ 研究開発部と試験企画課で連携し、大学入学者選抜方法の改善、ひいては高等学校及び大学の教育改善を促す一環として、令和６年度共通テストにおける設問別得点率・正答率及び科目別成績分布をウェブサイトにて公表した。 また、共通テスト等の試験情報の活用に関する調査研究を支えるための情報基盤の整備として、以下を実施した。 ○ 試験問題を作成・評価する関係部署が試験問題の分析・評価に活用できるように、令和６年度共通テスト（本試験・追試験）の統計量（平均、分散、５分位点などデータの特徴を要約した数値）及び各種マスタ（志願者ごとの成績や属性情報をまとめた原本データ、またマークシート読取結果の原本データ）を整理し、リレーショナルデータベースに収納することにより提供した。（研究期間：令和６年度） ○ 学習指導要領の改訂に伴い、教科・科目が変更された固定長ファイル（各項目の位置が固定され桁数で決まっており、各項目を区切る文字等がない形式）である試験情報データについて、分析に利用する項目（試験問題の解答結果等）の位置を示す項目パラメータファイルを整備した。 変更された出題教科・科目の内容や問題構成に対応した統計・解析プログラムを準備し、

			この項目パラメータファイルを用いて試験データを分析し、問題作成分科会に分析結果を報告し、共通テストの試験問題の分析・評価に寄与した。（研究期間：令和6年度）
--	--	--	--

項目別の状況

中期目標	3 大学情報の提供等 センター法第13条第1項第3号に基づき実施する大学情報の提供業務について、共通テストに関する情報を中心に、大学入試に関する情報等をインターネットにより提供する。 【指標】 大学情報の提供に係るページへのアクセス件数の具体的な数値目標は、独立行政法人評価制度委員会通知（平成27年11月17日付独評委第45号）を踏まえた第4期中期目標期間における設定値（76,397件）及び各年度実績の数値（令和2年度を除く。）の平均値（127,049件）以上とする。
------	---

中期計画	令和6年度計画	進捗状況	実績（進捗状況の判断理由）
3 大学情報の提供等 共通テストに参加する大学の学部・学科名や共通テストの教科・科目など、共通テストに関する情報を中心に、大学入試に関する情報等をインターネットにより提供する。大学情報の提供に係るページへのアクセス件数の具体的な数値目標は、独立行政法人評価制度委員会通知（平成27年11月17日付独評委第45号）を踏まえた第4期中期目標期間における設定値（76,397件）及び各年度実績の数値（令和2年度を除く。）の平均値（127,049件）以上とする。	3 大学情報の提供等 共通テストに参加する大学の学部・学科名や共通テストの教科・科目など、共通テストに関する情報を中心に、大学入試に関する情報等をインターネットにより提供する。 なお、大学情報の提供に係るページへのアクセス件数の具体的な数値目標は、独立行政法人評価制度委員会通知（平成27年11月17日付独評委第45号）を踏まえた第4期中期目標期間における設定値（76,397件）及び各年度実績の数値（令和2年度を除く。）の平均値（127,049件）以上とする。	B	3 大学情報の提供等 大学情報の提供等の事業として、以下の(1)・(2)を計画的かつ着実に実施した。 (1) 共通テストに参加する各大学の協力により、参加大学の学部・学科名、アドミッション・ポリシー、募集人員等や入学者選抜で利用する共通テストの教科・科目、配点など、共通テストに関する情報を中心に、大学入学志願者等に対し、センターのウェブサイトにより提供した。 また、大学で提供している卒業後の進路、取得できる免許・資格、教員一覧等の情報については、当該情報へのリンクを貼ることにより、大学入学志願者等の利便性を保ちつつ大学側の業務の負担軽減を図っている。さらに、志願者等の利便性が向上するよう、「大学ポートレート」に掲載されている個別の大学情報へのリンクも提供している。 (2) 共通テスト参加大学情報へのアクセス件数は、情報提供開始日（令和6年8月29日）以降で127,578件（1か月平均：約18,200件）となり、中期計画における数値目標（127,049件）を上回った。（資料編 p.17【資料13】参照）

項 目 別 の 状 況

中 期 目 標	Ⅳ 業務運営の効率化に関する事項 1 組織体制 事務・事業の見直しに対応した要員の合理化など組織の見直しを図り、効率的かつ円滑な業務運営の改善を図る。なお、効率化に関しては、長期的視野に立って推進すべき事業であることに鑑み、事業の継続性に十分留意する。
------------------	---

中期計画	令和6年度計画	進捗状況	実績（進捗状況の判断理由）																														
Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	－	－																														
1 組織体制	1 組織体制	B	センターは、業務を円滑に行うため、役員の他、試験・研究統括官、試験・研究副統括官、事務組織及び研究組織を置いている。（p. 3「11. 機構図」参照）																														
長期的な視点に立ち、事業の継続性に十分留意した上で、事務・事業の見直しに対応した要員の合理化など組織の見直しを図る。 なお、事務組織については、大学、高等学校その他の関係機関と効果的に連携協力するとともに、研究組織については、円滑に研究が遂行されるよう研究組織体制を必要に応じて見直す。	長期的な視点に立ち、事業の継続性に十分留意した上で、事務・事業の見直しに対応した要員の合理化など組織の見直しを図る。 なお、事務組織については、大学、高等学校その他の関係機関と効果的に連携協力するとともに、研究組織については、円滑に研究が遂行されるよう研究組織体制を必要に応じて見直す。	B	(1)－1 事務組織等の見直し 事業の継続性に十分留意するとともに、新たな事業を着実に実施するため、職員の能力・経歴等を十分勘案して人員を適正配置した。 なお、新教育課程に対応した令和7年度共通テストの実施のため、試験企画課において企画・立案に携わっていた職員を試験実施を担当する事業第一課、作題を担当する事業第二課に前年度に引き続き配置し、体制を強化している。 (1)－2 大学等との連携協力 事務職員等（課長補佐以下の異動数等）については、以下の表のとおり大学等との人事交流を行った。 【採用】<table><tr><th rowspan="2"></th><th rowspan="2">採用（人事交流による採用者を除く。）</th><th colspan="5">他機関からの異動 （人事交流による採用者を含む。）</th><th rowspan="2">合計</th></tr><tr><th>文部科学省・文化庁</th><th>国立大学法人</th><th>独立行政法人</th><th>施設等機関・大学共同利用機関法人</th><th>地方公共団体</th><th>小計</th></tr><tr><td>令和3年度</td><td>5</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>4</td><td>6</td><td>11</td></tr><tr><td>令和4年度</td><td>4</td><td>0</td><td>6</td><td>0</td><td>4</td><td>10</td><td>14</td></tr></table>		採用（人事交流による採用者を除く。）	他機関からの異動 （人事交流による採用者を含む。）					合計	文部科学省・文化庁	国立大学法人	独立行政法人	施設等機関・大学共同利用機関法人	地方公共団体	小計	令和3年度	5	0	2	0	4	6	11	令和4年度	4	0	6	0	4	10	14
	採用（人事交流による採用者を除く。）	他機関からの異動 （人事交流による採用者を含む。）					合計																										
		文部科学省・文化庁	国立大学法人	独立行政法人	施設等機関・大学共同利用機関法人	地方公共団体		小計																									
令和3年度	5	0	2	0	4	6	11																										
令和4年度	4	0	6	0	4	10	14																										

	令和5年度	2	1	3	0	3	7	9
	令和6年度	3	0	3	0	5	8	11

【離 職】

	離職（人事交流のための 離職者を除く。）	他機関への異動 （人事交流のための離職者を含む。）					合 計
		文部科学省・文化庁	国立大学法人	独立行政法人 大学共同利用機関法人 施設等機関・	地方公共団体	小計	
令和3年度	1	1	4	0	5	10	11
令和4年度	5	0	5	0	3	8	13
令和5年度	2	0	3	0	5	8	10
令和6年度	3	0	4	0	3	7	10

(1)－3 各種委員会

(p. 4 「12. 委員会等組織図」 参照) のとおり、各種委員会を置いている。

項 目 別 の 状 況

中期目標	2 業務運営 (1) センターの業務運営に関しては、閣議決定等に基づき国において議論されている高大接続改革における取組や受験者のニーズに配慮した上で、18歳人口の減少による志願者数への影響に伴う検定料収入の減少を踏まえ、受益者負担の在り方等を見直すことで収支を改善し、見直しの基本方針の趣旨を踏まえた自己財源による自立的かつ安定的な財政基盤を新学習指導要領に準拠した共通テストの開始までに確保するほか、収支差の平準化のための検討を行うとともに、「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年5月25日総務大臣決定）に基づく取組等を進めることにより、計画的な収支計画を作成し、当該収支計画による運営に努める。また、調達の合理化等を推進すること等により、一般管理費及び事業費のうち固定的な経費※を本中期目標期間中に令和2年度実績額の1%以上削減する。 ※ 固定的な経費＝（一般管理費＋事業費）－変動費－特殊業務経費－退職手当 変動費＝受験者の増減により変動する経費 特殊業務経費＝新規・拡充等の特殊要因に係る経費 (2) 共通テストについては、受験者の利便性に配慮しつつ、効率的な試験場・試験室の活用やデジタル化への対応に取り組むとともに、業務運営の効率化の観点から試験問題等の印刷経費等について、令和2年度実績を基に削減に取り組む。さらに、参加大学との緊密な連携の更なる強化や役割分担の明確化に取り組む。 (3) 独立行政法人改革等に関する基本的な方針に基づき、第4期中期目標期間に構築した体制により、業務ごとに予算と実績の管理を行う。
------	---

中期計画	令和6年度計画	進 捗 状 況	実績（進捗状況の判断理由）								
2 業務運営	2 業務運営	B	—								
(1) センターの業務運営に関しては、閣議決定等に基づき国において議論されている高大接続改革における取組や受験者のニーズに配慮した上で、18歳人口の減少による志願者数への影響に伴う検定料収入の減少を踏まえ、検定料、成績提供手数料など、受益者負担の在り方や大学の配分経費の配分額等（以下「受益者負担の在り方等」	(1) センターの業務運営に関しては、閣議決定等に基づき国において議論されている高大接続改革における取組や受験者のニーズに配慮した上で、18歳人口の減少による志願者数への影響に伴う検定料収入の減少を踏まえ、検定料、成績提供手数料など、受益者負担の在り方や大学の配分経費の配分額等	B	(1)ー1 効率化の状況（資料編 p.18【資料14】参照） ① 中期目標期間終了時に固定的な経費を令和2年度実績の1%以上を削減することを念頭に既存業務の合理化・効率化を推進するとともに、年度当初に収支計画を策定し計画的に運営を行っている。また、財務経営委員会において、今後数年間のセンターにおける収支イメージに基づき、今後の対応について検討を行っている。 ② 固定的経費の削減 ・英語リスニング用音声機器等の賃貸借契約の契約期間延長による契約金額の削減 【固定的な経費の削減状況】 （単位：千円） <table><tr><th>区 分</th><th>令和2年度 （基準額）</th><th>令和6年度</th></tr><tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>			区 分	令和2年度 （基準額）	令和6年度			
区 分	令和2年度 （基準額）	令和6年度									

				（以下「受益者負担の在り方等」という。）を見直すことで収支を改善し、「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」（平成22年12月7日閣議決定。以下「見直しの基本方針」という。）の趣旨を踏まえた自己財源による自立的かつ安定的な財政基盤を新学習指導要領に準拠した共通テストの開始までに確保するほか、収支差の平準化のための検討を行うとともに、「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年5月25日総務大臣決定）に基づく取組等を進めることにより、計画的な収支計画を作成し、当該収支計画による運営に努める。			
				また、調達の合理化等を推進すること等により、一般管理費及び事業費のうち固定的な経費※を、本中期目標期間中に令和2年度実績額の1％以上を削減する。			
				※ 固定的な経費＝（一般管理費＋事業費）－変動費－特殊業務経費－退職手当 変動費＝受験者の増減により変動する経費 特殊業務経費＝新規・拡充等の特殊要因に係る経費			
				（以下「受益者負担の在り方等」という。）を見直すことで収支を改善し、「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」（平成22年12月7日閣議決定。以下「見直しの基本方針」という。）の趣旨を踏まえた自己財源による自立的かつ安定的な財政基盤の確保に引き続き努めるとともに、収支差の平準化のための検討や「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年5月25日総務大臣決定）に基づく取組等を進めることにより、令和6年度当初に収支計画を作成し、当該収支計画による運営に努める。			
				また、調達の合理化等を推進すること等により、一般管理費及び事業費のうち固定的な経費※を、中期目標期間中に令和2年度実績額の1％以上を削減することを念頭に、これまでと同様に効率的な執行を行いつつ削減可能な経費について検討を行う。			
				※固定的な経費＝（一般管理費＋事業費）－変動費－特殊業務経費－退職手当 変動費＝受験者の増減により変動する経費 特殊業務経費＝新規・拡充等の特殊要因に係る経費			
</							

② 再委託の有無と適切性

センターの契約において再委託は、国と同様、契約書においてセンターの承認を受けることが規定されており、再委託を行う場合には、当該規定に基づきセンター内で承認手続を行ってきたところであり、適切性は確保されている。

③ 一者応札・応募の状況（資料編 p. 28～30【資料 18】参照）

		② 平成 20 年度実績		① 令和 6 年度実績		①と②の比較増減	
		件数	金 額 (千円)	件数	金 額 (千円)	件数	金 額 (千円)
競争性のある契約		41	2,653,479	47	2,979,986	6	326,507
うち、一者応札・応募となった契約							
一般競争契約	最低価格落札方式	14	351,747	15	670,746	1	318,999
	総合評価落札方式	-	-	2	642,823	2	642,823
指名競争契約		-	-	-	-	-	-
企画競争		-	-	-	-	-	-
公募		1	1,659	1	3,616	0	1,957
不落随意契約		-	-	-	-	-	-
合 計		15	353,406	18	1,317,185	3	963,779

【原因、改善方策】

令和 6 年度においては、平成 20 年度に比べて一者応札・応募の件数が 3 件増えた。一般競争入札の実施に当たっては、可能な限り競争参加者が多数参加できるよう、十分な公告期間や適切な応札条件の設定等に努めているが、結果として一者応札となった契約については、仕様書等書類を受領したが応札しなかった全ての業者から聴き取りを行い、その理由を分析し、次回以降の公告期間や応札条件等を改善するなど、引き続き不断の見直しを行う。

④ 一般競争入札における制限的な応札条件の有無と適切性

契約監視委員会において、一般競争入札等における一者応札・応募となっている案件の仕様書の内容及び具体的な条件の設定について、真に競争性が確保されているかとの観点から、点検・見直しを行った。その結果、応札条件に必要な以上の制限はなく、適切性は確保されていた。

⑤ 関連法人の有無

センターの特定の業務を独占的に受託している関連法人はない。

⑥ 調達等合理化計画の自己評価

ア 一者応札改善のための重点的な取組の結果

・公告期間等の見直し

前回の契約において一者応札となった契約については、公告期間を見直すなど、可能な限り公告期間の十

			分な確保に努めた。 ・ 業者への聴き取り 一者応札となった契約については、その理由の把握のため、仕様書等書類を受領したが応札しなかった全ての業者から理由の聴き取りを行った。それらの分析を行い次回以降の契約の改善に努めている。 (業者への聴き取りの件数： 27 件) イ 不祥事の発生の未然防止・再発防止のための取組 ・ 会計内部監査の実施 予算執行及び会計処理の適正化を目的とし、2月25日(火)～3月3日(月)に5日間かけて内部監査を実施した。(会計内部監査の実施回数：1回) ・ 調達手続に係るマニュアルの周知・共有 調達に関する不祥事の発生を防止するため、調達に係る事務手続等のマニュアルを改訂の上、周知・共有し、教職員の意識の徹底に努めた。 【令和5年度業務実績に関する評価結果を踏まえた業務運営の改善等への反映状況】 〈令和5年度業務実績評価における主要な指摘等〉 ・ 予算の策定及び執行に係るプロセスについては、継続的に見直しを行うことが期待される。 〈上記の指摘事項を踏まえた令和6年度の改善状況〉 ・ 令和6年度においても、今後のセンターの中長期的な収支見込み及び各種事業や施設整備等の中長期的な計画を考慮するとともに、事業の緊急性、重要性等及び予算の執行状況も踏まえ、予算の策定及び執行が適切に行われるよう、財務経営委員会等において継続的に収支改善方策や予算編成方針等について検討を行った。 ・ 問題冊子等の調達数量の算定基準等や経済的な調達数量について部署横断的に検討・点検を行うため、「試験問題冊子等調達検討会議」を所内に設置(令和5年8月)し、令和7年度共通テスト以降の送付基準等について、継続的に試験問題冊子等の削減に向けた検討を行った。 【令和5年度業務実績に関する評価結果を踏まえた業務運営の改善等への反映状況】 〈令和5年度業務実績評価における主要な指摘等〉 ・ 固定的経費が硬直化しないよう、既存の契約方法の見直し等による固定経費の削減に一層取り組むこと。 〈上記の指摘事項を踏まえた令和6年度の改善状況〉 ・ 令和6年度においても、契約監視委員会での審議等を踏まえ、契約内容の精査、要求条件や資格の必要性の見直しなど、より競争性を確保するための取組を継続して行っており、固定的経費の削減に努めた。 ・ 「令和7年度予算編成方針」に基づき、既存の事業については、各課からの次年度予算の要望内容に対する役員ヒアリングの結果を踏まえ、過年度の実績を精査する等必要な見直しを行い、固定的経費の削減に取り組んだ。
--	--	--	--

(2) 受験者の利便性に配慮しつつ、試験を円滑に実施する観点から、効率的な試験場・試験室の活用やデジタル化への対応に取り組む。秘密保持に留意しつつ業務を一層効率化し、試験問題等の印刷経費等について、令和2年度実績を基に削減に取り組む。さらに、参加大学との緊密な連携を強化するため、参加大学における各種会議に参加するとともに役割分担の明確化に取り組む。	(2) 受験者の利便性や都道府県別の参加大学の立地状況等を勘案しつつ、効率的な試験場・試験室の活用に取り組む。秘密保持に留意しつつ業務を一層効率化し、問題冊子等については、令和6年度共通テストの配付実績を踏まえ、印刷経費等の削減に取り組む。 また、デジタル化の対応について、令和8年度共通テストからの電子出願等システムの導入に向けて、高等学校や参加大学との調整・連携を行いつつ、システム開発及び構築を進めるとともに、必要な検証を実施する。 さらに、参加大学との緊密な連携の更なる強化や役割分担の明確化を図る観点から、参加大学における各種会議に参加する。	B	(2)ー1 効率的な試験場の活用 試験場（点字試験場を除く。）については、受験者の利便性に配慮し、効率的に試験場を配置した結果、試験場数としては、651試験場となった。 (2)ー2 試験問題等の印刷経費等の見直し策 令和5年度に設置した「試験問題冊子等調達検討会議」において、検討を行い、以下の見直しを行った。 ・令和7年度共通テストから新設された「情報」の問題冊子の印刷部数の算出に当たっては、過去の登録者数の実績がないことから、令和7年度共通テストにおいては、想定される登録者数を最小限に見積もった上で印刷部数を算出し、実際の登録者数が判明した後に経済的な調達を図った。 ・問題冊子、解答用紙、リスニング機器の調達数の算定に使用している予備率（予測数を超えた登録に備えるために設定）について、実績を踏まえ、算定方法を見直すことにより調達数を削減した。 ・2科目受験が可能な「地理歴史、公民」及び「理科」の受験者用の第2解答科目解答用紙の印刷部数について、令和7年度共通テストから、第1解答科目と同じ部数とするのではなく、2科目受験の登録者予測数を基に算出することにより、調達数を削減した。 ・追・再試験の想定人数について、前年度実績を踏まえつつ、大規模な災害（雪害、津波又は震災）の発生時に対応が可能なよう想定人数の見直しを行った。 なお、令和6年度共通テスト実施後に行った各大学での問題冊子等の使用状況についての調査結果、個別に抽出した大学への問題冊子等送付基準に関するヒアリング結果及び令和7年度共通テストにおける問題冊子等の配付実績も踏まえ、令和8年度送付基準についても問題冊子等（試験室予備用、大学用）及びリスニング機器（試験室予備用）の送付基準について見直しの検討を行っている。 (2)ー3 デジタル化の対応について 電子出願システムの基本的な機能は令和6年4月末に完成した。令和8年度共通テストからの電子出願システムの導入を目指し、以下のとおり、関係団体や大学と意見交換して調整を行いつつ、大学との連携テストや高校生等を対象とした操作検証も行った。また、それらの意見等を踏まえ、システムの改善や必要な開発等を行った。 ・各大学の出願システムからセンターの電子出願システムに受験者情報を照会・取得するAPI（Application Programming Interface：ソフトウェアやプログラム、Webサービスの間をつなぐインタフェース）方式について、各大学に導入に必要な情報提供及び意見交換を行うとともに、API連携が円滑に行われることを検証するため、令和6年12月から連携テストを行った。 ・電子出願システムを利用することになる全国11の高等学校の2年生を対象に、実際に電子出願システムを操作してもらい、アンケート調査を行った。 このほか、令和8年度大学入学共通テストの出願手続の電子化の予告について令和6年9月6日に、より詳細な情報を令和7年3月18日に公表した。 (2)ー4 各種会議への参加 共通テストの実施における参加大学との緊密な連携の更なる強化や役割分担の明確化を図るため、依頼があった以下の会議に参加し説明・資料提供を行った。 ・大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会 ・国立大学協会総会 ・国立大学入試担当課長連絡会議（ウェブ会議） ・1都3県世話大学入試担当課長連絡会
--	---	---	--

			・北海道地区実務担当者会議（ウェブ会議） ・福島県連絡会議（ウェブ会議）
(3) 独立行政法人改革等に関する基本的な方針に基づき、第4期中期目標期間に構築した体制により、業務ごとに予算と実績の管理を行う。	(3) 独立行政法人改革等に関する基本的な方針に基づき、第4期中期目標期間に構築した体制により、試験事業、調査研究事業、大学情報の提供等事業の業務ごとに予算と実績の管理を行う。	B	(3) 予算と実績の管理 独立行政法人改革等に関する基本的な方針を踏まえ、業務を試験事業、調査研究事業、大学情報の提供等事業に区分し、業務ごとに予算と実績を管理している。

項 目 別 の 状 況

中 期 目 標	3 給与水準の適正化 給与水準については、国家公務員等の給与水準を十分考慮し、手当を含め役職員給与の在り方について厳しく検証した上で、センターの業務の特殊性を踏まえながら、その適正化に取り組むとともに、検証結果や取組状況を公表する。
------------------	--

中期計画	令和6年度計画	進捗状況	実績（進捗状況の判断理由）
3 給与水準の適正化 給与水準については、政府の方針を踏まえ、国家公務員等の給与水準を十分考慮し、手当を含め役職員給与の在り方について厳しく検証した上で、センターの業務の特殊性を踏まえながら、引き続き、適正化に取り組むとともに、検証結果や取組状況を公表する。	3 給与水準の適正化 給与水準について、政府の方針を踏まえ、国家公務員等の給与水準を十分考慮し、手当を含め役職員給与の在り方について厳しく検証した上で、センターの業務の特殊性を踏まえながら、適正な水準を維持するよう取り組むとともに、検証結果や取組状況を公表する。	B	3 給与水準の適正化 役職員の給与については、独立行政法人通則法（平成11年法律第130号。以下「通則法」という。）第50条の2及び10において、国家公務員の給与等、民間企業の従業員の給与等、当該中期目標管理法人の業務の実績及び職員の職務の特性、雇用形態その他の事情を考慮して定めることとされており、令和6年度においては、以下のとおり実施した。 (1) 「国家公務員の給与の改定」への対応 令和5年人事院勧告に対応した国家公務員の一般職の給与に関する法律の改正及び令和6年人事院勧告に対応した同法の改正の内容を踏まえ、以下の措置を講じた。 ア 役員 ・本給の改定 全ての役員を対象に引上げ（+8,000～13,000円） ・期末特別手当の改定 年間の支給割合を0.05月分引上げることと決定し、令和6年度支給分から適用した。 イ 職員 ・俸給表の改定 若年層が在職する号俸に特に重点を置きつつ、全ての職員を対象に全俸給表を引上げ（一般職、教育職及び指定職俸給表 平均3.0%）（+3,300～28,300円） ・期末手当の改定 年間の支給割合を0.05月分引上げることと決定し、令和6年度支給分から適用した。 ・勤勉手当の改定 年間の支給割合を0.05月分引上げることと決定し、令和6年度支給分から適用した。 (2) ラスパイレス指数 センター職員と国家公務員との給与水準（年額）の比較指標であるラスパイレス指数は以下のとおりである。 年齢階層による対国家公務員指数は102.6であるが、これはセンターの所在地が東京都

特別区で、地域手当を国の１級地（東京都特別区）の支給率（20.0％）で支給しているためであり、１級地での比較（地域＋学歴）で見ると 90.9 であるため、適正な給与水準と考える。

比較指標	ラスパイレス指数	比較指標の内容
法人基準年齢階層	102.6	年齢別人員構成のみで比較
（地域勘案）	92.1	勤務地（東京都特別区）を勘案した比較
（学歴勘案）	100.9	学歴区分を勘案した比較
（地域・学歴勘案）	90.9	勤務地及び学歴区分を勘案した比較

(3) 法定外福利厚生費 2,846 千円

- ・職員の健康診断等 （2,421 千円）
- ・AED（自動体外式除細動器）の賃貸料 （114 千円）
- ・永年勤続者表彰（勤続 20 年 10 人）（定年 3 人）（238 千円）
- ・常備菜 （71 千円）

（金額は、千円未満を切り捨てているため、端数処理の関係により合計の額は各項目の額の合計と合致しない。）

※レクリエーション経費は支出していない。

(4) 諸手当

諸手当は「宿直手当」、「管理職手当」以外、国に準じている。

ア 宿直手当

宿直手当は、人事院規則 9－15 第 1 条第 1 号に規定されている宿日直手当に相当する手当であり、令和 6 年度は、共通テスト本試験にかかる 2 日間、延べ 9 名の宿直勤務について、1 回につき 6,200 円の定額を支給した。

なお、国の宿日直手当支給額は、勤務 1 回につき 4,400 円であるが、センターの宿直手当は、労働基準法第 41 条、同法施行規則第 23 条及び労働基準局通達に定められている宿日直手当の最低額（「宿直又は日直の勤務に就くことの予定されている同種の労働者に対して支払われている賃金の 1 人 1 日平均額の 3 分の 1 を下らない」）に基づき、所轄労働基準監督署長から宿日直勤務の許可条件とされている定額を毎年算出し支給している。

イ 管理職手当

管理職手当の支給額は国の同種の手当である「俸給の特別調整額」に準拠し、人事院規則 9－17 別表第二に定める額と同額を支給した。「総務課長、試験企画課長、事業第一課長」の一般職 5 級の手当（69,400 円）は、法人化前の人事院通知により官職指定されていた算定割合（三種）に準拠し算出した手当額を支給していたが、令和 6 年度より「財務課長、事業第二課長、事業第三課長及び参事」についても同手当額を支給している。

ウ 役職員退職手当

国に準じており、令和 6 年度は見直しなし。

			(5) 公益法人等に対する会費支出の見直し状況 該当なし。
--	--	--	----------------------------------

項 目 別 の 状 況

中 期 目 標	V 財務内容の改善に関する事項 1 計画的な収支計画の作成 18 歳人口の減少による志願者数への影響に伴う検定料収入の減少を踏まえ、受益者負担の在り方等を見直すことで収支を改善し、見直しの基本方針の趣旨を踏まえた自己財源による自立的かつ安定的な財政基盤を新学習指導要領に準拠した共通テストの開始までに確保するほか、収支差の平準化のための検討を行うとともに、既存業務の徹底した見直し・効率化等を進めることにより、計画的な収支計画を作成し、当該収支計画による運営に努める。 2 保有資産 施設・設備については、共通テストの秘密保持に十分留意の上、計画的な整備を行う。
------------------	--

中期計画	令和6年度計画	進捗状況	実績（進捗状況の判断理由）
Ⅲ 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画	Ⅲ 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画	B	Ⅲ 予算（人件費の見積りを含む。）、収支及び資金の状況 ○ 収入については、志願者数及び成績提供件数が増加したこと及び経過措置のための補助金が追加で措置されたことにより、予算額に比して860百万円の増額となった。 ○ 支出については、志願者数の増加により試験実施に係る経費が増加したこと及び経過措置のための補助金が追加で措置されたことにより、予算額に比して547百万円の増額となった。 【令和5年度業務実績に関する評価結果を踏まえた業務運営の改善等への反映状況】 〈令和5年度業務実績評価における主要な指摘等〉 ・ 18 歳人口の減少の将来予測などにより、中長期的な収支の見込みを立てた上で、収入の確保方策を含めた今後の安定的経営に向けた検討を引き続き行うこと。 〈上記の指摘事項を踏まえた令和6年度の改善状況〉 ・ 令和6年度においても、センターの中長期的な収支見込みを踏まえ、文部科学省とも相談しつつ、財務経営委員会等において、収支改善方策や予算編成方針等、今後の安定的経営に向けた必要な検討を引き続き行った。 ・ 理事長のリーダーシップの下、現行の共通テストの実施方法等の改善方策、その他センターの実施する試験の在り方について、広く検討を行った。

1 期間全体に係る予算（人件費見積りを含む。）	1 当該年度に係る予算（人件費見積りを含む。）	B	1 令和6年度予算・決算等の状況 収入について、センターでは主として検定料収入により試験事業、調査研究事業及び大学情報の提供等事業を実施しているが、検定料収入等は試験事業欄に記載している。 なお、以下(1)～(5)までの表においては、百万円単位の金額となっており、四捨五入の関係で差引増減額の計算が合わない場合がある。（以下、「3 令和6年度資金の状況」までの表においても同様。） (1) 試験事業 (単位：百万円) <table><tr><th rowspan="2">区 別</th><th colspan="4">令和6年度</th></tr><tr><th>予算額</th><th>決算額</th><th>差引増減額</th><th>備考</th></tr><tr><td>収入</td><td>(A)</td><td>(B)</td><td>(B)－(A)</td><td></td></tr><tr><td>検定料</td><td>8,672</td><td>8,829</td><td>157</td><td>※1</td></tr><tr><td>成績提供手数料</td><td>2,111</td><td>2,457</td><td>347</td><td>※2</td></tr><tr><td>成績通知手数料</td><td>322</td><td>322</td><td>－</td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td>15</td><td>22</td><td>6</td><td></td></tr><tr><td>大学改革推進等補助金</td><td>632</td><td>972</td><td>340</td><td>※3</td></tr><tr><td>前中期目標期間繰越積立金取崩</td><td>688</td><td>733</td><td>45</td><td></td></tr><tr><td>受託事業収入</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td></td></tr><tr><td>計</td><td>12,440</td><td>13,335</td><td>894</td><td></td></tr><tr><td>支出</td><td>(A)</td><td>(B)</td><td>(A)－(B)</td><td></td></tr><tr><td>業務経費</td><td>11,093</td><td>11,414</td><td>△322</td><td></td></tr><tr><td>うち人件費</td><td>765</td><td>762</td><td>3</td><td>※4</td></tr><tr><td>試験実施経費</td><td>10,327</td><td>10,652</td><td>△325</td><td>※5</td></tr><tr><td>共通テスト情報提供経費</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td></td></tr><tr><td>入学者選抜方法改善研究経費</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td></td></tr><tr><td>理事長裁量経費</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td></td></tr><tr><td>一般管理費</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td></td></tr><tr><td>うち人件費</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td></td></tr><tr><td>物件費</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td></td></tr><tr><td>予備費</td><td>45</td><td>－</td><td>45</td><td></td></tr><tr><td>大学改革推進等補助事業費</td><td>632</td><td>972</td><td>△340</td><td>※3</td></tr><tr><td>受託事業経費</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td></td></tr><tr><td>計</td><td>11,769</td><td>12,386</td><td>△617</td><td></td></tr></table> (主な増減理由等) ※1 志願者数が増加したため。 ※2 成績提供件数が増加したため。 ※3 経過措置のための補助金が追加で措置されたため。 ※4 各事業において予算振替を行ったため。 ※5 志願者の増加により経費が増加したため。	区 別	令和6年度				予算額	決算額	差引増減額	備考	収入	(A)	(B)	(B)－(A)		検定料	8,672	8,829	157	※1	成績提供手数料	2,111	2,457	347	※2	成績通知手数料	322	322	－		その他	15	22	6		大学改革推進等補助金	632	972	340	※3	前中期目標期間繰越積立金取崩	688	733	45		受託事業収入	－	－	－		計	12,440	13,335	894		支出	(A)	(B)	(A)－(B)		業務経費	11,093	11,414	△322		うち人件費	765	762	3	※4	試験実施経費	10,327	10,652	△325	※5	共通テスト情報提供経費	－	－	－		入学者選抜方法改善研究経費	－	－	－		理事長裁量経費	－	－	－		一般管理費	－	－	－		うち人件費	－	－	－		物件費	－	－	－		予備費	45	－	45		大学改革推進等補助事業費	632	972	△340	※3	受託事業経費	－	－	－		計	11,769	12,386	△617	
区 別	令和6年度																																																																																																																														
	予算額	決算額	差引増減額	備考																																																																																																																											
収入	(A)	(B)	(B)－(A)																																																																																																																												
検定料	8,672	8,829	157	※1																																																																																																																											
成績提供手数料	2,111	2,457	347	※2																																																																																																																											
成績通知手数料	322	322	－																																																																																																																												
その他	15	22	6																																																																																																																												
大学改革推進等補助金	632	972	340	※3																																																																																																																											
前中期目標期間繰越積立金取崩	688	733	45																																																																																																																												
受託事業収入	－	－	－																																																																																																																												
計	12,440	13,335	894																																																																																																																												
支出	(A)	(B)	(A)－(B)																																																																																																																												
業務経費	11,093	11,414	△322																																																																																																																												
うち人件費	765	762	3	※4																																																																																																																											
試験実施経費	10,327	10,652	△325	※5																																																																																																																											
共通テスト情報提供経費	－	－	－																																																																																																																												
入学者選抜方法改善研究経費	－	－	－																																																																																																																												
理事長裁量経費	－	－	－																																																																																																																												
一般管理費	－	－	－																																																																																																																												
うち人件費	－	－	－																																																																																																																												
物件費	－	－	－																																																																																																																												
予備費	45	－	45																																																																																																																												
大学改革推進等補助事業費	632	972	△340	※3																																																																																																																											
受託事業経費	－	－	－																																																																																																																												
計	11,769	12,386	△617																																																																																																																												

			(2) 調査研究事業				
			(単位：百万円)				
			区 別	令和6年度			
				予算額	決算額	差引増減額	備考
			収入	(A)	(B)	(B)－(A)	
			検定料	-	-	-	
			成績提供手数料	-	-	-	
			成績通知手数料	-	-	-	
			その他	-	-	-	
			大学改革推進等補助金	-	-	-	
			前中期目標期間繰越積立金取崩	-	-	-	
			受託事業収入	-	10	10	※1
			計	-	10	10	
			支出	(A)	(B)	(A)－(B)	
			業務経費	379	352	27	
			うち人件費	288	285	2	※2
			試験実施経費	-	-	-	
			共通テスト情報提供経費	-	-	-	
			入学者選抜方法改善研究経費	62	54	8	
			理事長裁量経費	30	13	17	
			一般管理費	-	-	-	
			うち人件費	-	-	-	
			物件費	-	-	-	
			予備費	-	-	-	
			大学改革推進等補助事業費	-	-	-	
			受託事業経費	-	13	△13	※1
			計	379	365	15	
			(主な増減理由)				
			※1 予算段階では予定していなかった受託事業収入を受け入れたため。				
			※2 各事業において予算振替を行ったため。				
			(3) 大学情報の提供等事業				
			(単位：百万円)				
			区 別	令和6年度			
				予算額	決算額	差引増減額	備考
			収入	(A)	(B)	(B)－(A)	
			検定料	-	-	-	
			成績提供手数料	-	-	-	
			成績通知手数料	-	-	-	
			その他	-	-	-	
			大学改革推進等補助金	-	-	-	

			前中期目標期間繰越積立金取崩	-	-	-		
			受託事業収入	-	-	-		
			計	-	-	-		
			支出	(A)	(B)	(A) - (B)		
			業務経費	18	17	2		
			うち人件費	11	9	2	※ 1	
			試験実施経費	-	-	-		
			共通テスト情報提供経費	7	7	0		
			入学者選抜方法改善研究経費	-	-	-		
			理事長裁量経費	-	-	-		
			一般管理費	-	-	-		
			うち人件費	-	-	-		
			物件費	-	-	-		
			予備費	-	-	-		
			大学改革推進等補助事業費	-	-	-		
			受託事業経費	-	-	-		
			計	18	17	2		
			(主な増減理由)					
			※ 1 各事業において予算振替を行ったため。					
			(4) 法人共通					
			(単位：百万円)					
			区 別	令和 6 年度				
				予算額	決算額	差引増減額	備考	
			収入	(A)	(B)	(B) - (A)		
			検定料	-	-	-		
			成績提供手数料	-	-	-		
			成績通知手数料	-	-	-		
			その他	-	-	-		
			大学改革推進等補助金	-	-	-		
			前中期目標期間繰越積立金取崩	212	167	△45		
			受託事業収入	-	-	-		
			計	212	167	△45		
			支出	(A)	(B)	(A) - (B)		
			業務経費	-	-	-		
			うち人件費	-	-	-		
			試験実施経費	-	-	-		
			共通テスト情報提供経費	-	-	-		
			入学者選抜方法改善研究経費	-	-	-		
			理事長裁量経費	-	-	-		
			一般管理費	485	431	54		

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

2 期間全体に係る収支計画

2 当該年度に係る収支計画

B

2 令和6年度収益の状況

収益について、センターでは主として検定料収入により試験事業、調査研究事業及び大学情報の提供等事業を実施しているが、検定料収入等は試験事業欄に記載している。

(1) 試験事業

(単位：百万円)

区 別	令和6年度			
	計画額	決定額	差引増減額	備考
費用の部	(A)	(B)	(A)－(B)	
経常費用	11,727	11,942	△216	
うち業務経費	11,727	11,942	△216	
業務人件費	10,323	10,066	257	
大学改革推進等補助事業費	765	831	△65	※1
一般管理費	632	972	△340	※2
減価償却費	－	－	－	
雑損	6	73	△67	
	－	0	0	
収益の部	(A)	(B)	(B)－(A)	
検定料収入	11,752	12,598	846	
手数料収入	8,672	8,829	157	※3
受託収入	2,432	2,779	347	※4
大学改革推進等補助金収益	－	－	－	
資産見返負債戻入	632	972	340	※2
その他収入	0	2	2	
	15	16	0	
臨時損失	－	4	4	※5
臨時利益	－	43	43	※6
純利益	25	694	669	
前中期目標期間繰越積立金取崩額	842	324	△517	※7
総利益	867	1,019	152	

(主な増減理由)

- ※1 各事業において予算振替を行ったため。
 ※2 経過措置のための補助金が追加で措置されたため。
 ※3 志願者数が増加したため。
 ※4 成績提供件数が増加したため。
 ※5 東日本大震災に伴う救済措置として、検定料等免除を実施したため。
 ※6 退職手当引当金戻入益が発生したため。
 ※7 固定資産取得分は収益の対象外となるため。

(2) 調査研究事業

				(単位：百万円)
区 別	令和6年度			
	計画額	決定額	差引増減額	備考
	(A)	(B)	(A)－(B)	
費用の部	437	434	3	
経常費用	437	434	3	
うち業務経費	89	99	△9	
業務人件費	288	275	12	※1
大学改革推進等補助事業費	－	－	－	
一般管理費	－	－	－	
減価償却費	60	60	0	
雑損	－	0	0	
収益の部	(A)	(B)	(B)－(A)	
検定料収入	58	110	51	
手数料収入	－	－	－	
受託収入	－	42	42	※2
大学改革推進等補助金収益	－	－	－	
資産見返負債戻入	58	59	1	
その他収入	－	9	9	
臨時損失	－	0	0	
臨時利益	－	6	6	
純利益	△379	△319	60	
前中期目標期間繰越積立金取崩額	1	0	0	
総利益	△378	△318	60	
(主な増減理由)				
※1 各事業において予算振替を行ったため。				
※2 予算段階では予定していなかった受託事業収入を受け入れたため。				
(3) 大学情報の提供等事業				
				(単位：百万円)
区 別	令和6年度			
	計画額	決定額	差引増減額	備考
	(A)	(B)	(A)－(B)	
費用の部	18	18	1	
経常費用	18	18	1	
うち業務経費	7	7	0	
業務人件費	11	11	0	
大学改革推進等補助事業費	－	－	－	
一般管理費	－	－	－	

減価償却費	-	0	0	
雑損	-	-	-	
収益の部	(A)	(B)	(B) - (A)	
検定料収入	-	0	0	
手数料収入	-	-	-	
受託収入	-	-	-	
大学改革推進等補助金収益	-	-	-	
資産見返負債戻入	-	0	0	
その他収入	-	-	-	
臨時損失	-	0	0	
臨時利益	-	0	0	
純利益	△18	△18	0	
前中期目標期間繰越積立金取崩額	-	-	-	
総利益	△18	△18	0	

(4) 法人共通

(単位：百万円)

区 別	令和6年度			
	計画額	決定額	差引増減額	備考
費用の部	(A)	(B)	(A) - (B)	
経常費用	430	553	△124	
うち業務経費	430	553	△124	
うち業務経費	-	-	-	
業務人件費	-	-	-	
大学改革推進等補助事業費	-	-	-	
一般管理費	392	553	△161	※1
減価償却費	37	-	37	
雑損	-	0	0	
収益の部	(A)	(B)	(B) - (A)	
検定料収入	2	1	△1	
手数料収入	-	-	-	
受託収入	-	-	-	
大学改革推進等補助金収益	-	-	-	
資産見返負債戻入	2	1	△1	
その他収入	-	-	-	
臨時損失	-	47	47	
臨時利益	-	1	1	
純利益	△428	△598	△170	
前中期目標期間繰越積立金取崩額	31	186	156	

		総利益		△397	△412	△15	
		(主な増減理由)					
		※ 1 前中期目標期間繰越積立金を財源とした施設・設備の改修・修繕を行ったため。					
		(5) 合計					
		(単位：百万円)					
		令和6年度					
		区 別	計画額	決定額	差引増減額	備考	
			(A)	(B)	(A)－(B)		
		費用の部	12,612	12,947	△336		
		経常費用	12,612	12,947	△336		
		うち業務経費	10,419	10,172	248		
		業務人件費	1,064	1,117	△53		
		大学改革推進等補助事業費	632	972	△340		
		一般管理費	392	553	△161		
		減価償却費	104	133	△29		
		雑損	－	0	0		
			(A)	(B)	(B)－(A)		
		収益の部	11,813	12,709	896		
		検定料収入	8,672	8,829	157		
		手数料収入	2,432	2,779	347		
		受託収入	－	42	42		
		大学改革推進等補助金収益	632	972	340		
		資産見返負債戻入	60	62	1		
		その他収入	15	25	10		
		臨時損失	－	51	51		
		臨時利益	－	50	50		
		純利益	△799	△240	558		
		前中期目標期間繰越積立金取崩額	873	511	△362		
		総利益	74	271	197		

3 期間全体に係る資金計画

3 当該年度に係る資金計画

B

3 令和6年度資金の状況

資金収入について、センターでは主として検定料収入により試験事業、調査研究事業及び大学情報の提供等事業を実施しているが、検定料収入等は試験事業欄に記載している。

(1) 試験事業

(単位：百万円)

区 別	令和6年度			
	計画額	決定額	差引増減額	備考
	(A)	(B)	(A)－(B)	
資金支出	14,230	16,325	△2,095	
業務活動による支出	11,804	11,587	217	※1
投資活動による支出	6	425	△419	※2
財務活動による支出	－	－	－	
翌年度への繰越金	2,420	4,313	△1,893	
	(A)	(B)	(B)－(A)	
資金収入	15,067	17,534	2,467	
業務活動による収入	11,752	12,605	853	
その他の収入	11,120	11,634	513	※3
国庫補助金による収入	632	972	340	※4
投資活動による収入	－	－	－	
財務活動による収入	－	－	－	
前年度よりの繰越金	3,315	4,928	1,614	

(主な増減理由)

※1 志願者の増加により経費が増加したため。

※2 電子出願システムを取得したため。

※3 志願者数及び成績提供件数が増加したため。

※4 経過措置のための補助金が追加で措置されたため。

(2) 調査研究事業

(単位：百万円)

区 別	令和6年度			
	計画額	決定額	差引増減額	備考
	(A)	(B)	(A)－(B)	
資金支出	358	382	△25	
業務活動による支出	297	382	△85	
投資活動による支出	60	－	60	
財務活動による支出	－	－	－	
翌年度への繰越金	－	－	－	

																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									</
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

翌年度への繰越金	-	-	-	
資金収入	(A)	(B)	(B) - (A)	
業務活動による収入	-	5,000	5,000	
その他の収入	-	-	-	
国庫補助金による収入	-	-	-	
投資活動による収入	-	5,000	5,000	※ 2
財務活動による収入	-	-	-	
前年度よりの繰越金	-	-	-	

(主な増減理由)

※ 1 緊急性の低い施設・設備の改修・修繕を見合わせたため。

※ 2 譲渡性預金での運用を行ったため。

(5) 合計

(単位：百万円)

区 別	令和 6 年度			
	計画額	決定額	差引増減額	備考
	(A)	(B)	(A) - (B)	
資金支出	15,067	22,534	△ 7,467	
業務活動による支出	12,544	12,214	329	
投資活動による支出	104	6,007	△ 5,903	
財務活動による支出	-	-	-	
翌年度への繰越金	2,420	4,313	△ 1,893	
資金収入	(A)	(B)	(B) - (A)	
業務活動による収入	11,752	12,605	853	
その他の収入	11,120	11,634	513	
国庫補助金による収入	632	972	340	
投資活動による収入	-	5,000	5,000	
財務活動による収入	-	-	-	
前年度よりの繰越金	3,315	4,928	1,614	

※財務状況について（財務諸表）

当期総利益 271 百万円が発生したのは、志願者数及び成績提供件数の増加等により収入が増加したこと等によるものである。

【利益剰余金】

			利益剰余金は、3,156 百万円となった。内訳は、前中期目標期間からの繰越積立金 695 百万円、積立金 2,191 百万円及び当期総利益 271 百万円である。なお、利益剰余金の使途は、自己収入で取得した償却資産の減価償却費、不測の事態への対応、共通テスト及び調査研究の充実・改善、質の向上に係る経費である。 【繰越欠損金】 無し。 【運営費交付金債務の未執行率（%）と未執行の理由】 運営費交付金は交付されていない。 【溜まり金の精査の状況】 いわゆる溜まり金については、以下に着目して洗い出しを行った結果、該当するものはなかった。 ① 運営費交付金以外の財源で手当てすべき欠損金と運営費交付金債務を相殺しているものは無い。 ② 当期総利益は資産評価損等キャッシュ・フローを伴わない費用と相殺していない。
4 計画的な収支計画の作成 18 歳人口の減少による志願者数への影響に伴う検定料収入の減少を踏まえ、受益者負担の在り方等を見直すことで収支を改善し、見直しの基本方針の趣旨を踏まえた自己財源による自立かつ安定的な財政基盤を新学習指導要領に準拠した共通テストの開始までに確保するほか、収支差の平準化のための検討を行うとともに、既存業務の徹底した見直し・効率化等を進めることにより、各事業年度に計画的な収支計画を作成し、当該収支計画に基づき運営する。	4 計画的な収支計画の作成 18 歳人口の減少による志願者数への影響に伴う検定料収入の減少を踏まえ、受益者負担の在り方等を見直すことで収支を改善し、見直しの基本方針の趣旨を踏まえた自己財源による自立かつ安定的な財政基盤の確保に引き続き努めるとともに、収支差の平準化のための検討や既存業務の徹底した見直し・効率化等を進めることにより、計画的な収支計画を作成し、当該収支計画に基づき運営する。	B	4 計画的な収支計画に基づく運営 年度当初に収支計画を策定し計画的に運営を行った。令和 6 年度は、志願者数及び成績提供件数が増加したこと等により収支計画の総利益は計画額に対し 197 百万円増となった。 また、理事を委員長とする財務経営委員会において、令和 7 年度予算や今後数年間のセンターにおける収支イメージに基づき、今後の対応等について検討を行った。
5 施設・設備に関する計画 共通テストの秘密保持に留意した上で、長期的視点に立った施設・設備の整備を行うとともに、防災、セキュリティの確保、安全な勤務環境の確保の観点から、必要な施設・設備の改修等を行う。	5 施設・設備に関する計画 共通テストの秘密保持に留意した上で、中長期的視点に立った「独立行政法人大学入試センターインフラ長寿命化計画（個別施設計画）」（令和 5 年 10 月策定）に基づき、計画的に施設・設備の整備を行うとともに、防災、セキュリティの確保、安全な勤務環境の確保の観点から、必要な施設・設備の維持管理・改修を行う。	B	5 施設・設備の状況 (1) 業務の実施状況等を勘案した施設・設備の整備 長期的視点に立った施設・設備の整備及び防災、セキュリティの確保、安全な勤務環境の確保、並びに緊急性を考慮した「大学入試センターインフラ長寿命化計画（基本計画）」及び「大学入試センターインフラ長寿命化計画（個別施設計画）」を令和 5 年に策定している。 本計画に基づき計画的に整備を行うこととしており、令和 6 年度は、共通テストの業務に留意した工事時期を設定し、本館他屋上の防水改修、及び研究棟他の空調・照明（LED化）の改修工事等を行った。

			(2) 実物資産の保有状況 ① 実物資産の名称と内容、規模 業務実施のための大学入試センター本館を保有している。なお、講師寄宿舍を保有していたが、令和元年度における講師寄宿舍の廃止決定に基づき、令和2年9月30日をもって廃止し、令和6年5月31日に国庫納付が完了した。 ア 大学入試センター本館 所在 東京都目黒区駒場二丁目19番23号 土地 15,352 m² 建物 3階建、鉄筋コンクリート（延べ面積 14,356 m²） イ 講師寄宿舍【令和6年5月31日国庫納付】 所在 東京都目黒区駒場二丁目20番2号 土地 922 m² 建物 2階建、鉄筋コンクリート（延べ面積 681 m²） ② 保有の必要性（法人の任務・設置目的との整合性、任務を遂行する手段としての有用性・有効性等） センターは、大学が共同して実施する共通テストに関し、一括して実施することが適当な問題作成や出願受付、採点、成績提供等の業務を行っている。 大学の入学者選抜試験の一部である共通テストは、毎年約50万人程度が出願しており、適切な問題の作成、セキュリティの確保及び膨大な量の採点等の処理などの業務を毎年着実に実施することが求められている。 このため、下記の施設等が必要不可欠であり、現有資産を保有する必要がある。 ア 施設 i 試験問題を作成するに当たり、約700人の大学教員等が全国から集まる部会をセンター内で年間延べ1,784日開催し、作成・チェック等を行うためのスペース。 ii 志願票の受付、共通テストの採点、成績処理するためのスペース。 iii 共通テストの改善等のための研究を行うためのスペース。 イ 環境 i 問題作成等の作業のために全国から来所した多数の教員等のための交通至便かつ近隣の宿泊施設。 ii 共通テストの実施準備において、必要に応じて文部科学省、大学、高等学校関係団体との協議を行うことが可能となる立地。また、特に共通テスト当日において、緊急対応が必要となった場合には、文部科学省等に速やかに情報提供し、対応を協議するために迅速な往来が可能となる立地。 ③ 有効活用の可能性等の多寡 センターでは、現有資産を有効に活用し、共通1次試験やセンター試験等の業務を長年に渡り安定的かつ着実に実施してきた。今後も現有資産を有効活用し、共通テストを滞りなく実施していく。 ④ 見直し状況及びその結果 及び ⑤ 処分又は有効活用等の取組状況／進捗状況 「独立行政法人整理合理化計画」（平成19年12月24日閣議決定）において、「現在地
--	--	--	---

			での施設・土地の必要性及びその有効活用について、保有と賃貸のコスト比較による経済合理性等を考慮の上で、平成 22 年度中に検討し、結論を得る。」との指摘を受けた。 このことから、センターでは、外部の学識経験者を含む「保有資産に関する検討委員会」を設置し検討を行い、センターは、センター試験を着実に実施するためにも、また、経済効率的にも現在地で、今後 30 年以上使用可能である現有建物を活用して業務を実施していくことが最善であるとの結論を得た。 なお、講師寄宿舍については、令和元年度における講師寄宿舍の廃止決定に基づき、令和 2 年 9 月 30 日をもって廃止し、令和 6 年 5 月 31 日に国庫納付が完了した。 ⑥ 政府方針等により、処分等することとされた実物資産についての処分等の取組状況／進捗状況 該当なし。 ⑦ 基本方針において既に個別に講ずべきとされた施設等以外の建物、土地等の資産の利用実態の把握状況や利用実態を踏まえた保有の必要性等の検証状況 大学入試センター本館については、センターと大学が共同して行う共通テストの実施に関して、約 700 人の大学教員等が全国から集まり年間延べ 1,784 日の部会を開催するなど、センターが一括して実施することが適当な問題作成や出願受付、採点、成績提供等の業務を行っている。 保有する施設の必要性について、外部の学識経験者を含む「保有資産に関する検討委員会」を設置し検討を行い、規模・コスト・立地等を検証した結果、平成 23 年 3 月に、センター試験等業務を着実に実施するためには、現有地で現有建物を活用することが最善であるとの結論を得たが、今後も引き続き不断の検証を実施する。 また、講師寄宿舍については、令和元年度における講師寄宿舍の廃止決定に基づき、令和 2 年 9 月 30 日をもって廃止し、令和 6 年 5 月 31 日に国庫納付が完了した。 ⑧ 見直し実施計画で廃止等の方針が明らかにされている宿舍以外の宿舍及び職員の福利厚生を目的とした施設について、法人の自主的な保有の見直し及び有効活用の取組状況 該当なし。 ⑨ 実物資産の管理の効率化及び自己収入の向上に係る法人の取組 共通テストの実施機関であり、セキュリティ上部外者の入構を制限しているが、OMR については外部利用を進めており高等学校卒業程度認定試験で利用されている。
IV 短期借入金の限度額 30 億円（年度当初の運営資金、不測の事態への対応のための経費に必要となる可能性があるため。）	IV 短期借入金の限度額 30 億円（年度当初の運営資金、不測の事態への対応のための経費に必要となる可能性があるため。）	—	IV 短期借入金の有無及び金額 今期間中は特になし。

V 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画 講師寄宿舍（東京都目黒区駒場二丁目 20 番 2 号、923.51 m²）について、令和元年度における廃止決定を踏まえ、国庫納付を行う。	V 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画 講師寄宿舍の土地（東京都目黒区駒場二丁目 20 番 2 号）、建物及び工作物の全部を国庫納付する。	B	V 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分 講師寄宿舍については、令和元年度における講師寄宿舍の廃止決定に基づき、令和 2 年 9 月 30 日をもって廃止し、令和 6 年 5 月 31 日に国庫納付が完了した。
VI 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産以外の重要な財産の譲渡又は担保に関する計画 今期間中は特になし	VI 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産以外の重要な財産の譲渡又は担保に関する計画 特になし	—	VI 重要な財産の処分に関する計画の有無及びその進捗状況 今期間中は特になし。
VII 剰余金の使途 不測の事態への対応並びに共通テスト及び調査研究の充実・改善、質の向上に係る経費に充当する。	VII 剰余金の使途 不測の事態への対応並びに共通テスト及び調査研究の充実・改善、質の向上に係る経費に充当する。	B	VII 利益剰余金の有無及びその内訳 利益剰余金は、3,156 百万円となった。内訳は、前中期目標期間からの繰越積立金 695 百万円、積立金 2,191 百万円、当期総利益 271 百万円である。 ＜利益剰余金が生じた理由＞ 前中期目標期間から繰り越した積立金 695 百万円及び積立金 2,191 百万円、志願者数及び成績提供件数が増加したこと等による収入の増加等により当期総利益 271 百万円が生じたため。 【令和 5 年度業務実績に関する評価結果を踏まえた業務運営の改善等への反映状況】 ＜令和 5 年度業務実績評価における主要な指摘等＞ ・ 中長期的な経営計画に基づき、剰余金の有効活用について引き続き検討することが望ましい。 ＜上記の指摘事項を踏まえた令和 6 年度の改善状況＞ ・ 剰余金については、第 5 期中期計画において「不測の事態への対応並びに共通テスト及び調査研究の充実・改善、質の向上に係る経費に充当する」こととしている。 ・ 第 6 期中期目標期間に向けては、センターの中長期的な収支見込み及び各種事業や施設整備等の中長期的な計画を考慮の上、剰余金の有効活用について引き続き、検討した。

項 目 別 の 状 況

中 期 目 標	Ⅵ その他業務運営に関する重要事項 1 内部統制 「独立行政法人の業務の適正を確保するための体制等の整備」（平成 26 年 11 月 28 日総務省行政管理局長通知）に基づき、内部統制の充実・強化を図るため内部統制委員会の開催やコンプライアンスの徹底等、内部統制環境を整備・運用するとともに、不断の見直しを行う。また、定期的に内部監査等によりモニタリングや検証を行い、監事による監査機能・体制を強化する。 2 トップマネジメントの促進 国の政策動向や社会情勢の変化を踏まえつつ、センターの使命及び社会的責任を果たし、直面する課題に適切に対応するための理事長のトップマネジメントを促進する。その際、センターの政策実施機能を最大化すべく、役職員のモチベーションや使命感の向上といった点にも留意する。 3 情報システムの整備・管理及び情報セキュリティ 「情報システムの整備及び管理の基本的な方針」（令和 3 年 12 月 24 日デジタル大臣決定）にのっとり、PMO の設置等の体制整備を行うとともに、情報システムの適切な整備及び管理を行う。 また、政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群等を踏まえ、情報セキュリティポリシーを適時見直す。これに基づき情報セキュリティ対策を講じ、情報システムに対するサイバー攻撃への防御力、攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組むとともに、試験問題に係る秘密保持を確保するなど、個人情報保護のために必要な体制等の充実を図る。さらに、情報セキュリティ対策の実施状況を毎年度把握し、PDCA サイクルにより情報セキュリティ対策の改善を図る。 4 人材の確保・育成 センターの人事基本計画を踏まえ、新規採用や人事交流を通じ必要な資質能力を備えた人材の確保を図るとともに、共通テストを着実に実施できる適正な配置を行う。また、大学等を取り巻く環境が変化する中で、センターが期待されている役割を担うために必要な能力や情報セキュリティ、財務会計等の業務遂行に当たって求められる専門的能力を伸長させる研修等の人材育成に向けた取組を積極的に行う。 5 関係機関・団体への支援や協働体制の構築・強化 試験を共同実施する大学等との意思疎通・情報共有が図られ、円滑に試験が実施できる体制の構築・強化に向けた取組を推進する。また、大学入学者選抜に関する知見を広く大学等と共有する取組を推進し、必要な支援を行う。 6 情報の公開 業務の公共性にかんがみ、法人の運営に関する業務や財務等の情報について、分かりやすい情報開示を図るとともに、毎年度、積極的な開示を行う。

中期計画	令和 6 年度計画	進捗状況	実績（進捗状況の判断理由）
Ⅷ その他主務省令で定める業務運営に関する事項等	Ⅷ その他主務省令で定める業務運営に関する事項等	—	—

1 積立金の使途 前中期目標期間の最終事業年度において、独立行政法人通則法第 44 条の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、不測の事態への対応並びに共通テスト及び調査研究の充実・改善、質の向上に係る経費に充当する。	1 積立金の使途 前中期目標期間繰越積立金については、不測の事態への対応並びに共通テスト及び調査研究の充実・改善、質の向上に係る経費に充当する。	B	1 積立金 積立金は以下のとおりである。 (1) 目的積立金の有無及び活用状況 目的積立金はない。 (2) 積立金の支出の有無及びその使途 前中期目標期間繰越積立金を施設修繕、問題冊子等輸送のためのアルミ製コンテナの購入、電子出願システムの開発・改修等にかかる経費に充当した。
2 内部統制 「独立行政法人の業務の適正を確保するための体制等の整備」（平成 26 年 11 月 28 日総務省行政管理局長通知）に基づき、内部統制の充実・強化を図るため、内部統制委員会の開催やコンプライアンスの徹底等、内部統制環境を整備・運用するとともに、不断の見直しを行う。また、定期的なモニタリングや検証を行い、監事による監査機能・体制を強化する。	2 内部統制 「独立行政法人の業務の適正を確保するための体制等の整備」（平成 26 年 11 月 28 日総務省行政管理局長通知）に基づき、内部統制の充実・強化を図るため、内部統制委員会の開催や研修の実施を通じてコンプライアンスの徹底等、内部統制環境を整備・運用するとともに、不断の見直しを行う。 また、引き続き監事監査や会計内部監査等を活用した定期的なモニタリングや検証を行い、監事による監査機能・体制を強化する。	B	2 内部統制 内部統制の充実・強化に資するよう、以下を計画的かつ着実に実施した。 (1) リーダーシップを発揮できる環境の整備状況と機能状況 〈環境の整備状況〉 ① 理事長の補佐体制 理事長がリーダーシップを発揮するため、その下に理事長を補佐する「理事」、試験と調査研究の業務を総括する「試験・研究統括官」、それを補佐する「試験・研究副統括官」、理事長の命を受け特定の事項を掌理する「審議役」を置いている。 ② 役員会議 理事長は、センターの業務運営等に関する重要事項を審議し、理事長の意思決定を補佐するため、理事、監事、試験・研究統括官、試験・研究副統括官、審議役、部長等で構成する「役員会議」を原則毎月開催した。 また、役員会議には、全ての課長、参事も出席し、必要に応じて意見を述べることとしている。 ③ 運営審議会 理事長の諮問に応じ、センターの事業計画その他重要事項について審議するため、大学及び高等学校関係者等で構成する「運営審議会」を設置している。令和 6 年度は、令和 5 事業年度の業務実績に関する評価や令和 7 年度年度計画（案）等について意見を聞き、理事長のマネジメントの参考とした。 ④ 権限の委任 業務の効率化を図るため、定型的なものと軽易なものに限って権限を委任した。 〈環境の機能状況〉 ⑤ 予算 予算については、役員による各課からのヒアリング実施後、財務経営委員会における検討を踏まえ配分案を作成し、運営審議会及び役員会議の審議を経て、理事長が決定した。

		⑥ 人事 教員人事については、選考に当たっては選考基準を設け、理事長を委員長とする教員人事委員会で審議の上、採用・再任を決定している。 事務職員人事については、理事長の指示のもと、人事基本計画（理事長裁定）に基づいて、大学等との人事交流等を行った。また、職員の採用に当たっては、センターの現状を考慮し、必要な資質能力を備えた者を採用した。 ⑦ 研究開発 大学入学者選抜の改善、大規模一斉共通試験に関する研究を推進し、大学及び高等学校教育の振興に資するため、「大学入試センター研究ミッション」（平成 29 年 10 月策定）に基づく研究を推進するよう指示を行った。 (2) 組織にとって重要な情報等についての把握状況 ① 参加大学等関係者からの情報把握 共通テストを実施するためには、参加大学や高等学校関係者及び文部科学省との連携協力が必要不可欠である。そのため、大学及び高等学校関係者で構成される「大学入学共通テスト企画委員会」及び「実施方法部会」を開催し、試験の実施方法の改善に関して、直接大学や高等学校の関係者から実情や意見・要望等を把握するとともに、文部科学省の会議や大学関係団体の会議に出席し、政府や大学の動向について、直接情報を把握した。 ② センター内の情報把握 小規模な組織のメリットを活かし、理事長は、年度計画に沿って担当部課長から直接報告を受けるとともに、重要事項等については関係役職員を招集し情報を把握した。 (3) 役職員に対するミッションの周知状況及びミッションを役職員により深く浸透させる取組状況 ① 役員会議等 年度当初に理事長が直接、役職員に対しミッションを周知徹底するとともに、役員会議等に出席・陪席している各部課長を通じ全職員に対し理事長の意思を周知徹底した。また、各種会議・研修等の機会を捉えて、理事長自ら職員に対して共通テスト実施体制、研究開発部の活性化、業務運営の改善、経費の節減合理化及び収入増加方策などについて見直し・改善するよう指示を行った。 ② 部課長連絡会、教員会議等 理事を中心とした部課長連絡会（毎週開催）、研究開発部長を中心とした教員会議（毎月開催）の場を通じて、ミッションの周知徹底を図るとともに業務の進捗状況等の把握を行い、必要に応じ理事長に報告した。 (4) 組織全体で取り組むべき重要な課題（リスク）の把握状況、対応状況 ① センターにおける最重要なミッションは、共通テストの着実な実施であり、その障害となるリスクを回避するため情報を把握するとともに必要に応じて対策を講じている。
--	--	--

			② 共通テスト実施後、各大学・センター職員から意見・要望を聴取してリスク等を洗い出し、必要に応じて次年度からの共通テスト実施に反映させている。 ③ 作成している事業継続計画（BCP）がより有効に機能するよう、試験実施前・実施中・実施後に場合分けをしている。 ④ 大規模災害への対応 ア 巨大地震の発生など、共通テストの実施に影響を及ぼす大規模災害における対応フロー等について、マニュアルの見直しを行い、令和7年度共通テストに臨んだ。 イ 危機管理等委員会において、大規模震災発生による共通テスト実施のリスクへ対応するための「大規模震災対応マニュアル」及びセンターが大規模災害等により被災した場合においても役割を適切に果たすための「大規模災害時業務継続計画」の見直しについて審議し、必要な改定を行った。 ウ 平成24年度から、大地震発生時に役職員の安否をメールで確認するとともに緊急参集等の連絡を行うことができる安否確認システムを導入し、定期的に大規模災害の発生を想定した安否確認等の訓練を実施した。 エ 防災訓練及び非常時参集要員向け研修を各1回実施した。 オ 災害時の非常用食料、毛布、簡易トイレ等を計画的に備蓄・整備している。 (5) 未達成項目（業務）についての未達成要因の把握・分析・対応状況 該当なし。 (6) 内部統制のリスクの把握状況、また、内部統制のリスクがある場合、その対応計画の作成・実行状況 センターにおける最大のリスクは、試験の実施に影響する試験問題の漏洩などセンターの信頼を損なう事態の発生である。これを防ぐため各部課において、リスクを把握して改善策を検討し取り組むとともに、不断の見直しを行ってきた。また、理事長は会議等の機会を捉えて役職員にミッションの周知徹底を指示するとともに、年度計画に沿って業務が行われているか担当部課長から報告を受けたほか、内部監査、監事監査等によるモニタリング実施結果の報告を受け、内部統制が有効に機能しているかチェックした。 ① 試験問題など試験に係る情報管理については、より確実なものとするため不断の検証を行い、計画的にセキュリティ対策に取り組んだ。 ② 会計処理については、会計内部監査を実施し、その結果を理事長に報告するとともに監事にも報告した。また、会計監査人による監査が実施され、監査報告書が理事長に提出された。 ③ 契約については、平成22年4月に公表した随意契約の見直し計画に基づき、その改善に取り組むとともに、外部有識者を含む契約監視委員会による契約内容のチェックを行った。
--	--	--	---

			④ 情報セキュリティについては、情報システム監査においてセキュリティ対策等の監査を計画的に行い、その結果について最高情報セキュリティ責任者（CISO）に報告した。 ⑤ センターにおける内部統制に係る取組を確認する観点から、内部統制委員会を開催し、リスク対応計画における各課等の取組状況及び改善策について検討した。内部統制委員会における検討結果を踏まえ、危機管理等委員会において、共通テストを含む法人全体としての具体的なリスク・対応等を見直し整理した。 (7) 法令の遵守 職務の執行の公正性の確保、業務運営上の不正行為等の早期発見及び是正、また、公的研究費の適正な運営・管理及び研究活動における不正行為の防止等の観点から、関係規則の整備をするなど、業務に係る法令遵守に努めている。 (8) 監事監査（資料編 p. 31～32【資料 19】、【資料 20】参照）を通じたモニタリング ① 理事長へのマネジメント等に関する監査を通じ、マネジメント・内部統制に関するモニタリングを行った。 監事監査では、中期目標を達成するため中期計画・年度計画の実施状況やその妥当性に留意した監査、理事長が内部統制を適切に整備・運用しているかを含めた理事長のマネジメントに留意した監査を以下のとおり行った。 ・令和6年度の監査計画を立て監査の重点事項等について理事長に説明するとともに、役員会議において周知した。 ・上記監査計画に基づき、5～6月にかけて令和5事業年度の業務に関する定期監査を実施し、書面及びヒアリングによる監査を行い、業務の取組状況について監査し、現場の実態を把握するため、担当する係長や係員からも適宜ヒアリングを行った。 ・また、10月に令和6事業年度の業務について中間監査を実施し、定期監査のフォローアップを行った。 ・会計業務については、毎月月次監査を実施するとともに、決算監査について監査法人からヒアリングを行った。また、センターが行う内部監査結果についても報告を求めた。 ・センターの運営等に関する重要事項を審議する役員会議や運営審議会に出席し、理事長のマネジメントについて監査した。 また、大学入学共通テスト企画委員会等に出席し、共通テストの企画段階における監査を行った。 ・共通テストの実施面では、共通テスト本試験及び追・再試験当日は実施本部に常駐し、共通テストが確実に実施されているか等の実施状況を確認した。 ・日常的に、文部科学大臣等に提出する重要書類、契約に関する重要書類を監査した。 ・監査計画立案、監査報告に際して会計監査人と意見交換を行い、適切な監査を実施した。 ② 監事監査における改善点等の法人の長に対する報告状況 監事監査の結果については、定期監査、中間監査ともに理事長に報告し、意見交換した。また、役員会議においても報告するとともに、留意点等について説明し、改善を求
--	--	--	--

			めた。改善を要する業務については、この監査結果を踏まえて業務を行うよう理事長から指示し、改善を図った。 ③ 監事監査における改善事項への対応状況 全体として重大な指摘事項はなかった。なお、従前の監査結果において、ハラスメント相談窓口や内部通報受付窓口がわかりにくいという指摘を受け、内部システムの掲示板のわかりやすい場所に受付窓口を掲載した。 (9) 会計内部監査 会計内部監査に関する監査事項や監査員等の基本的事項を規定で定めた「会計内部監査の実施に係る取扱い」に基づき、令和7年2～3月に実施した。その他、日常的に起こり得る不正行為やその他誤びゅう等の発生を防止・発見するため、監査担当係において会計書類の日常監査を実施した。 (10) 会計監査法人による監査 令和5年度の財務諸表等に対して、令和6年6月に会計監査人による監査が行われた。
3 トップマネジメントの促進 国の政策動向や社会情勢の変化を踏まえつつ、センターの使命及び社会的責任を果たし、直面する課題に適切に対応するための理事長のトップマネジメントを促進する。その際、センターの政策実施機能を最大化すべく、役職員のモチベーションや使命感の向上といった点にも留意する。	3 トップマネジメントの促進 国の政策動向や社会情勢の変化を踏まえつつ、センターの使命及び社会的責任を果たし、直面する課題に適切に対応するため、理事長のリーダーシップの下、効率的な業務運営に資する具体的方策を検討し改善につなげるとともに、センターのミッションに沿った研究への戦略的な予算配分・執行を行う。その際、センターの政策実施機能を最大化すべく、役職員のモチベーションや使命感の向上といった点にも留意する。	B	3 トップマネジメントの促進 センターの使命及び社会的責任を果たすため、理事長のリーダーシップの下、文部科学省をはじめ参加大学や高等学校関係者との連携・協力の上、以下のとおり、直面する課題に対応した。 ○ 理事長のリーダーシップの下、現行の共通テストの実施方法等の改善方法、その他センターの実施する試験の在り方について、広く検討を行った。 ○ 新教育課程に対応した令和7年度共通テストが円滑に実施できるよう、高等学校等の教員、志願者、参加大学等の関係者に対する丁寧な情報発信、周知徹底を指示した。 ○ 令和8年度共通テスト（令和7年度実施）からの電子出願システムの導入に向けて、関係者への情報提供等、準備を着実に進めるよう促した。 ○ 調査研究については、外部委員による評価結果や研究代表者からのヒアリングの結果を踏まえ、センター研究ミッションに沿った研究予算の配分を行い、計画的かつ着実に実施するよう促した。 ○ 理事長のリーダーシップの下に配分する理事長裁量経費について、調査研究等のほか、事務局（総務部、試験企画部、事業部）が実施する取組に関し申請が活性化するように、募集要項を見直し事務局に周知した。その結果、事務局から3件の申請を採択し、各部課における業務改善等の推進に資する取組を支援した。
4 情報システムの整備・管理及び情報セキュリティ (1) 情報システムの整備・管理 「情報システムの整備及び管理の基本的な方針」（令和3年12月24日デジタル大臣決定）にのっとり、PMOの設置等の体制設備を行うとともに	4 情報システムの整備・管理及び情報セキュリティ (1) 情報システムの整備・管理 PMOにおいて、「情報システムの整備及び管理の基本的な方針」（令和3年12月24日デジタル大臣決定）に準拠しつつ、情報システムの適切な整備及び管	B	4 情報システムの整備・管理及び情報セキュリティ (1) 情報システムの整備・管理 情報化統括責任者（CIO）、情報化統括責任者（CIO）補佐官、総務部長、事業部長等で組織するPMO（Portfolio Management Office）を設置している。 また、センターにおける情報システムの適切な整備等を行うため、情報システム監査を実施し、その結果について情報化統括責任者（CIO）に報告した。

に、情報システムの適切な整備及び管理を行う。 (2) 情報セキュリティ 政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえ、情報セキュリティポリシーを適時見直すとともに、これに基づき情報セキュリティ対策を講じ、情報システムに対するサイバー攻撃への防御力、攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。また、試験問題等のデータ管理を厳格に行い、試験問題に関する情報の管理のルールを厳格化した上で、関係者に更なる周知徹底を図るとともに、個人情報保護のために必要な体制等の充実を図る。さらに、情報セキュリティ対策の実施状況を毎年度把握し、PDCA サイクルにより情報セキュリティ対策の改善を図る。	理を行う。 (2) 情報セキュリティ 政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえ、情報セキュリティポリシーを適時見直すとともに、サイバーセキュリティ基本法(平成 26 年法律第 104 号)に基づく監査の実施結果も踏まえ、情報システムに対するサイバー攻撃への防御力、攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。 試験問題等のデータを厳格に管理するため、使用手順等のルールについて、職員及び試験問題作成委員に更なる周知徹底を行い、適切な情報管理に努める。 また、個人情報保護のセキュリティ強化を図るとともに、情報セキュリティ対策の実施状況を把握し、PDCA サイクルにより情報セキュリティ対策の改善を図る。	(2) 情報セキュリティ ①ー1 組織等 センターにおいては、「情報システムセキュリティ規則」及び「政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準」に準拠して策定した「独立行政法人大学入試センターサイバーセキュリティ対策基準」(以下「対策基準」という。)等に基づき、最高情報セキュリティ責任者、情報セキュリティ委員会等を置き、情報セキュリティ対策に係る組織・体制を整備している(資料編 p.33【資料 21】参照)。 ①ー2 対応等 「対策基準」に基づき、情報セキュリティ委員会での審議を経て、「令和 6 年度情報セキュリティ対策推進計画」を策定した。また、同計画に基づき、以下のとおり、サイバー攻撃への防御力、攻撃に対する組織的対応能力の強化等に取り組んだ。 ・事務用電子計算機システムにおいては、個人情報等の機微な情報をインターネットなどの外部ネットワークから遮断されたクローズドネットワークで管理している。 ・端末の紛失、盗難、不正プログラムの感染等により情報窃取されることを防止するため端末に情報を残留させない機能を導入している。 ・全役職員を対象にした標的型メール攻撃に対応するための訓練や、CSIRT の要員を対象に CSIRT 訓練(標的型メール攻撃によりマルウェアに感染したこと等を想定)を実施した。 ・全役職員を対象にした情報セキュリティ研修や情報セキュリティ対策の自己点検を実施した。 ② 試験問題に関するセキュリティ ・試験問題に係るデータ管理を強固なものとするため、専用サーバによる部会用電子計算機システムを使用するとともに、専用サーバ室の生体認証による入退室管理を行うなど、厳格な管理体制を維持した。 ・試験問題の秘密保持、当該データの使用手順等のデータ管理のルールについて、試験問題作成委員に対しては、年度当初の分科会長会議において事務局から説明し確実に周知徹底を行うとともに、必要に応じて各部会の開催時に秘密保持の意識を高めるため分科会長を通じて周知を行っている。関係職員に対しても、試験問題の秘密保持のために必要な管理上のルール等について、試験問題作成に係る事務を所掌する事業第二課への配属時に説明するとともに、必要に応じて随時確認を行った。 ・管理上のルール等については必要に応じて随時見直し、改善を図ることとしており、変更があった場合には、関係職員をはじめ各部会委員に対し説明の上周知徹底を図り、適切な情報管理を行っている。
--	---	--

5 人材の確保・育成 センターの人事基本計画を踏まえ、新規採用や人事交流を通じ必要な資質能力を備えた人材の確保を図るとともに、共通テストを着実に実施できる適正な配置を行う。また、大学等を取り巻く環境が変化する中で、センターが期待されている役割を担うために必要な能力や情報セキュリティ、財務会計等の業務遂行に当たって求められる専門的能力を伸長させる研修等の人材育成に向けた取組を積極的に行う。	5 人材の確保・育成 人材確保・育成については、センターの人事基本計画に基づき、新規職員の計画的な採用を行い、センターの将来を担う専門的な知識を持つ人材を育成するために計画的に業務を経験させるほか、大学等との人事交流により必要な資質能力を備えた人材の確保にも努めるとともに、共通テストを着実に実施できる適切な配置を行う。 また、大学等を取り巻く環境が変化する中で、センターが期待されている役割を担うために必要な能力の向上及び専門的知識の習得を目的として、職員の職位、実務経験等に応じて、外部団体の研修プログラムも活用しながら各種研修に職員を積極的に参加させるほか、職務に関連する専門的な知識・理解を得ることを目的として、センターで企画・主催する研修についても内容の充実に努める。	B 5 人材の確保・育成 人事基本計画に基づく取組については、以下の(1)～(7)を計画的かつ適切に実施した。(資料編 p. 34～35【資料 22】参照) (1) 人材確保 ① 新規採用について 令和6年度は、職員の年齢構成バランスを勘案し、事務職員を「令和6年度国立大学法人等職員採用試験合格者」から2人、「令和5年度国立大学法人等職員採用試験合格者」から1人採用した。 ② 「障害者の雇用の促進等に関する法律」を踏まえた取組 障害者の雇用については、重度身体障害者等を常勤職員として雇用しており、法定雇用率を達成した。 (2) 職員研修 ① 選択制研修 職員の職務遂行能力を向上させるため、職場・職員のニーズにあった研修を受講できるよう民間業者が実施する公開講座を活用した選択制研修を実施した。 実施回数：20回 実施時期：7月1日～3月17日（eラーニング形式） 参加者：20人（各1回） ② メンタルヘルス研修 独立行政法人大学入試センターにおける人事に関する基本計画に基づき、メンタルヘルスの不調を事前に防止するため、全職員を対象として実施した。 実施回数：1回 実施時期：7月1日～9月27日（eラーニング形式） 対象者：全職員（参加者：128人） ③ 情報セキュリティ研修 対策基準に基づき、日々の業務を遂行する上で重要となる「情報セキュリティ対策」について理解を深めるため、全役職員を対象として実施した。 実施回数：1回 実施時期：8月9日～10月10日（eラーニング形式） 対象者：全役職員（参加者：150人） ④ 標的型メール訓練 情報セキュリティ対策に係る教育の一環として、サイバー攻撃に対する役職員のセキュリティ意識の向上を図るため、全役職員を対象に標的型メール訓練を実施した。訓練実施後には初動対応方法についての周知及び攻撃型メールの注意喚起を併せて行った。 実施回数：2回 実施時期：第1回 7月23日～7月25日
---	--	---

			第2回 2月12日～2月14日 対象者：全役職員（参加者：156人） ⑤ 国の行政機関、国立大学法人等が主催する研修 職員の職位、実務経験に応じて資質能力の充実を図るため、計画的に国の行政機関、国立大学法人等が主催する職務階層別研修、教養研修及び実務研修に参加させた。 （例） ・ 情報公開・個人情報保護制度・公文書管理の運用に関する研修会 ・ 関東・甲信越地区及び東京地区実践セミナー（人事・労務・安全管理の部） ・ 関東・甲信越地区及び東京地区実践セミナー（広報の部） ・ 関東・甲信越地区及び東京地区実践セミナー（財務の部） ・ 関東・甲信越地区国立大学法人等会計事務研修 ・ 関東地区評価・監査セミナー 参加回数：12回 参加者：延べ36人 ⑥ 個人情報保護管理者・保護担当者研修 各部課における保有個人情報の適切な管理を確保するため、保有個人情報の安全管理において中心的な役割を担う各部課の個人情報保護管理者・保護担当者を対象とした研修を行った。 実施回数：1回 実施時期：8月8日～9月20日（eラーニング形式） 参加者：50人 ⑦ ハラスメント研修 ハラスメントに対する認識を深めるとともに、職場におけるハラスメントを防止するため、ハラスメント研修を実施した。 実施回数：1回 実施時期：7月18日～9月30日（eラーニング形式） 対象者：全職員（参加者：128人） ⑧ 各大学の入試業務に関する実務型研修 各大学における入試業務を経験させることにより、大学入学試験に関する専門的な知識・理解を得させることを目的とし、電気通信大学及び東京農工大学に職員を派遣する実務型研修を実施した。 実施回数：2回 実施時期：2月19日～3月6日（電気通信大学） 2月20日～3月13日（東京農工大学） 参加者：各1人 ⑨ 法人文書管理研修
--	--	--	---

			各部課等の職員が法人文書の管理を適切かつ効果的に行うため、必要な知識及び技能の習得、向上を目的に全役職員を対象とした法人文書管理研修を実施した。 実施回数：１回 実施期間：６月２５日～８月３０日（ｅラーニング形式） 参加者：１４８人 ⑩ 非常時参集要員向け研修 センターが大規模災害時等により被災した場合においても適切な役割を果たすことができるよう理解を深めるため、大規模災害時業務継続計画における非常時参集要員に対して研修を実施した。 実施回数：１回 実施期間：１２月１６日～１月１７日（ｅラーニング形式） 参加者：５３人 ⑪ 内部統制・危機管理研修 センターのミッションを有効かつ効率的に果たすための仕組みである「内部統制」と自然災害等の危機発生時に被害及び影響を最小限に抑えつつ業務を遂行するための「危機管理」について、職員の知識・技能の習得及び意識向上を目的に全役職員を対象に研修を実施した。 実施回数：１回 実施期間：８月９日～９月３０日（ｅラーニング形式） 参加者：１４９人 ⑫ 障害者差別解消法研修 障害を理由とする差別の解消に関する基本的な事項や障害を理由とする差別の解消等に関し求められる役割について、理解を深めることを目的に全役職員を対象に研修を実施した。 実施回数：１回 実施期間：１０月８日～１１月２９日（ｅラーニング形式） 参加者：１４１人 ⑬ 係長級課長補佐級研修 センターの係長・課長補佐として求められる役割を、上司・部下の視点から改めて認識し、成果をあげるために必要なマネジメントスキルを習得させるための研修を実施した。 実施回数：１回 実施期間：２月２８日及び３月３日（ｅラーニング形式） 参加者：７人 (3) 人員の適正配置 ① 組織の業務を精査し、必要に応じて組織の見直し（p.38 実績の欄(1)－１参照）を行い、センター全体として適正に人員を配置した。
--	--	--	--

② 職員の配置に当たっては、業務の性質、当該職員の能力・適性・希望を総合的に判断し行った。

(4) 人事交流
国立大学等と人事交流を行っている（p. 38 実績の欄(1)－2 参照）ほか、民間企業からの出向者を受け入れている。

(5) 雇用環境整備
① 「次世代育成支援対策推進法」（平成 15 年法律第 120 号）を踏まえた環境整備
環境整備のため、以下の取組を実施した。
・ノー残業デー（毎週金曜日）を設けるなど、時間外勤務の縮減を図った。
・年次有給休暇の計画的使用を促進した。
・5 人の職員が育児休業を取得した。

② 職員の心身の健康管理対策
健康管理対策として、以下の取組を実施した。
・各部署にハラスメント相談員を配置した。
・メンタルヘルス研修を実施した。
・インフルエンザの予防接種の機会を提供した。
・長時間労働者に産業医の面談を実施した。
・衛生委員会を毎月開催し、健康障害の防止及び健康の保持増進を図るために空気環境測定等や職場巡視などを行った。
・ストレスチェックを実施した。
・タイムカードの運用により、労働時間の適正な把握に努めた。
・ハラスメント防止規則を改正し、ハラスメント発生時の調査体制を強化した。

(6) 適正な人員配置
業務を効率的に遂行するため、組織全体の業務を精査し、適正な人員配置を行い、常勤職員数の適正化を図った。

【常勤職員数の推移表】（各年度 4 月 1 日現在）

(人)

事業年度	理事長	理事	監事	試験・研究統括官	試験・研究副統括官	教授	准教授	助教	一般職（事務・技術）	合計
令和 3 年度	1	1	1	1	1	4	5	3	※ 99	116
令和 4 年度	1	1	1	1	1	5	4	2	※ 97	113

			<table><tr><td>令和5年度</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>6</td><td>5</td><td>1</td><td>※100</td><td>117</td></tr><tr><td>令和6年度</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>6</td><td>6</td><td>1</td><td>※100</td><td>118</td></tr></table> ※ 試験問題調査官（令和3年度 12 人・令和4年度 11 人・令和5年度 11 人・令和6年度 11 人）を含む。 (7) その他 1 年単位の変形労働時間制の実施 事業部において、繁忙期と閑散期の隔たりが大きくその差を調整するために、令和元年度から導入した 1 年単位の変形労働時間制を令和6年度も実施した。	令和5年度	1	1	1	1	1	6	5	1	※100	117	令和6年度	1	1	1	1	1	6	6	1	※100	118
令和5年度	1	1	1	1	1	6	5	1	※100	117															
令和6年度	1	1	1	1	1	6	6	1	※100	118															
6 関係機関・団体への支援や協働体制の構築・強化	6 関係機関・団体への支援や協働体制の構築・強化	B	6 関係機関・団体への支援や協働体制の構築・強化																						

試験を共同実施する大学等との意思疎通・情報共有が図られ、円滑に試験が実施できる体制の構築・強化に向けた取組を推進する。また、大学入学	共通テストは、大学が共同して実施するものであることを踏まえ、センターや関係団体の会議等において実施主体である参加大学の役割について説明するとともに、参加大学の意思がより適切に反映されるよう、共通テストに係る各種委員会等の一部委員について関係団体に推薦を依頼する。また、試験の円滑な実施に向けて、参加大学に対して、特設サイトを通じ意思疎通及び情報共有を図ること等により、協働体制の構築・強化を推進する。		関係機関・団体への支援や協働体制の構築・強化のため、以下のとおり取り組んだ。
者選抜に関する知見を広く大学等と共有する取組を推進し、必要な支援を行う。	また、大学入学者選抜に関する知見を広く大学等と共有する取組を推進し、必要な支援を行う。		(1) 参加大学の役割についての説明、参加大学の意思の反映（Ⅰ－1 再掲）
			共通テストが参加大学との共同実施であることを踏まえ、参加大学の役割について説明するとともに、参加大学の意見を「令和7年度共通テスト実施要領」等に反映させた。
			① 実施主体である参加大学の役割について説明するための取組
			・センター主催の協議会での説明
			入試担当者連絡協議会
			※参加大学の担当者に対して「入試担当者連絡協議会」を以下のとおりオンラインにより開催
			・依頼があった大学関係団体等の会議での説明・資料提供
			国立大学協会総会、国立大学入試担当課長連絡会議（ウェブ会議）、1都3県世話大学入試担当課長連絡会、北海道地区実務担当者会議（ウェブ会議）、福島県連絡会議（ウェブ会議）
			② 参加大学の意思を反映するための取組
			大学側の意思がより適切に反映されるよう、共通テストの実施方法等を審議する共通テスト企画委員会の一部委員を、国公私立大学の各団体からの推薦により委嘱しており、大学入学共通テストの実施要項、受験案内、実施要領等のマニュアルについて審議を行った。
			また、令和6年度共通テスト実施後の取組状況調査において参加大学の意見を求め、令和7年度共通テストの各種マニュアルに反映させた。
			(2) 参加大学との協働体制の構築・強化の推進
			① 入試担当者連絡協議会
			参加大学の担当者に対してオンラインにより開催し、実施要領・監督要領・輸送要領・成績提供要領をもとに、令和7年度共通テストの実施方法の変更点を中心に試験実施業務等の具体的内容について周知するとともに協議を行った。

			特に、説明内容や配付資料について、入試担当者連絡協議会の参加者が分かりやすく、さらに各大学で学内関係者へ周知しやすいようにするとともに、過去のトラブルや対応事例を精選し、関係者の理解を得よう改善した。 また、この入試担当者連絡協議会の説明で使用するスライド資料は、協議会開催前に参加大学専用の特設サイトに掲載し、事前に各大学で資料内容を確認できるようにするとともに、協議会開催後は解説付きのスライド資料も特設サイトに掲載し、各大学がダウンロードして各大学における監督者説明会等で使用できるよう工夫した。 スライド資料について、各大学の担当者が分かりやすく、さらに学内関係者へ周知しやすいよう改善した。 このほか、各提供資料は、編集可能なファイル形式とし、各大学がダウンロードして学内の監督者説明会等で使用できるよう配慮した。 ② 監督者を始めとした試験実施関係者への周知徹底 各大学に対し、監督者等への監督業務及び担当業務を周知徹底するための監督者等説明会を開催し、全ての監督者等に以下を説明するよう要請した。また、監督者等説明会に出席できない者に対しては、説明会の別途開催や個別説明などを依頼した。 ・ 共通テストは参加大学とセンターが協力して共同で実施する試験であること ・ 前年度共通テストとの変更点 ・ 各担当者の業務内容 ・ 不正行為の取扱い ・ 不測の事態が発生した場合の対応方法等 ・ 各業務において実施上のミスやトラブルが発生した場合、再試験の実施など受験者に多大な影響を与えるおそれがあること ・ 各要領の記載内容や試験実施に係る業務内容に関して、試験実施関係者以外に話したり、SNS 等に投稿したりしないこと さらに、視覚的に業務を理解してもらうための「監督業務解説ビデオ」、「英語リスニング監督者用演習ビデオ」を更新し、参加大学専用の特設サイトに掲載しダウンロードして活用できるようにした。 また、参加大学に対し、関係教職員への留意点の周知徹底、英語リスニングの監督者等予行演習及びマニュアル整備を依頼する文書を発出した。 ③ 共通テストにおける実務型研修の実施 大学関係者が共通テスト実施当日の業務をセンター側の立場で経験することを通じ、共通テストにおけるセンターが担う業務内容への理解を深め、今後の共通テストにおけるセンターと大学等が行う業務が一層円滑に進むことを目的として、大学等の職員を対象に、実務型研修を実施した。 研修参加者は、本試験当日にセンターに設置する共通テスト実施本部事務局において、大学との連絡業務等の実務を担った。 (3) 大学入学者選抜に関する知見を広く大学等と共有する取組
--	--	--	--

			大学の入学者選抜方法の改善に関する研究交流の一層の推進に資するため、全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会を毎年主催し、共催大学とともに企画・運営を行っている。令和6年度大会については、大阪公立大学との共催によりオンラインで開催し、発表の内容を取りまとめた報告書及び論文集として「大学入試研究の動向」と「大学入試研究ジャーナル」を発行した。 また、大学入試に係る研究成果について社会に発信するため、シンポジウムを開催した。 さらに、各大学での入試関連業務はより複雑化し高度に専門化しつつあるため、各大学の入試業務においてリーダー的役割を期待される教職員を対象に「アドミッションリーダー研修」を実施した。
7 情報の公開 業務の公共性にかんがみ、法人の運営に関する業務や財務等の情報について、分かりやすく情報開示するとともに、毎年度、積極的な開示を行う。	7 情報の公開 業務の公共性にかんがみ、法人の運営に関する業務や財務等の情報について、分かりやすく情報開示するとともに、積極的な開示を行う。	B	7 情報の公開 以下の(1)～(6)のとおり計画的かつ積極的に公開した。 (1) 通則法で定められた情報の公開（資料編 p.36【資料23】参照） 以下の情報について、事務所に当該書類を備え置くとともに、センターのウェブサイトに掲載した。 ・ 役員の任命（通則法 第20条第5項） ・ 業務方法書（通則法 第28条第3項） ・ 中期計画（通則法 第30条第4項） ・ 年度計画（通則法 第31条第1項） ・ 中期目標に係る事業報告書（通則法 第38条第2項） ・ 財務諸表等（通則法 第38条第3項） ・ 役員給与規則・役員退職手当規則（通則法 第50条の2第2項） ・ 職員給与規則・職員退職手当規則（通則法 第50条の10第2項） (2) 通則法で定められた以外の情報の公開 以下の情報について、センターのウェブサイト等に掲載した。 ① 管理・運営関係 センターの沿革、組織、諸規則、業務実績に関する評価、調達等合理化計画、随意契約の状況、随意契約見直し計画、業務・システム最適化計画、業務内容別の職員数 ② 事業関係 ア 共通テストの運営等 共通テストの概要、出題教科・科目、受験案内、志願者数、実施結果、正解等、リスニングテストで使用するICプレーヤーの操作方法、Q&A イ 試験問題評価 試験問題評価報告書（令和6年度共通テスト関係） ウ 調査研究活動の内容 教員紹介、主な研究課題、研究紀要、大学入試研究ジャーナル なお、令和6年度のセンターのウェブサイト訪問件数は、5,972,899件（令和5年度：5,111,685件）であった。（資料編 p.17【資料13】参照）

			(3) 広報資料による情報の公開 大学入試センター概要リーフレット（令和6年度）を刊行し、各国公私立大学及び関係者等に配布するとともに、センターのウェブサイトでも閲覧できるようにした。 (4) 報道機関による情報の公開（資料編 p. 37～38【資料 24】参照） 共通テストに関する諸資料について、適宜、文部科学記者会へ資料提供又は記者会見を行うとともにセンターのウェブサイトで公表した。 (5) ウェブサイトにおける情報発信の改善 誰もがウェブサイト等で提供される情報や機能を支障なく利用できることを目的として策定している「独立行政法人大学入試センターウェブアクセシビリティ方針」に基づき、日々のコンテンツ更新においては適切なレイアウトや表記を行うよう留意するとともに、ウェブサイト編集に用いるシステムについて、見出しやリストのレイアウトの新設・調整のための改修を行うなど、取組を推進した。 令和6年12月には、総務省「みんなの公共サイト運用ガイドライン（2024年版）」に基づき、ウェブアクセシビリティに関する取組確認・評価を行い、結果をウェブサイトに公開した。今後定期的に試験を実施し、ウェブサイトのアクセシビリティについて改善を続けていく。 (6) SNS を活用した情報発信の推進 公式X（旧 Twitter。以下「X」という。）については、令和2年度から運用を開始し、センターの事業や共通テストの情報について日常的に広く情報発信を行っている。 令和6年度には、令和7年度共通テストにおける新学習指導要領への対応に伴う変更点等について情報発信を行うため、令和6年6月にLINE 公式アカウントを開設し、既存のXやウェブサイトでの情報発信と併せて定期的にメッセージの配信を行った。
--	--	--	---

中期計画	令和 6 年度計画	進捗状況	実績（進捗状況の判断理由）						
(その他)	—	—	(1) 金融資産の保有状況 金融資産の名称と内容、規模、保有の必要性（事業目的を遂行する手段としての有用性・有効性） <table><tr><td>名 称</td><td>金 額</td><td>必要性等</td></tr><tr><td>現金及び預金</td><td>4,812,902 千円</td><td>共通テスト業務等に係る経費に充当。</td></tr></table> (2) 資産の売却や国庫納付等を行うものとなった金融資産の有無 該当なし。 (3) 資金運用の実績 安全かつ効率的な運用により、令和 6 年度には 5, 130 千円の運用益を得た。 (4) 資金運用の基本的方針（具体的な投資行動の意志決定主体、運用に係る主務大臣・法人・運用委託先間の責任分担の考え方等）の有無とその内容 資金の適正な管理及び安全かつ効率的な運用を図ることを目的として、資金運用原則や運用方法等を定めた「資金運用方針」を制定している。 (5) 資産構成及び運用実績を評価するための基準の有無とその内容 大口定期預金による運用のみで行っていることから、資産構成及び運用実績を評価するための基準までは設けていない。 (6) 資金の運用体制の整備状況 「資金運用方針」により、資金計画に基づく安全運用を行うこととしている。 (7) 資金の運用に関する法人の責任の分析状況 資金の不足を生じることなく、安全かつ効率的な運用を行うこととしている。 (8) 貸付金・未収金等の債権と回収の実績 該当なし。 (9) 知的財産の保有の有無及びその保有の必要性の検討状況 ① 知的財産の保有の有無 特許権 2 件。 ア 発明の名称：リスニングテストに用いられる文書情報再生システム及び該文書情	名 称	金 額	必要性等	現金及び預金	4,812,902 千円	共通テスト業務等に係る経費に充当。
名 称	金 額	必要性等							
現金及び預金	4,812,902 千円	共通テスト業務等に係る経費に充当。							

			報再生システムに用いられる問題用紙 イ 発明の名称：試験問題閲覧システム ② 保有の必要性 保有の必要性については、出願前にセンターに設置した発明委員会において検討している。この2件については、本発明の特許権を他の企業等が取得することにより、センターでの利用に支障が生じることを防ぐため保有する必要があると判断したものであり、今後は、情報技術の進展等を踏まえながら、適宜、保有の必要性について検討する。 (10) 知的財産の整理等を行うことになった場合には、その法人の取組状況／進捗状況 令和4年度まで保有していた採点補助システムの特許権について、当該システムを使用する予定が無いことから消滅させた。 (11) 出願に関する方針の有無 発明等に係る知的財産権の取扱いに関する基本的事項を定め、調査研究の成果の社会的活用を図ることを目的として、「独立行政法人大学入試センター発明等に係る知的財産権取扱規則」（令和4年3月規則第25号。以下「知的財産権取扱規則」という。）を制定している。 (12) 出願の是非を審査する体制整備状況 知的財産権取扱規則に基づき、職員等が行った職務発明等の審査を行うため発明委員会を設置している。 (13) 活用に関する方針・目標の有無 現在、保有している特許権は、本発明の特許権を他の企業等が取得し、センターでの利用に支障が生ずることを防ぐために保有しているものであるため、活用に関する方針・目標については、未整備である。 (14) 知的財産の活用・管理のための組織体制の整備状況 前述の発明委員会において、センターが承継した発明等の管理及び処分の審査を行う。 (15) 実施許諾に至っていない知的財産について 現在、保有している特許権は、本発明の特許権を他の企業等が取得し、センターでの利用に支障が生ずることを防ぐために保有しているものであり、実施許諾による自己収入増を考慮したものではない。 (16) 中期目標期間を超える債務負担とその理由 該当なし。
--	--	--	--